

アメリカ社会と福祉制度

担当教員 知名孝、保良昌徳、ダグラス・ラミス、松本哲司、吉本葵美（計5名でオムニバス担当）

対象学年 2年

開講時期 後期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉実践は国民を対象としたドメスティックなサービスである。それゆえに、その実践・制度の国際比較から大きなものが得られる。アメリカはさまざまな点で、我が国との比較研究の対象となっており、福祉実践・制度も例外ではない。本講義では日米比較から、我が国の社会福祉実践・制度に関してどのような課題と展望が見えてくるのかに焦点をあて、今後の日本の社会福祉のあり方について議論を進めていく。複数名の講師による、異なった分野に関しての日米比較を行っていくこととする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	知名孝：講義オリエンテーション
2	知名孝：映画：Sicko
3	知名孝：映画：Sicko+アメリカの医療制度と問題点
4	ダグラス・ラミス：アメリカ社会の構造とその特徴（1）
5	ダグラス・ラミス：アメリカ社会の構造とその特徴（2）
6	ダグラス・ラミス：アメリカ社会の構造とその特徴（3）
7	知名孝：精神医療・精神保健福祉に関して、日米比較
8	保良昌徳：アメリカの福祉制度のながれと概要（1）
9	保良昌徳：アメリカの福祉制度のながれと概要（2）
10	保良昌徳：アメリカの福祉制度のながれと概要（3）
11	松本哲司：アメリカの高齢者福祉（1）
12	松本哲司：アメリカの高齢者福祉（2）
13	吉本葵美：アメリカのある知的障害者福祉施設（1）
14	吉本葵美：アメリカのある知的障害者福祉施設（2）
15	まとめ（シンポジウム方式）
16	

【履修上の注意事項】

複数の講師がそれぞれの課題評価を出すので、欠席や課題の未提出には注意を要する。

【評価方法】

講義の出席、課題の提出、および試験等で評価を行う。各講師の評価と学期末の試験ないし課題で評価を行う。

【テキスト】

講義のなかで指示する。

【参考文献】

講義のなかで紹介していく。

医療福祉論Ⅱ

担当教員 樋口 美智子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

- 1 障害の概念、生活障害とソーシャルワーク、家族の理解
- 2 危機状況に陥りやすい背景をもつ人々への援助
- 3 周産期における課題と援助
- 4 新生児期・乳幼児期・学童期における課題と援助
- 5 思春期・青年期における課題と援助
- 6 壮年期・老年期における課題と援助
- 7 ソーシャルワーク記録とは何か
- 8 ソーシャルワーク実践のための面接技法
- 9 ケース スタディ①（ロールプレイ）
- 10 信頼関係を結ぶ面接技術①②
- 11 ケース スタディ②（ロールプレイ）
- 12 核心をはずさない相談援助面接の技法①
- 13 核心をはずさない相談援助面接の技法②
- 14 ケース スタディ③（ロールプレイ）
- 15 ターミナルケアにおける面接
- 16 （補講・試験・追試験）

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。
医療福祉論Ⅰを履修済であることが望ましい。

【評価方法】

出席日数、授業への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

大本和子・田中千枝子・大谷昭・笹岡真弓著、『医療ソーシャルワーク実践50例－典型的実践事例によるわかり易い医療福祉－』/川村隆彦著、『支援者が成長するための50の原則－あなたの心と力を築く物語－』

介護概論

担当教員 長嶺 利子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

少子・高齢社会の進展に伴い介護問題は、社会福祉事業の重要な課題とされる。そのことから、社会福祉構造の変遷と介護の推移、介護問題（フォーマル・インフォーマル）や介護の専門性・理論性・原理性と要介護者の理解、生活（QOL, 自立）支援並びに関係職種・関係機関とのチームワーク・ネットワークの関わりや地域福祉との今後の課題等々を理解し、人間福祉に関する専門知識、援助態度を養う。

【授業の展開計画】

テキストによる講義主体とする。テキストにない事業内容については、プリント資料をもって行う。介護の基本・地域保健・福祉の理解を深めるため、課題提出とグループワークやミニテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション・学生理解（アンケート）
2	介護の働き 介護の定義・介護の歴史・介護の機能
3	介護職の倫理 介護の原則
4	介護と社会福祉、家政、看護・医療との関係
5	介護関係維持のための技法 健康や生活の観察（観察の基本、具体的な観察の内容）
6	コミュニケーションの基本と対象者の状況に合ったコミュニケーション技法
7	記録と情報の共有化の技法 記録の目的、留意点、種類、情報の共有化
8	ケアマネジメントと介護活動、システム導入の背景、プロセス、方法、活動の意義や機能
9	ケアプラン（介護サービス計画）と介護過程、問題解決手法の利点や留意点、構成要素
10	社会生活を維持する技法、健康な生活習慣づくりへの援助
11	療養時の対応、緊急事故時の対応
12	介護家族への援助、福祉用具の活用、終末期の援助
13	障害形態に応じた介護技法、視覚・聴覚・精神障害者・認知症（痴呆）高齢者への介護
14	在宅・施設介護の実際（サービスの意義と基本理念、展開過程と留意点、事例）
15	学期末試験（筆記）
16	試験の解答 まとめ

【履修上の注意事項】

テキスト持参、予習・復習、提出物、目的意識を持って参加する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の得点、課題及びレポートを総合して評価する。

【テキスト】

【参考文献】

新版・社会福祉学習双書《第13巻》「介護概論」 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 2002年
 社会福祉選書12「介護概論」 健帛社 平成16年、新介護福祉士養成講座15「資料編」 中央法規2009年
 介護福祉士初任者のための実践ガイドブック 日本介護福祉士会初任者研修テキスト 中央法規2007年

介護技術 I

担当教員 見城 育夫 (世話役：知名 孝)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、介護技術の実技を含めた演習方式の授業により、対象者の生活場面の理解を深めると同時に、介護技術の実践的活用に力点を置きながら、基本的な介護技術を適切に展開とはどういうことなのかについて理解を深めていく

【授業の展開計画】

- 1回：授業の進め方、対象者の理解と生活支援について
- 2回：職業倫理と支援の専門性について
- 3回：対象者が生活する居宅及び各種施設の特性と生活環境について
- 4回：腰痛予防、ボディーメカニクスについて
- 5回：健康状態の確認について
- 6回：体位の種類と特徴について
- 7回：体位交換と褥瘡予防について
- 8回：ベッドメイキングについて
- 9回：健康状態の確認について
- 10回：医療機関受診時の対応について
- 11回：立ち上がり・歩行介助について
- 12回：移乗・車いす移動介助について
- 13回：排泄介助について
- 14回：入浴介助について
- 15回：食事介助について
- 16回：まとめ・試験

【履修上の注意事項】

今年度前期開講の「介護概論」がこの講義の履修条件になります。

講義中の服装は、動きやすい服装（上着はTシャツ・ポロシャツ、ズボン：ジャージ・トレパン）

【評価方法】

出席、課題、講義中の参加態度、最後の試験（実技試験含む）によって評価する

【テキスト】

【参考文献】

授業の中で紹介する。

介護技術Ⅱ

担当教員 一見城 育夫

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、介護技術の実技・演習を中心として、対象者の生活場面の理解を深め、介護技術の実践的活用に重点をおきながら進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業の進め方、対象者の理解と日常生活における介護場面の理解について
2	職業倫理と支援の専門性について
3	対象者が生活する居宅及び各種施設の特徴と生活環境について
4	立ち上がり・歩行介助について
5	ベットメイキング及び環境整備について
6	体位変換と褥瘡予防について
7	外出時の対応について
8	社会参加への支援について
9	排泄介助について①
10	排泄介助について②
11	移乗介助について①
12	移乗介助について②
13	入浴及び身体清潔への配慮について
14	入浴及び洗髪介助について
15	まとめ
16	総合実技試験

【履修上の注意事項】

今年度前期開講の「介護概論」がこの講義の履修条件になります。

講義中の服装は、スカートは不適切ですが、その他は動きやすい服装であれば特に制限は設けません。

【評価方法】

出席、積極的な参加態度、最後の試験の結果によって評価する。

【テキスト】

授業ごとにプリントを準備し配布する。

【参考文献】

授業の中で紹介する。

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

〈家族〉を社会的に視る力をつける。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 多様な家族
3. 〈子ども〉という存在 (1)
4. 〈子ども〉という存在 (2)
5. 愛・性・結婚・家族 (1)
6. 愛・性・結婚・家族 (2)
7. 愛・性・結婚・家族 (3)
8. 母性という神話 (1)
9. 母性という神話 (2)
10. 近代家族と〈古い〉
11. 近代家族とアディクション (1)
12. 近代家族とアディクション (2)
13. 近代家族とコミュニティ
14. 贈与交換と家族 (1)
15. 贈与交換と家族 (2)
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。なお講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

〈家族〉を社会的に視る力をつける。特に日本の家族と沖縄の家族に焦点を当てる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス
2	通い婚
3	永続する家意識
4	国民国家と家族（1）
5	国民国家と家族（2）
6	国民国家と家族（3）
7	経済と家族（1）
8	経済と家族（2）
9	経済と家族（3）
10	スピリチュアリティと家族（1）
11	スピリチュアリティと家族（2）
12	スピリチュアリティと家族（3）
13	コミュニティと家族
14	ポストモダンの家族
15	贈与交換と家族
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。なお講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族心理学

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちは一生のうち、いつかは何らかの家族生活を経験する。家族については誰でもわかっているようでいて、実は人々が考える家族のあり方は同一ではない。この講義では、家族の諸相を心理学的な視点で検討した実証研究や、家族全体を相互に関わりあう関係性（システム）の視点から検討した援助実践を紹介する。その上で、家族間に起こっていることを、家族を取り巻く社会状況や、家族のライフステージ、家族が置かれている関係性の中で理解するとともに、支援を求める家族に対してどのような心理的援助が可能であるのかについて検討することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	家族心理学の課題
2	家族の心理構造（1）
3	家族の心理構造（2）
4	家族システム理論
5	家族の発達過程（1）
6	家族の発達過程（2）
7	多世代関係の心理
8	親子関係と家族心理
9	夫婦関係と家族心理
10	子どもの単立ちと家族心理
11	家族イメージと家族関係（FIT;ファミリーイメージテスト体験）
12	家族関係への心理的援助（1）
13	家族関係への心理的援助（2）
14	家族援助の実際（1）（DVD視聴と解説）
15	家族援助の実際（2）（DVD視聴とディスカッション）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

主体的な態度・姿勢で学ぶこと。

【評価方法】

出席状況、課題の提出状況、学期末試験の結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料を配布する。

【参考文献】

中釜・野末・布柴・無藤（著）「家族心理学-家族システムの発達と臨床的援助-」有斐閣ブックス

看護学概論

担当教員 一垣花 美智江

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

フローレンス・ナイチンゲール（1820～1910）は、「看護がすべきことは、自然が患者に働きかけるための最善の条件下に患者を置き、生命力の消耗を最小限にすることである。」と定義している。この看護の定義をひもどきながら、看護の知識を構築する土台となる看護の本質、基本概念「人間」「健康」「環境」「看護」、看護の歴史の変遷について学び、看護の役割と機能について理解を深める。
また、看護に関らず広くヒューマンケアを職業とする専門職者としてのケアの原点について理解を深めることを狙いとしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業のガイダンス, フローレンス・ナイチンゲールを知る
2	看護のさまざまな定義, 看護の歴史
3	看護とは何か, 看護学が扱う領域
4	看護のさまざまな役割と機能, ・資格と責務, ・看護のキャリア
5	人間とは
6	生活とは
7	健康とは
8	環境とは
9	専門職とし看護を支えているもの
10	倫理とは
11	倫理的行動決定とは, 倫理的ジレンマ (事例)
12	ヒューマンケア
13	・職業、資格
14	・役割、機能, 21世紀の看護・福祉ケア
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

筆記試験、レポート、授業態度・出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

「ナイチンゲール看護論入門」金井一薫 著 現代社出版
「看護覚え書き」フロレンス・ナイチンゲール著、小玉 香津子訳 出版看護協会出版界
「ライフサポート」スザンヌゴードン著 看護協会出版会

外国語演習 I

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 精神保健
- 3 週目 精神保健
- 4 週目 精神保健
- 5 週目 心理アセスメント
- 6 週目 心理アセスメント
- 7 週目 カウンセリング
- 8 週目 カウンセリング
- 9 週目 カウンセリング
- 10 週目 集団心理療法
- 11 週目 集団心理療法
- 12 週目 集団心理療法
- 13 週目 虐待、ドメスティックバイオレンス、神話
- 14 週目 虐待、ドメスティックバイオレンス、神話
- 15 週目 全体のまとめ

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

参考文献は講義の中で紹介する。

外国語演習 I

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

欧米からきた心理学は英語で触れることによってその専門用語・理論の由来・歴史などを理解することができる。また将来的に英語の文献を読む際に、この授業で学んだ心理学英語が役立てればと思う。心理学・カウンセリングと関連のある幅広い分野を読む。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 So you want to become a psychologist?
- 3 週目 So you want to become a psychologist?
- 4 週目 The Role and Responsibility of Psychologists
- 5 週目 Projective Tests of Psychology
- 6 週目 Objective Tests of Psychology
- 7 週目 Abnormal Psychology
- 8 週目 Abnormal Psychology
- 9 週目 Abnormal Psychology
- 10 週目 Obsessive-Compulsive Disorder
- 11 週目 Obsessive-Compulsive Disorder
- 12 週目 Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosa
- 13 週目 Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosa
- 14 週目 Laughter and Health
- 15 週目 Laughter and Health/ Review
- 16 週目 期末テスト

【履修上の注意事項】

英語辞書を持参すること

【評価方法】

出席状況/クイズ/レポート/期末テスト

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

外国語演習Ⅰで学んだものを元に、心理学関連の時事英語や研究論文を読みこなすことがこの授業のねらいである。最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことは、実践現場で働きながら大いに役立つことがある。

【授業の展開計画】

1週目	登録・オリエンテーション		
2週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ①
3週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ②
4週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ③
5週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ④
6週目	DSM	原書講読	①
7週目	DSM	原書講読	②
8週目	DSM	原書講読	③
9週目	DSM	原書講読	④
10週目	研究論文	原書講読	①
11週目	研究論文	原書講読	②
12週目	研究論文	原書講読	③
13週目	研究論文	原書講読	④
14週目	研究論文	原書講読	⑤
15週目	全体のまとめ		

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

American Psychiatric Association. (1994). Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: Fourth Edition. その他、参考文献は講義の中で適宜紹介する。

外国語演習Ⅱ

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期は乳児・児童の精神疾患について理解を深める。また、ビデオを見ながら自閉症とアスペルガーについても学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 ADHD
- 3 週目 ADHD
- 4 週目 Conduct Disorder
- 5 週目 Conduct Disorder
- 6 週目 Autistic Disorder
- 7 週目 Autistic Disorder
- 8 週目 Asperger's Disorder
- 9 週目 Asperger's Disorder
- 10 週目 Down Syndrome
- 11 週目 Down Syndrome
- 12 週目 Tourette's Disorder
- 13 週目 Tourette's Disorder
- 14 週目 Tic Disorder
- 15 週目 Tic Disorder
- 16 週目 期末試験

【履修上の注意事項】

英語辞書を持参すること

【評価方法】

出席状況/クイズ/レポート/期末テスト

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

学習心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する基本的概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション/学習心理学とは
- 2 学習心理学の歴史と心理学の中での位置づけ
- 3 //
- 4 記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）
- 5 //
- 6 記憶の定着（リハーサルと符号化）
- 7 記憶の忘却
- 8 生得的行動パターン
- 9 馴化の基本原理
- 10 古典的条件づけの基本原理
- 11 //
- 12 CS-USの随伴性及び高次条件づけ
- 13 古典的条件づけの臨床への応用
- 14 //
- 15 古典的条件づけにおける生物学的制約 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学 I、II を続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が 2 / 3 に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著 磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学習心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけに関して概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や基本概念、臨床への応用や、我々の日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 オペラント条件づけの基本原理
- 3 "
- 4 オペラント条件づけの生物学的制約
- 5 "
- 6 強化スケジュール
- 7 "
- 8 回避と罰
- 9 "
- 10 オペラント条件づけの理論と研究
- 11 "
- 12 模倣理論
- 13 パーソナリティ形成と観察学習
- 14 恐怖症や認知的発達と観察学習
- 15 観察学習の臨床への応用 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学Ⅰを先に履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」 ジェームズ・E・メイザー著 磯 博行/坂上貴之/川合伸幸 訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学校臨床心理学

担当教員 牛田 洋一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）
3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）
4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学
5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコジストとスクールカウンセラー
6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）
7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）
8	学校臨床最前線から（1）いじめ
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場
10	学校臨床最前線から（1）不登校
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為
12	学校での今日の問題（1）：発達障害
13	学校での今日の問題（2）：選択性緘黙
14	学校での今日の問題（3）：その他の問題
15	まとめ：学校臨床心理学とは
16	試験

【履修上の注意事項】

臨床心理学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の単元ごとに資料を配付する予定である。

【参考文献】

講義時に適宜紹介していく。

基礎演習

担当教員 保良 昌徳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

クラスでは、主にグループでの活動を通して、大学の学究活動に必要な検索力、資料収集能力、資料の分析や資料のまとめ方、さらにレポートや論文に関する理解や作成の方法、論理的な発表能力などを養うことを目的とする。

後半は、分析的な視点や資料に基づく立論、他人の意見の傾聴、批判的考察や討論する力を育てるために、社会福祉をテーマとした「ディベート」を行う。

【授業の展開計画】

1. 後期の講義の持ち方の確認。
2. テーマの設定とグループ化を図る。
3. 上記の報告の完了
4. 課題に関係する第一次資料について考え、調査計画を立てる
5. 図書館で自分が求める資料の検索し実物に触れ入手を試みる
6. 県庁・議会資料室を訪問、関連する公的資料の入手を試みる
7. 資料の確認とまとめ作業とレポートの書き方等を、実物を通して理解する
8. 分析（自分の資料から読み取れること）とまとめ作業、レポート作成
9. レポートの提出。レポートと論文の違い等について理解する
10. ディベートの意義と方法について理解・テーマの提示
11. ディベートに関わるグループ作業
12. ディベートに関わるグループ作業
13. ディベート① 総括
14. ディベート② 総括
15. 学んだことのふり返り・再確認
16. 資料の整理・報告書の作成

【履修上の注意事項】

1. 夏期休暇中に、フレッシュマンセミナーでの取り組み等を参考に、課題等についてまとめておくこと。
2. グループ活動が中心になるので、互いに協力しチームワークを保つこと。

【評価方法】

1. 出席や遅刻、レポートの提出状況に対しては厳しく対応する。
2. グループ活動に支障をきたさないように注意すること。

【テキスト】

- *必要に応じて配布する。
- *レポートや論文の書き方に関する本に目を通すこと。

【参考文献】

- *レポートの書き方、論文の書き方に関する文献 (自主的に目を通す)
- *ディベートの意義・すすめ方に関する文献 (自主的に目を通す)

基礎演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学の講義・演習で求められるレポート作成やゼミ発表等々の方法を学ぶと共に、大学の勉強の特徴について理解する。

ゼミメンバーどおしが高めあい、互いに成長しあえる環境の中で、視野を広げる場になることを期待する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

本科目は、大学の講義で求められる基礎的な方法を共に学ぶ場です。ひとりひとりが積極的にゼミ活動に参加することが求められます。

【評価方法】

出席、ゼミ活動への参加度、レポートなどの提出状況、

【テキスト】

随時、資料を配付する予定

【参考文献】

基礎演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は各自の大学生活へのスムーズな適応や、有意義な大学生活が送れるよう、基礎的能力を養うこととする。

【授業の展開計画】

演習計画については、初回の演習時に説明を行う。講義期間中には「合同ゼミ」が何度か予定されている。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	文献を使いこなす・文献の探し方 I
3	研究論文の読み方 I
4	研究論文の読み方 II
5	レポートを書く技術 I
6	レポートを書く技術 II
7	専門演習について I
8	専門演習について II
9	口頭発表の仕方
10	グループ発表 I
11	グループ発表 II
12	グループ発表 III
13	グループ発表 IV
14	グループ発表についての振り返り
15	講義全体の振り返り
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしない。

【評価方法】

出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

【参考文献】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
演習に応じて適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」から引き続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。以上8つの力を総じて、初年次で大学生のための基礎力修得を目標とする。

【授業の展開計画】

基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。

- ①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。
- ②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。
- ③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。
- ④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。
- ⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。
- ⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。
- ⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。

また、基礎演習では2年次の専門演習に向けたオリエンテーションや、桃原ゼミ2～4年次との親睦交流および情報交換の場をつくり、ゼミが大学生活の拠り所になるようなプログラムも予定している。

【履修上の注意事項】

フレッシュマンセミナーにおいて、桃原ゼミを履修した学生のみが登録できることを原則とする。

【評価方法】

以下の構成で総合的に評価する。出席時数（30%）、受講態度・グループ学習および発表への取り組み姿勢（30%）、グループおよび個人に課せられた課題の内容（40%）。

【テキスト】

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

【参考文献】

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

基礎演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高校までの勉強は、既存の知識を「学」ぶことに重点がおかれてきたが、大学では将来に向けての専門知識を学習するだけでなく、その知識が正しく理解できたかどうかを問う、確認する能力やあらたに問題を発見し、その解決方法を見いだす能力を身につけていくことが求められる。本講義では「学」ぶ、そして「問」う能力の基本となる、読む、書く、話す、聞くことを中心にゼミを展開する。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	ゼミメンバー紹介・仲良くなるろう
3	グループエンカウンター1 自己覚知
4	グループエンカウンター2 リチュアルエクササイズ
5	グループエンカウンター3 他者紹介
6	グループエンカウンター4 将来願望
7	他ゼミとの合同ゼミ
8	グループワーク1 県内社会福祉施設を調べる
9	グループワーク2 県内社会福祉施設を見て学ぶ
10	グループワーク3 専門演習Ⅰ希望ゼミについて学ぶ
11	グループワーク4 専門演習Ⅰゼミについて皆で共有する
12	学外講師招聘
13	グループワークまとめ1 報告会に向けて準備①
14	グループワークまとめ2 報告会に向けて準備②
15	グループワーク報告会
16	振り返り

【履修上の注意事項】

読む、書くことによって自分の意見をまとめ、発表によって話す態度を、他の発表を聞くことによって傾聴の態度が身につくことを念頭にゼミ活動には積極的に参加してほしい。

【評価方法】

出席回数を客観的評価指数とし、その他に意見発表、傾聴姿勢、レポート提出などを含めて総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。資料は随時配布する。

【参考文献】

演習時間に随時紹介する。

基礎演習 A

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。前期は大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主となる。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などである。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの基礎力を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討論する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりする機会を通して学ぶことの面白さを発見しながら、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力を修得していきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。大学生としての学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。

ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけましょう。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。
大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。
基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
 - 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
 - 3、レポートの書き方についてのワーク
 - 4、大学で「学ぶ」とは
 - 5、キャリア形成についてのワーク
- 他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前期の学びを通して大学への適応力と大学で学ぶための基礎力を身につけてきていると思われます。後期のゼミでは、心理学の理論や用語、思考法を用いて、日常の心理学的現象を説明する力を身につけます。具体的には、個別ゼミでの調べ学習および発表会を通して、心理学理論を日常の心理現象に適用する課題と、逆に、日常の心理現象から心理学理論を導く課題、この2種類をグループワークを通して学んでいきます。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明します。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

- ・ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。
- ・遅刻や欠席等、出欠状況が特に重視されます。
- ・ライティング課題など、きちんと課題をこなし、提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介します。

基礎演習 B

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。特に、基礎演習 B では、A の「書く」力に加えて、心理学の重要用語を取り上げて「調べる」「まとめる」「発表する」力をつけることを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
- 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
- 3、レポートの書き方についてのワーク
- 4、キャリア形成のワーク

他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題提出・発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で身につけた基本的な学習スキルを活用して、さらに学びを深めていくことを目的とする。後期は、心理学の理論・学術用語をわかりやすく解説したり、日常生活で体験する出来事を心理学の理論・学術用語で説明したりするような課題を通して、必要な情報を収集・検索する力、文献を読みこなす力、調べたことをまとめたり、発表したりする力、相手の意見を聞き討論する力などを育成する。これらの課題を通して、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力をより向上させていきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための力（基本的スキル）と心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけることを目的とする。

後期は、大学で学ぶための力をさらに高めていく。特に、心理学の知識と日常を結びつけて考える課題に取り組むようなゼミ活動が主となる。前期に身につけた学びの力を活用し、心理学の主要なテーマについて、調べ、読み、考え、話し合い、書き、発表する。ゼミの参加者全員で、課題に主体的に取り組むことで、学ぶ力を高め、心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは、特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は、講義時に適宜紹介する。

キャリア・カウンセリング

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	キャリア発達の各アプローチ
3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン/ライフ・スペース理論的アプローチ」
4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」
5	ジョン・クルンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」
6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」
7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」
8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジッション」
9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」
10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」
11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」
12	キャリア教育
13	キャリア教育
14	産業カウンセリング
15	産業カウンセリング
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯使用不可。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況，受講態度，課題を総合的に評価する。

【テキスト】

渡辺 三枝子 (2009) 「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」
ナカニシヤ出版

【参考文献】

Richard N Bolles (2011) What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers

教育心理学 I

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育心理学」とは、学び手が自分の能力を最大限にまで伸ばし成長・発達するための援助方法について研究する心理学の領域である。本講義では、教育心理学の主要な理論と知識を概説し、教育行為実践力の養成を行いたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	オリエンテーション:教育心理学とは	(教科書 第1章)
2	発達①	(教科書 第2章)
3	発達②	(教科書 第2章)
4	発達③	(教科書 第2章)
5	障害児の心理と特別支援教育①	(教科書 第12章)
6	障害児の心理と特別支援教育②	(教科書 第12章)
7	パーソナリティ理論①	(教科書 第8章)
8	パーソナリティ理論②	(教科書 第8章)
9	パーソナリティ理論③	(教科書 第8章)
10	パーソナリティ理論④	(教科書 第8章)
11	パーソナリティ理論⑤	(教科書 第8章)
12	教育評価の目的・種類	(教科書 第6章)
13	不適応と心理臨床①	(教科書 第11章)
14	不適応と心理臨床②	(教科書 第11章)
15	グループワーク	
16	テスト	

【履修上の注意事項】

- ・この講義は教職科目ではありませんので、注意してください。
- ・グループワークがありますので、受講にあたっては積極的な姿勢で臨んでください。

【評価方法】

出席、授業態度、ワークシート、テストで総合評価します。

【テキスト】

『たのしく学べる最新教育心理学～教職にかかわるすべての人に』 桜井茂男（編）2003 図書文化
※この教科書は、後期の「教育心理学Ⅱ」（竹村先生）でも使用します。

【参考文献】

『やさしい教育心理学 改訂版』 鎌原・竹綱（著） 有斐閣アルマ
その他、講義中に紹介します。

教育心理学Ⅱ

担当教員 竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育心理学」とは、「(教育の)対象となる人々の発達を促す働きかけ」に関する心理学の領域である。ここでは、①人々の発達の特徴および②発達を促す効果的な働きかけ、③発達に困難を抱える人々への支援、などについて、考えることが重要なテーマとなっている。本講義では、学習や生活の中での「やる気」を中心に、その発達の特徴と効果的な働きかけについて皆で考えることを主な目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容		
1	オリエンテーション：教育と発達の心理学について		
2	第3章 やる気を高める	1	動機づけと欲求
3	第3章 やる気を高める	2	学習意欲
4	第3章 やる気を高める	3	無気力
5	第4章 学習のメカニズム	1	学習の基礎としての条件付け
6	第4章 学習のメカニズム	2	学習における記憶の役割
7	第5章 授業の心理学	1	学習指導の理論
8	第5章 授業の心理学	2	協同学習
		3	学習の個性化
9	第7章 知的能力を考える	1	知的能力の発達
10	第7章 知的能力を考える	2	知的能力の測定
11	第7章 知的能力を考える	3	創造性 認知スタイル
12	第9章 社会性を育む	1	向社会行動
		2	道徳性
13	第9章 社会性を育む	3	親子関係の発達
		4	仲間関係
14	第10章 学級の心理学	1	学級の心理学
		2	教師と子どもの関係
15	第10章 学級の心理学	3	子ども同士の仲間関係
16	テスト		

【履修上の注意事項】

- ・この講義は教職科目ではないので、注意すること。
- ・「教育心理学I」を履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

- ・出席、授業態度、小レポート、テストで総合評価する。

【テキスト】

・桜井茂男（編） 2003 たのしく学べる最新教育心理学 教職にかかわるすべての人に 図書文化 ISBN978-4-8100-3419-6

【参考文献】

- ・講義の中で紹介する。

グループアプローチ

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集団心理療法の技法を利用したグループ活動を行う。具体的には、レクリエーション的活動、ロールプレイング、心理劇(ソシオドラマ)の実習を行う。集団の成員が相互に影響を及ぼしあうこと、他者とのコミュニケーション、自発性や創造性の発揮、自己理解と他者理解、集団場面での自分の役割、集団場面でのリーダーのあり方について体験的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	対人交流を目的としたグループ活動①
3	対人交流を目的としたグループ活動②
4	対人交流を目的としたグループ活動③
5	対人交流を目的としたグループ活動④
6	自己理解・他者理解を目的としたグループ活動①
7	自己理解・他者理解を目的としたグループ活動②
8	自己理解・他者理解を目的としたグループ活動③
9	自己理解・他者理解を目的としたグループ活動④
10	自発性の発揮を目的としたグループ活動①
11	自発性の発揮を目的としたグループ活動②
12	自発性の発揮を目的としたグループ活動③
13	ソシオドラマ①
14	ソシオドラマ②
15	ソシオドラマ③
16	まとめ

【履修上の注意事項】

グループ活動の実践が中心になるので、参加メンバーとの相互の積極的交流が求められる。活動中も意見や感想を述べる機会が多く与えられる。積極的に他のメンバーと交流し、発言し、他者との関わりを楽しんでほしい。身体運動を伴う活動も行うので、それにふさわしい服装で参加すること。

【評価方法】

出席状況、授業での活動への取り組みと毎回提出するミニレポート、期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

適宜配布資料を用意する。

【参考文献】

臨床心理劇入門 台利夫 ブレーン社
SSTウォーミングアップ活動集 前田ケイ 金剛出版

ケアマネジメント論

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域における相談支援体制が構築されるなか、計画相談の導入、退院促進支援、地域生活定着支援など、ケアマネジメントによる支援構築の重要度が近年さらに増してきている。この講義では、ケアマネジメントとは何か、どのような実践理論にもとづいて展開される支援なのかを、日常地域において実践している複数の相談支援専門員を講師に具体的なレベルで講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の導入（知名孝）
2	ケアマネジメント総論（溝口哲哉）
3	ケアマネジメント総論（津波古悟）
4	ケアマネジメント総論（溝口哲哉）
5	ニーズアセスメント（熊谷晋）
6	ニーズアセスメント（熊谷晋）
7	ニーズアセスメント（熊谷晋）
8	プランニング（玉城博一）
9	プランニング（玉城博一）
10	プランニング（玉城博一）
11	モニタリング（安村勤）
12	モニタリング（安村勤）
13	モニタリング（安村勤）
14	資源開発と自立支援協議会（前川佳恵）
15	資源開発と自立支援協議会（前川佳恵）
16	資源開発と自立支援協議会（前川佳恵）

【履修上の注意事項】

この講義はオムニバス方式ですすめていき、各講師がそれぞれの講義内容に基づいて課題を課していき、それを評価の対象とする。

【評価方法】

出席、講義中に行われる課題・グループワークへの参加態度、各講師から出される課題の提出などを総合的に加算して評価を行うものとする。

【テキスト】

講義のなかで指定する。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

健康スポーツ科学論

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義）
2	健康とは①（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
3	健康とは②（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
5	適切な生活習慣②（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）
7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
8	健康・体力の維持増進②（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
10	競技スポーツのトレーニング②（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
12	栄養と健康・スポーツ②（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
13	運動・スポーツの安全性（体温調節、熱中症、ウォーミングアップ、ストレッチング）
14	運動・スポーツによる外傷、障害（スポーツ障害と予防、救命救急、応急処置）
15	女性・高齢者の健康とスポーツ（女性・高齢者の運動の重要性、女性、中・高齢者の生理的特徴）
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する

【テキスト】

健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院

【参考文献】

講義で適宜紹介

権利擁護と成年後見制度

担当教員 照屋 俊幸

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

高齢者虐待や高齢者を狙い打ちにした消費者被害が起こっている。社会福祉の専門家を志す人は、このような出来事に心情的に思いを寄せるだけでなく、現実には、高齢者の利益を守る活動に出る必要がある。そのためには、認知症高齢者等の権利擁護の担い手としては、どのような者がいるのか、それぞれどのような役割を果たすことが期待されているのかを知らなければならない。とりわけ成年後見制度の仕組みと狙いを理解することが重要である。この講義では、ビデオ上映や現場で活躍する人の生の声を聞き、具体的な場面をイメージしながら法律制度の仕組みを「考えて」もらうことを主眼とする（そのため、講義では、受講生に対し講師からの質問が日常的

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	各回の講義内容の予告等、使用テキスト、受講上の注意点等
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	期末試験
16	試験問題の解説等

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験の結果を最重視する。ただし、講義の前半で実施される試験の結果は、評価の対象としない。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 『権利擁護と成年後見制度』（第2版）、中央法規

【参考文献】

芸術療法

担当教員 中山 さおり

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法の方法です。「芸術」というと人によっては高尚なものをイメージするかもしれませんが、子どもが絵をかき歌い工作することを楽しむような、人の自然な活動を生かしていこうとするものです。芸術療法には多くの種類がありますが、本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味、非言語的な人とのやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、芸術療法概説①
2	芸術療法概説②
3	絵画療法 ①
4	絵画療法 ②
5	絵画療法 ③
6	絵画療法 ④
7	絵画療法 ⑤
8	コラージュ療法 ①
9	コラージュ療法 ②
10	コラージュ療法 ③
11	コラージュ療法 ④
12	詩歌療法 ①
13	詩歌療法 ②
14	詩歌療法 ③
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・実習では共同作業や話し合いを行うことがあります。他学生の作品を批判したり軽んじたりせず、肯定的に受けとめあい、ともに楽しむ態度を望みます。
- ・文房具や画材の持参を求めることがあります（サインペン、クーピーや色鉛筆など彩色できるもの、はさみ、のり、古雑誌など。講義で説明します）。
- ・授業の展開計画は適宜変更する可能性もあります。なお抽選となった場合は4年次より優先して行います。

【評価方法】

授業への参加姿勢、実習時のミニレポート、期末試験を総合的に評価します。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

授業で紹介していきます。

現代社会と福祉

担当教員 保良 昌徳、岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、「社会福祉」という実践そして学問としての営みを理解するための基本的パラダイムの構築を目的とする。福祉をめぐる原理・倫理の理解、福祉政策・制度の歴史とその意味、福祉実践と制度の課題、福祉実践への関連法の与える影響などをテーマに講義を組み立てていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義全体の説明・注意事項等	17	社会福祉提供システム
2	社会福祉とは何か（専門職なのか？）	18	地域福祉のパラダイムと実践
3	福祉の思想と哲学（市場原理と福祉）	19	社会福祉基礎構造と福祉実践
4	福祉の思想と哲学（自己決定と支援の哲学）	20	福祉サービス提供の意味するもの
5	福祉政策の理論と実際（行政と福祉）	21	資源の構築に向けて
6	福祉政策の理論と実際（民間事業所と資源）	22	専門家アイデンティティの功罪
7	福祉政策の理論と実際（福祉サービス）	23	援助の実際（直接対人援助）
8	福祉政策の発展過程（国外の歴史から）	24	援助の実際（集団援助と地域への介入）
9	福祉政策の発展過程（国内の歴史から）	25	援助の実際（行政との対峙と協働）
10	福祉サービス提供のパラダイム	26	
11	法制度の実践への影響	27	
12	社会福祉用語の言説（ナラティブ）	28	
13	政策としての福祉（レジームの比較）	29	
14	政策としての福祉（諸制度の比較）	30	後期テスト
15	前期テスト	31	
16	福祉が提供するもの・支援するもの		

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉問題の動きに関心を持ち、常に情報の収集に努めること。
2. レポート作成時に、他者の文章を無断で使用したことが発覚した場合は評価の対象としない。
3. 出欠確認・試験等において不正が確認（事後であっても）された場合は「不可」とする。

【評価方法】

出席、課題提出、授業態度、講義中の課題の提出にもとづき評価する。

【テキスト】

1. 『現代社会と福祉』中央法規
2. 必要に応じて資料等を配布・配信する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

現代の社会病理

担当教員 保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代社会における社会病理現象を取り上げ、その問題の構造や解決への取り組み等について学ぶ。特に本年度の講義では、現在大きな社会問題となっている「自殺」と「虐待」（児童・高齢者・施設）を取り上げ、これらの現状とその原因や防止策等について、いくつかの学問的な視点から理解するとともに、政策の現状についても理解を深める。

【授業の展開計画】

講義では、大きく「自殺」と「虐待」の2つのトピックをと取り上げ、それぞれの専門家によるオムニバス形式による講義を行う。（内容は以下を予定しているが詳細は後日提示する）

前半

- ・自殺の現状（全国・沖縄県における発生の傾向・内容等）
- ・自殺への社会学的アプローチ
- ・自殺への心理学的アプローチ
- ・自殺への医学的アプローチ
- ・自殺と法律
- ・予防への社会的取り組みと課題

後半

- ・虐待の現状（全国・沖縄県における現状等）
- ・児童虐待の現状
- ・高齢者虐待の現状
- ・その他の虐待の現状
- ・虐待と法律
- ・虐待防止への取り組みとその課題

まとめ

【履修上の注意事項】

将来、対人援助を真剣に考える学生の受講を期待する。

受講生は、二つのトピックに日頃から関心を持ち、可能な限り資料や新聞等から現状の理解に努めること。

【評価方法】

出席の状況、受講態度、レポート等の状況を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

更生保護制度

担当教員 知名 孝、他 4 名予定

対象学年 2 年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

法を犯した者が償いを終えて生きる場は、社会・地域であり、その人たちの立ち直りは地域で完結する。更生保護とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、地域生活を定着してもらうための支援あり方である。この講義では、那覇保護観察所からの講師派遣協力のもと、司法機関・制度、更生保護施設、精神科医療における医療観察制度、就労支援を含む地域生活支援のための支援機関と更正保護行政についてふれていく。

【授業の展開計画】

この講義は、1単位全8回の講義を予定している。

週	授 業 の 内 容
1	導入・刑事司法のなかの更正保護・非行犯罪臨床の概要
2	保護観察と生活環境の調整
3	更正保護制度の担い手
4	更正保護制度における関係機関・団体との連携
5	精神科医療と医療観察法
6	医療観察制度の概要
7	更正保護の実際と今後の展望
8	講義のまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

『新・社会福祉士養成講座20巻 更生保護制度』（中央法規）

【参考文献】

行動療法

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について概説する。認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	行動療法とは
2	行動療法の歴史
3	行動療法の基礎となる学習理論
4	行動療法の技法①系統的脱感作法
5	事例
6	行動療法の技法②リラクゼーション法
7	行動療法の技法③暴露反応妨害法
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング
10	認知行動療法とは、
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、思考停止法、他
14	アルコール依存の認知行動療法①
15	アルコール依存の認知行動療法②
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の事前準備として、参考文献は一読しておくこと。
 板書されたことはもちろん、授業中に話したことは、必ずノートに取ること。
 授業中の私語、携帯電話の使用は当然、認められない。

【評価方法】

成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 1700円
 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 共編 培風館 3700円

高齢者に対する支援と介護保険制度

担当教員 安次富 郁哉、保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

前期において、高齢者の特性等の理解や高齢者を取り巻く社会的環境の理解、また高齢者問題の意味や現状等を明確に把握する。さらに日本の高齢化の状況等を理解し、高齢者保健福祉施策の歴史的ながれや高齢者支援のための関係法規を習得する。また後期には、主に2000年にスタートした介護保険制度について理解し、説明できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス	17	介護保険制度① 全体像 改正介護保険法
2	高齢者を理解する① 身体と心の変化	18	介護保険制度② 改正介護保険法
3	高齢者を理解する② 高齢者の生活	19	介護保険制度③ 要介護認定のプロセス
4	少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題	20	介護保険制度④ 要介護認定のプロセス
5	老人福祉施策①	21	介護保険制度⑤ サービス体系 居宅
6	老人福祉施策②	22	介護保険制度⑥ サービス体系 居宅
7	老人福祉施策③	23	介護保険制度⑦ サービス体系 施設
8	老人福祉施策④	24	介護保険制度⑧ サービス体系
9	老人福祉施策⑤	25	介護保険制度⑨ 介護予防サービス
10	老人福祉施策⑥	26	介護保険制度⑩ 地域支援事業
11	老人福祉施策⑦	27	介護保険制度⑪ 地域密着型サービス
12	老人福祉施策の流れ①	28	介護保険制度⑫ 社会資源連携
13	老人福祉施策の流れ②	29	介護保険制度⑬ 社会資源連携
14	老人福祉施策の流れ③	30	後期振り返り
15	前期振り返り	31	筆記試験実施
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

本講義はわが国における高齢社会および高齢者を取り巻く現状を十分に理解することができる。単に受験資格科目としてではなく、高齢者を知る、高齢社会を知る、介護保険制度を知るという今高齢社会に生きる国民の基本的な知識を身につけるという認識で受講してもらいたい。本講義は前期を保良昌徳、後期安次富郁哉が担当する。

【評価方法】

前期、後期に実施する試験によって評価する。なお、出席状況も評価の対象とする。

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規 社会福祉士養成講座

【参考文献】

「国民衛生の動向」「高齢社会白書」などを参考書として指定するが、その他については講義の中で随時紹介する。

国連の機構と活動

担当教員 高嶺 豊

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

コミュニティ心理学

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①我々の生活で起きる問題をコミュニティという枠組みで捉えるコミュニティ心理学を紹介する。
 ②社会的文脈に人間存在を位置づけることで、人が本来もっている強さとコンピテンスを重視する。エンパワメント等を紹介し、問題解決への選択肢を拡げることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	コミュニティ心理学の理念①：コミュニティ心理学の定義と理念
3	コミュニティ心理学の理念②
4	人と環境の適合—生態学的アプローチ①
5	人と環境の適合—生態学的アプローチ②
6	予防：予防の種類・事例・倫理的問題
7	ストレスとレポートの書き方
8	中間試験
9	危機介入とコンサルテーション
10	ソーシャルサポートとセルフヘルプとコーピング
11	エンパワメント：定義
12	エンパワメント：具体例と批判
13	コミュニティ感覚と市民参加：コミュニティ感覚
14	コミュニティ感覚と市民参加：市民参加
15	理論と実践の連携
16	期末試験

【履修上の注意事項】

教科書必携

【評価方法】

中間試験はレポートを40点配分で行い、期末試験は穴埋め式のテストを60点配分で行う。
 中間試験と期末試験の得点を合算して評価を行う。評価＝中間試験（40点）＋期末試験（60点）
 出席は講義前に点呼で行う。講義に5回欠席したら受験資格はない。

【テキスト】

植村勝彦 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

社会科学研究法

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士として必要なレポート作成力を身につける。

【授業の展開計画】

本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に先輩の卒業論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（宿題あり。配布された卒業生の卒論コピーを読んでくること。）
2	宿題に出した卒論を解説
3	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか
4	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方
5	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた
6	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか
7	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール（3～7週にかけて宿題あり。）
8	「今、自分が興味を持っていること」について1分スピーチ
9	文献調査～レポート作成の作業
10	文献調査～レポート作成の作業
11	文献調査～レポート作成の作業
12	文献調査～レポート作成の作業
13	文献調査～レポート作成の作業
14	文献調査～レポート作成の作業
15	授業の最後に期末レポート提出
16	期末レポート返却・講評

【履修上の注意事項】

授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。

【評価方法】

課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。

【テキスト】

適宜、配布する。

【参考文献】

朝日新聞社『勉強のやり方がわかる』AERA Mook ; 98、2004年。
今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。

社会学概論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「社会学ってなに?」と考えると、すぐさま高校までの社会科を思い起こし拒絶感や虚脱感を抱く学生も少なくないはずだ。ところが、社会学とはこれまでの社会科の知識を一旦忘れても構わない。社会学は、自分自身が生きる日常世界に対して疑問や関心さえあれば誰にでも飛び込むことができる学問なのである。つまり「自分」なのである。「わたしって何者なのか、今この世の中でどう生きているのか/生かされているのか」という問いが大切なのだ。「自己」「他者」「自明性」について考える方向感覚を身につけていく作業⁷。そのものが、社会学であるともいえる。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題では教員からの発話を中心となるが、適宜、学生への発問や応答を求めることもある。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論 I への招待
2	社会学の基礎理論①—行為の理解
3	社会学の基礎理論②—自己と他者
4	社会学の基礎理論③—社会の構造と文化
5	権力論から読み解く社会学①—初級編：ヴェーバーを中心に
6	権力論から読み解く社会学②—基本編：行為・社会関係・制度
7	権力論から読み解く社会学③—フーコー I：視線と身体
8	権力論から読み解く社会学④—フーコー II：規律と管理
9	権力論から読み解く社会学⑤—応用編 I：sex、gender、sexuality
10	権力論から読み解く社会学⑥—応用編 II：行為の複数文脈性とカテゴリーの凝固
11	権力論から読み解く社会学⑦—応用編 III：高度経済成長と母性神話
12	権力論から読み解く社会学⑧—応用編 IV：アメリカ化と家父長制
13	権力論から読み解く社会学⑨—応用編 V：ナショナルな商品広告
14	権力論から読み解く社会学⑩—応用編 VI：精神安定剤としての TV ドラマ
15	社会学概論 I のまとめ
16	テストまたは補習

【履修上の注意事項】

後期開講の「社会学概論 II」から受講することも可能だが、「社会学概論 I」は II のベースとなる入門的な内容となるため、なるべく I（前期）→II（後期）の順番で受講することが望ましい。

【評価方法】

出席状況と受講態度（20%）、ミニレポート課題の提出とその内容（20%）、期末のレポート課題提出とその内容（60%）。以上の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

社会学概論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期の社会学概論Ⅰでは日常の中の権力性を読み解く視点を紹介するが、後期のⅡでは「資本」のメカニズムと社会構造との関係性について考えていく。ただし、本講義で使用する「資本」とは経済的な意味だけではなく、社会関係や文化など広い意味での「価値」や「利益」のことを意味する。とくに言説やイメージなどに依拠した文化資本の生産・消費・差異化は、社会関係や経済的地位とどのように関連しているのか、日常に見受けられるその具体的な問題を提起していく。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題では教員からの発話を中心となるが、適宜、学生への発問や応答を求めることもある。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論Ⅱへの招待
2	「資本」とは何か—文化資本を中心に社会学から考える
3	「資本」の投資とく社会>というゲームへの参加
4	「資本」の投げ方①—演技論
5	「資本」の投げ方②—発話とボキャブラリー
6	「資本」の社会学的探究①—モノの消費と自己・他者Ⅰ：モノの記号的機能
7	「資本」の社会学的探究②—モノの消費と自己・他者Ⅱ：ヨコナラビの差異化戦略
8	「資本」の社会学的探究③—差別問題を考えるⅠ：いじめも差別である
9	「資本」の社会学的探究④—差別問題を考えるⅡ：差異化と価値づけ
10	「資本」の社会学的探究⑤—差別問題を考えるⅢ：シンボルの操作とサブリメント
11	「資本」の社会学的探究⑥—差別問題を考えるⅣ：NIMBYと複雑性の縮減
12	「資本」の社会学的探究⑦—差別問題を考えるⅣ：普遍主義と差異主義のジレンマ
13	「資本」の社会学的探究⑧—メディア空間の非対称性Ⅰ：記号のencodingとdecoding
14	「資本」の社会学的探究⑨—メディア空間の非対称性Ⅱ：過剰供給されるマイノリティ表象
15	社会学概論Ⅱのまとめ
16	テストまたは補習

【履修上の注意事項】

「社会学概論Ⅰ」の未履修者が「社会学概論Ⅱ」から受講することも可能だが、ⅠはⅡの入門的な内容となるため、なるべくⅠ（前期）→Ⅱ（後期）の順番で受講することが望ましい。

【評価方法】

出席状況と受講態度（20%）、ミニレポート課題の提出とその内容（20%）、期末のレポート課題提出とその内容（60%）。以上の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

中根光敏他『社会学に正解はない』（松籟社）のほか、講義のなかで適宜紹介していく。

社会心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見，理論，研究方法，ならびに，著名な研究者などについて概説していきます。テーマとしては，自己，社会的認知，対人関係などを取り上げます。受講生の要望等もふまえながら，なるべく日常的な心理現象や社会的トピックを取り扱っていく予定です。そうした身近な事象を社会心理学的な視座から読み解いていくことを通して，科学的・客観的なものの見方，考え方を養っていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	自己とは何か？ ～自己過程の心理学(1)～
3	自己を知るとは？ ～自己過程の心理学(2)～
4	他者を知るとは？ ～対人認知の心理学～
5	社会について知るとは？ ～社会的認知の心理学～
6	原因を求める心とは？ ～帰属過程の心理学～
7	態度と態度変容(1) ～態度の概念・測定法・理論を中心に～
8	態度と態度変容(2) ～説得的コミュニケーションを中心に～
9	対人行動の動機と対人魅力とは？ ～対人行動の心理学(1)～
10	対人関係を形成し，維持するには？ ～対人行動の心理学(2)～
11	対人関係の葛藤・ストレスとは？ ～対人行動の心理学(3)～
12	友人・友情とは何か？ ～友人関係の心理学～
13	人を好きになる心とは？：恋愛関係の進展を中心に ～恋愛の心理学(1)～
14	人を好きになる心とは？：恋愛関係の不和・崩壊を中心に ～恋愛の心理学(2)～
15	全講義内容のまとめ
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では，履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。欠席した場合，原則的に履修仮登録を取り消しますので，履修登録を希望する学生は第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・学期末課題は，学期末試験（持ち込み不可）を予定していますが，レポート課題に変更することもあります。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は，講義内容を含め，変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は，出席状況15%，参加態度30%，学期末課題55%の内訳で，これらを総合評価して行います。ただし，いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に，毎回提出させるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については，試験を実施する場合，参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は，授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

- 堀洋道・山本眞理子・吉田富二雄 編著（1997）. 新編 社会心理学 福村出版
 岡本浩一（1986）. 社会心理学ショート・ショート 新曜社
 ※上記の他，授業内で適宜，文献を紹介します。

社会心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見，理論，研究方法，ならびに，著名な研究者などについて概説していきます。テーマとしては，援助・攻撃行動，集団内・集団間関係，文化や社会と人間心理の関係などを取り上げます。受講生の要望等もふまえながら，なるべく日常的な心理現象や社会的トピックを取り扱っていく予定です。そうした身近な事象を社会心理学的な視座から読み解いていくことを通して，科学的・客観的なものの見方，考え方を養っていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	人を助ける心とは？(1) ～援助行動の心理学～
3	人を助ける心とは？(2) ～ソーシャル・サポートの心理学～
4	人が傷つけられるとは？ ～社会的孤立と排斥の心理学～
5	人を傷つけるとは？ ～怒りと攻撃の心理学～
6	集団の機能と影響過程の心理学(1) ～集団の生産性とリーダーシップ～
7	集団の機能と影響過程の心理学(2) ～集団圧力・集団意思決定～
8	集団の機能と影響過程の心理学(3) ～集団間関係における差別と偏見～
9	コミュニケーションの心理学(1) ～言語・非言語コミュニケーション～
10	コミュニケーションの心理学(2) ～メディア・コミュニケーション～
11	消費行動の心理学(1) ～消費者の内的要因を中心に～
12	消費行動の心理学(2) ～消費者を取り巻く外的要因を中心に～
13	文化と人間心理・行動の関係とは？ ～文化の社会心理学～
14	社会心理学と日常生活 ～社会心理学の応用と展開～
15	全講義内容のまとめ
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では，履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。欠席した場合，原則的に履修仮登録を取り消しますので，履修登録を希望する学生は第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・学期末課題は，学期末試験（持ち込み不可）を予定していますが，レポート課題に変更することもあります。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は，講義内容を含め，変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は，出席状況15%，参加態度30%，学期末課題55%の内訳で，これらを総合評価して行います。ただし，いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に，毎回提出させるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については，試験を実施する場合，参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は，授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

- 堀洋道・山本眞理子・吉田富二雄 編著（1997）. 新編 社会心理学 福村出版
 岡本浩一（1986）. 社会心理学ショート・ショート 新曜社
 ※上記の他，授業内で適宜，文献を紹介します。

社会事業史

担当教員 保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、大きく欧米社会、日本及び沖縄県に分け、それぞれの社会事業のながれについて学ぶ。講義の基本は、国家政策としての社会福祉諸施策についてもふれるが、主な視点を民間活動におき、歴史的に着目すべき個人・団体・社会運動等を取り上げ、その動きや現在までのながれを概観し、その歴史的意義等について理解する。

【授業の展開計画】

講義は大きく3つに分け、以下のトピック(例)をオムニバス形式で講義する。

1. 欧米社会における救済思想・相互扶助・民間活動等のながれ
 - ・西欧社会の救済思想
 - ・修道院等を中心とする窮民救済活動と現代への影響
 - ・市民社会への移行と社会問題への取り組み
 - ・民間慈善活動・人道主義的の活動の組織化・変遷
 - ・当事者運動の例とその意義
2. 日本における救済・相互扶助・民間活動のながれ
 - ・日本における救済思想と活動の現れ
 - ・震災と救済活動の実践例
 - ・村や個人レベルにおける相互扶助の例
 - ・民間団体・企業・職能団体等による活動とその意義
 - ・戦後の当事者運動とその歴史的意義
3. 沖縄県における救済思想・相互扶助・民間活動のながれ
 - ・王制下に見る民衆の生活と救済思想
 - ・民衆による改革・抵抗運動のながれ
 - ・貧困と民衆間の助け合い・相互扶助の取り組み
 - ・占領下における社会事業のながれ
 - ・地域性、差別との戦い（ハンセン問題等）
4. まとめ

【履修上の注意事項】

1. 個々の社会問題や社会的な取り組みも、長い歴史の中で形成されたものであるという視点に立って考え、その変遷に関心を持って受講すること。
2. 地域における実践例の実態とそのながれについて準備しておくこと。

【評価方法】

1. 出席状況、受講態度、レポート等の提出状況を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

社会調査の企画と設計

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、Ⅱではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行なう。実践的な社会福祉（ソーシャルワーク）、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）と質的調査の関連性、重要性を前提に内容を展開していきたい。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を発表してもらおう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査法Ⅱへの招待
2	標本抽出（サンプリング）の理論
3	サンプリングの種類
4	サンプリングの実際
5	質的調査の考え方
6	質的調査の種類
7	質的調査の諸注意
8	ドキュメント分析と観察法
9	生活史法とライフコース分析
10	面接とインタビューの技法
11	調査実施の際の諸注意
12	個別研究テーマの発表・提出
13	調査の企画と設計の提出
14	調査実施の効果とふりかえり
15	総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

講義形式で進めるが、調査票作成及び調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、及び活動には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ参加状況、調査報告内容及び試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年

【参考文献】

特に指定はしないが、随時紹介する。

社会調査の基礎

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の種類（量的調査と質的調査）
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
 根本博司、他編著、『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』、中央法規、2001年
 天田城介、他編著、『社会調査の基礎』、中央法規、2009年、講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する

【参考文献】

ダレル・ハフ、『統計でウソをつく方法—数式を使わない統計学入門』、講談社（ブルーバックス）、1979年
 谷岡一郎、『「社会調査」のウソ—リサーチ・リテラシーのすすめ—』文藝春秋（文春新書）、2000年
 好井裕明、『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス—』光文社（光文社新書）、2006年

社会調査の基礎

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の基本的な道具
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。

社会統計学 I

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。

この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について勉強し、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作成する力など統計を活用する力）の基礎を身につけることを目指します。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）
8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）
9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定、属性相関係数）
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定など具体的な独立性検定の方法）
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）
15	講義の振り返り・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由によって適切に対応する。

【評価方法】

出席 : 45点=1回:3点×15回（宿題提出をもって出席とする）
 レポート : 50点
 その他 : 5点（受講態度など）

【テキスト】

テキスト：廣瀬毅士 寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010
 また、適宜講義中にプリント、学習用電子データを配布する。

【参考文献】

- ・ハンス・ザイゼル『数字で語る—社会統計学入門』新曜社、2005
- ・ロウントリー『新・涙なしの統計学』新世社、2001
- ・酒井隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003 など

社会統計学Ⅱ

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っている場合が多く見られます。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。

この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、多変量解析の基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。

【授業の展開計画】

講義では、まず前期の社会統計学Ⅰの内容をおさらいした上で、多変量解析による分析手法の概要をお話します。その上で、代表的な分析手法について、事例やサンプルデータを用いて、実際に分析作業を練習しながら勉強していきます。それにより実践的な知識の習得を図ります。

なお、受講生の要望、講義の進み具合、講義実施上の都合などにより、講義の順序・内容を一部変更することもあります。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4
8	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」1
9	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」2
10	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」3
11	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」4
12	似たものをまとめる「クラスター分析」1
13	似たものをまとめる「クラスター分析」2
14	似たものをまとめる「クラスター分析」3
15	講義のふりかえり・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては、退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合は、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由に応じて適切に対応する。

【評価方法】

- ・出席 : 45点 (講義1回3点×講義15回、宿題提出をもって出席とする)
- ・レポート : 50点
- ・その他 : 5点 (受講態度等)

【テキスト】

講義中で適宜指示する。またプリント・講義用サンプルデータ等を配布する。

【参考文献】

講義中で適宜指示する。

社会統計基礎

担当教員 嘉手川 繁三

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間福祉学科の学生を対象に統計の基礎を学んでいく。特色としては、①数学は中学程度の知識があればよい、②平均や標準偏差など、すでに習っているものから始める、③例題や演習問題はパソコンのエクセルを用いる、をあげておこう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業の進め方、統計とは？ エクセルの利用
2	データのグラフ表現 1
3	データのグラフ表現 2
4	度数分布表とヒストグラム
5	累積度数曲線の応用
6	平均、中央値、最頻値
7	散布度、分散、標準偏差
8	度数分布表からの平均、標準偏差の計算
9	散布図と相関係数
10	回帰直線の求め方
11	確率分布、二項分布、ポアソン分布
12	正規分布
13	t ー分布
14	母平均の区間推定
15	比率の区間推定
16	

【履修上の注意事項】

パソコンのエクセル（表計算）に習熟している方が望ましい。

【評価方法】

クラスへの出席と課題の提出物で評価する。締め切りに遅れた提出物は評価しない。

【テキスト】

指定しない。プリントを配ります。

【参考文献】

水野恭之 「看護学系の統計入門」 培風館
 新田 功 「同時に学ぶExcelと入門統計学」 ムイスリ出版

社会福祉学基礎

担当教員 非常勤4名、岩田直子、比嘉昌哉、知名孝、ウィルコックス、保良昌徳、桃原一彦、安次富郁哉、小柳正弘

対象学年 1年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻教員の専門分野をオムニバス方式で紹介し、社会福祉学のおもしろさ、研究のおもしろさを伝える。合わせて、大学で学ぶとはどういうことなのかを理解する機会とする。

【授業の展開計画】

社会福祉専攻の教員8名および外部講師が、オムニバス形式で講義を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義オリエンテーション 知名孝	17	大学で社会福祉学を学ぶ意味
2	スクールソーシャルワークと児童虐待	18	大学で社会福祉学を学ぶ意味
3	スクールソーシャルワークと児童虐待	19	大学で社会福祉学を学ぶ意味
4	スクールソーシャルワークと児童虐待	20	大学で社会福祉学を学ぶ意味
5	スクールソーシャルワークと児童虐待	21	国際福祉とは
6	社会学への招待	22	グローバルゼーションと福祉
7	社会学への招待	23	障害学入門
8	社会福祉と哲学	24	障害者の自立生活運動
9	社会福祉と哲学	25	沖縄ダルクの活動
10	我が国における疾病特性と保健医療政策	26	沖縄ダルクの活動
11	我が国における疾病特性と保健医療政策	27	学部講師1
12	子どもと大人のメンタルヘルスと地域支援	28	学部講師2
13	子どもと大人のメンタルヘルスと地域支援	29	外部講師3
14	子どもと大人のメンタルヘルスと地域支援	30	外部講師4
15	子どもと大人のメンタルヘルスと地域支援	31	まとめ
16			

【履修上の注意事項】

人間福祉学科1年次全員が履修する科目であり、人数が非常に多い科目なので、課題等の提出期限を守ることや講義時は私語を慎む等、大学生としての基本的な受講態度を心がけてほしい。

【評価方法】

出席状況は当然のこと、各担当教員からのレポートなどの課題の提出状況、筆記試験などを総合的にみて評価する。

【テキスト】

特定したテキストは使用しない。原則として、各教員が随時資料を配付する。

【参考文献】

各教員が随時提示する。

社会福祉学特講 C

担当教員 山田 富秋 (世話役：小柳正弘)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療や福祉におけるナラティブ・アプローチと呼ばれる研究方法を紹介する。特にその中でも、ライフストーリーの社会学とフィールドワークに基づいて、(1)精神障害者の処遇の歴史の変遷、(2)薬害HIV感染被害問題、(3)ハンセン病回復者のライフストーリーの順番で、ナラティブの開く世界を提示する。最後に、苦悩する人々に対する支援としての「ケア」の可能性について論じる。

【授業の展開計画】

- 1回：ナラティブ・アプローチとフィールドワーク
- 2回：ケアとは何か
- 3回：ゴッフマンの全制的施設論
- 4回：隔離収容主義としての福祉
- 5回：コミュニティ・ケアへの転換
- 6回：長野県の「さくら会」の試み
- 7回：薬害HIV被害問題の概要
- 8回：血友病患者を中心とした新しい社会運動
- 9回：患者と医師のライフストーリー
- 10回：HIVチーム医療における「共決定」
- 11回：ハンセン病問題の概要
- 12回：長島愛生園の歴史
- 13回：入所者のライフストーリー
- 14回：入所者の形成する「親密圏」
- 15回：ケアという問題と可能性
- 16回：まとめ+テスト

【履修上の注意事項】

毎回、コミュニケーションカードに質問とコメントを書いてほしい。

【評価方法】

午前・午後の終了時のコミュニケーションカードの内容と最終テストの合算それぞれ30%+70%とする。

【テキスト】

【参考文献】

山田富秋『フィールドワークのアポリア』2011年 せりか書房

社会保障

担当教員 安次富 郁哉、青山 喜佐子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義のねらいは、「①少子高齢社会を背景とした、わが国における社会保障制度の課題について理解する。②社会保障の概念や体系について理解する。③年金保険、労働保険、医療保険、介護保険等について具体的な内容を理解する。」である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 安次富	17	年金保険制度① 沿革 青山
2	社会保障制度の課題・概念・体系 安次富	18	年金保険制度② 概要 体系 青山
3	医療保険制度① 沿革及び体系 安次富	19	年金保険制度③ 国民年金 青山
4	医療保険制度② 安次富	20	年金保険制度④ 厚生年金 青山
5	医療保険制度③ 安次富	21	年金保険制度⑤ その他年金制度 青山
6	医療保険制度④ 安次富	22	年金制度の管理運営体制 今後の課題 青山
7	医療保険制度⑤ 安次富	23	振り返り 青山
8	医療保険制度⑥ 安次富	24	労働保険制度①労働者災害補償保険 安次富
9	介護保険制度① 創設の経緯と改正 安次富	25	労働保険制度②労働者災害補償保険 安次富
10	介護保険制度② 安次富	26	労働保険制度③雇用保険 安次富
11	介護保険制度③ 安次富	27	労働保険制度④雇用保険 安次富
12	介護保険制度④ 安次富	28	労働保険制度⑤雇用保険 安次富
13	介護保険制度⑤ 安次富	29	労災保険・雇用保険の管理運営体制 安次富
14	介護保険制度⑥ 安次富	30	振り返り 安次富
15	民間保険と社会保険 安次富	31	後期試験 安次富
16	前期試験 安次富		

【履修上の注意事項】

本科目は、「年金保険制度」については青山喜佐子、医療保険制度、労働保険制度、介護保険制度については安次富郁哉が担当する。

【評価方法】

講義への出席状況、前期・後期で実施する試験点数、課題提出状況をもって総合的に評価する。

【テキスト】

中央法規出版「社会保障」社会福祉士養成講座シリーズを指定テキストとする。なお、講義初回のオリエンテーション時の教科書紹介後に購入すること（改訂最新版を使用するため）

【参考文献】

参考書については、講義の中で随時紹介する。

社会理論と社会システム

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、人と社会の関係をどうとらえるかを学び、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題を社会学の視点から捉えなおすことである。社会福祉士にとって社会の成り立つ仕組みを知り、人々の関係性や生活世界に対する理解を深め、現代社会の抱える社会問題がどのようなものなのかを知っておくことは業務を遂行するための基礎となるので、ぜひ社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に答えを見つけるつもりで受講してほしい。

【授業の展開計画】

本講義では、関連する資料や参考文献の内容を盛り込みながらテキストの解説を行う。学期半ばに中間テスト（小論文）、期末に課題レポートを行って授業に対する理解を確認する。また、提出した期末レポートを使った発表・討論の場を設ける。

週	授 業 の 内 容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと
2	生活の理解：生活のとらえ方
3	生活の理解：家族
4	生活の理解：地域
5	人と社会の関係：社会的役割
6	人と社会の関係：社会的行為
7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯
8	中間テスト（小論文）
9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方
10	社会問題の理解：日本社会と社会問題
11	社会問題の理解：共生社会と権利
12	社会問題の理解：社会のグローバル化と社会問題
13	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（1）
14	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（2）、期末レポート提出
15	期末レポートの発表討論
16	期末レポート返却

【履修上の注意事項】

中間テスト、期末レポートとも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。
高校社会科の復習をしておくことが望ましい。

【評価方法】

（中間テストの点数＋期末レポートの点数）×0.5を評点とする。そのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版、2010年。

【参考文献】

講義の中で適宜、指示する。

就労支援サービス

担当教員 崎濱 秀政

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「就労支援サービス」は、障害のある人が「働くこと」を通して円滑で安定的な社会生活を獲得し、「働き続ける」ことで自律的に「生きること」を目的としている。また障害のある人自身が「働くこと」により「生活のしやすさ」「生きやすさ」を求め、さまざまな社会資源とつながりながらインクルーシブな社会の構築もめざしたいのである。この講義では、教育分野の役割、福祉分野と労働分野の有機的な施策の連携、実践者の連携こそが「就労支援サービス」であることを理解する。その連携の手段として、障害のある一人ひとりに合わせた個別支援計画の策定とケアマネジメントの重要性も理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 就労支援の意味と社会福祉士の役割
2	就労支援の対象者
3	就労支援の方法
4	就労支援制度と就労支援機関、専門職の役割
5	低所得者と就労支援
6	就労支援とケアマネジメント、就労支援の流れ
7	就労支援ネットワークの必要性
8	就労支援の実際
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①「障害」とはいったい何かについて考える ②障害者がたどった歴史について理解を深める ③障害者福祉の理念について理解を深める ④障害者を対象にした法律の変遷を理解すると共に、知識を広める ⑤障害児者が日々の生活の中で直面する問題（教育、雇用、移動、経済的保障、社会参加など）についてその原因と課題について考える ⑥障害当事者の視点から社会福祉サービスを再考する ⑦沖縄の視点から障害者福祉を考える ⑧途上国の障害者福祉について理解を深める

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者福祉の理念～障害者権利条約を中心に
2	障害者福祉の歴史
3	障害の定義：ICF、障害の社会モデル、国内法を中心に
4	自立生活の理念と国内外の動向
5	障害者福祉施策の概要（1）
6	障害者福祉施策の概要（2）
7	諸外国の障害者福祉施策の概要
8	障害児者に関する国際連合の動向
9	障害者の生活と社会福祉施策の課題（1）
10	障害者の生活と社会福祉施策の課題（2）
11	障害者の生活と社会福祉施策の課題（3）
12	障害者の生活と社会福祉施策の課題（4）
13	障害者の生活と社会福祉施策の課題（5）
14	障害者運動の主張と政策への影響
15	障害と開発
16	

【履修上の注意事項】

障害者福祉の基盤となる定義や理念を理解することに努めること。

配布資料や参考文献をしっかりと読むこと。

授業と並行して、積極的にボランティア活動に参加したりメディア情報にアクセスしたりすることを勧める。

【評価方法】

- ①定期試験および課題レポートの内容
- ②授業態度および出席状況
- ③その他、ビデオ鑑賞の後に提出してもらう感想など

【テキスト】

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度—障害者福祉論」（最新版）、中央法規

「障害のある人の支援と社会福祉—障害者福祉入門」（2008）、ミネルヴァ書房

「障害者権利条約 日英対訳とコメント～障害者権利条約の批准と完全実施に向けて」JDF

【参考文献】

第1回講義時に提示する

障害児・者心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では発達障害の心理学的な特性について学習障害、注意欠陥/多動性障害、自閉症スペクトラム障害、知的障害を主な対象として解説する。まず、発達の観点からみた障害の意味、社会的観点からみた障害の意味について解説し、発達障害の「見え方の違い」「聞こえ方の違い」「感じ方の違い」「不器用さ」を疑似体験する。その後、各障害の心理的な特性について解説する。

【授業の展開計画】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 障害・発達障害をどうとらえるか
- 第 3回 障害の疑似体験
- 第 4回 発達障害を理解するための基礎理論 (1)
- 第 5回 発達障害を理解するための基礎理論 (2)
- 第 6回 発達障害を理解するための基礎理論 (3)
- 第 7回 知的障害の心理特性 (1)
- 第 8回 知的障害の心理特性 (2)
- 第 9回 学習障害の心理特性 (1)
- 第10回 学習障害の心理特性 (2)
- 第11回 注意欠陥/多動性障害の心理特性 (1)
- 第12回 注意欠陥/多動性障害の心理特性 (2)
- 第13回 自閉症スペクトラム障害の心理特性 (1)
- 第14回 自閉症スペクトラム障害の心理特性 (2)
- 第15回 自閉症スペクトラム障害の心理特性 (3)
- 第16回 試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

1. 予習レポート20%: 次回の授業で取り上げるテーマを知らせ、それに関連する予習レポートを毎回課す。参考となる文献を十分に調べ、理解したうえでメールにより提出すること。
2. 復習課題10%: 講義終了時にその日の講義に関する課題を配布し、次回の講義で提出。
3. 学期末試験 70%

【テキスト】

特に指定はしない

【参考文献】

1. 小林隆児 よくわかる自閉症「関係発達」からのアプローチ 法研 ¥1,700+税
2. 杉山登志郎 発達障害の子どもたち 講談社現代新書 ¥720+税
3. 伊澤信三/小島道生 障害児心理入門 ミネルヴァ書房 ¥2,500+税

神経心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

神経心理学とは、ひとの認知、感情、行動の過程（機能-ソフト面）とその基礎となる脳（構造-ハード面；脳自体にも機能と構造があります）を関連づけて理解することを通して、ひとの認知、感情、行動（心理的過程）の理解をより深めていこうとする学問分野である。この講義では、心理学の研究で明らかになっている心理的過程の知見と脳科学によって明らかになっている知見を対応させ、こころと脳の関連について理解を深めることを目標とする。最も自分に身近であるが、「こころ」と「脳」についてはまだわからないことが多い。わからないことを楽しみつつ、神経心理学の視点からこころと脳について意識的に考える視点を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

初回の講義時に、詳細なシラバスを配布して説明する

【履修上の注意事項】

授業では、日常における「認知と感情と行動の関係」と「脳の働き」について対応させながら、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。

【評価方法】

出席：感想シート、クイズへの回答などをもって出席点とする。
ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・講義の中で、適宜紹介する。
- ・その他、必要な資料は講義時に配布する。

心理学概論

担当教員 前堂 志乃・平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、心理学の歴史、主要な研究、重要な理論などを幅広く取り上げ、心理学の各専門領域を概説する。心理学全般についての幅広い基礎知識を身につけ、人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点を身につけてもらいたい。この講義はオムニバス形式で開講し前期は前堂、後期は平山が担当する。前期は、心理学の歴史、研究法、感覚・知覚・記憶・学習・思考・知能・動機づけ・情動・こころと脳、後期は、発達、人格、社会、臨床などを取り上げる。普段は気づかない自分のこころの仕組みを理解し、心理学の幅広さと面白さを知って欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理学の歴史と研究法①	18	発達心理学①
3	心理学の歴史と研究法②	19	発達心理学②
4	感覚・知覚①	20	発達心理学③
5	感覚・知覚②	21	人格心理学①
6	記憶①	22	人格心理学②
7	記憶②	23	社会心理学①
8	学習①	24	社会心理学②
9	学習②	25	社会心理学③
10	思考と創造性①	26	社会心理学④
11	思考と創造性・知能②	27	臨床心理学①
12	動機づけ・情動②	28	臨床心理学②
13	動機づけ・情動①	29	臨床心理学③
14	こころと脳①	30	心理学を学ぶことは役に立つのか？①
15	こころと脳②	31	心理学を学ぶことは役に立つのか？②
16			

【履修上の注意事項】

- 水曜1校時のこの「心理学概論」のクラスは人間福祉学科の専門科目として開講しています。特に、心理カウンセリング専攻の1年次にとっては重要な基礎科目であるため心理専攻の学生を優先的に登録します。
- 人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する場合は、土・4に開講される教職用クラスを受講してください（教職用クラスは隔年開講となっており、H25年度は開講されません）。

【評価方法】

- 出席、期末課題、期末試験などを総合し、さらに、前期と後期の成績を総合して評価する。
- 前期と後期それぞれにおいて、出席、レポート、期末試験などを課す。詳細については、それぞれ学期初めのオリエンテーションで各担当者の説明を聞いて確認すること。

【テキスト】

授業時に紹介する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学基礎演習

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

5ゼミ全体で行う合同ゼミ、ゼミごとに行う個別ゼミ、各教員が担当する実験・実習テーマのもと小グループに分かれ各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出するローテーションゼミの3つのゼミ形式を組み合わせで行う。詳細なシラバスを初回の講義時に配布する。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリテ・心理学研究法とは(合同ゼミ)	17	心理学専門演習Ⅰ・Ⅱのオリエンテーション
2	実験法とは：実習①-1(合同ゼミ)	18	実習④-1
3	個別ゼミ	19	実習④-2
4	実験の手続：実習①-2(合同ゼミ)	20	実習④-3
5	結果のまとめ方：実習①-3(合同ゼミ)	21	実習⑤-1
6	レポートの書き方：実習①-4(合同ゼミ)	22	実習⑤-2
7	文献検索の仕方	23	実習⑤-3
8	心理学論文の読み方	24	実習⑥-1
9	レポートの添削フィードバック	25	実習⑥-2
10	実習②-1	26	実習⑥-3
11	実習②-2	27	質問紙法オリエンテーション・質問紙法とは
12	実習②-3	28	質問紙法の構成
13	実習③-1	29	質問紙法の実施とデータ入力
14	実習③-2	30	質問紙法の実施とデータ分析
15	実習③-3	31	質問紙法の結果のまとめと考察
16			

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、5ゼミ合同で行う場合や個別ゼミで行う場合がある。さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実験・実習を行うため、5ゼミ生全員が5名の担当教員の授業や指導を受けるローテーション形式も組み合わせる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする。
- ・実験・実習、レポート作成を行うために課外の時間を確保する必要がある

【評価方法】

- ①レポート：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実験・実習レポートの作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習結果発表を課す。
- ③①のレポートの提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、実験・実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習②～⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥および質問紙法の合計7つ提出する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/心理学研究法とは	17	実習④-1
2	実験法とは 実習①-1 (合同ゼミ)	18	実習④-2
3	質疑応答(個別ゼミ)	19	実習④-3
4	実験の手続き 実習①-2 (合同ゼミ)	20	実習⑤-1
5	結果のまとめ 実習①-3 (合同ゼミ)	21	実習⑤-2
6	レポートの書き方 実習①-4 (合同ゼミ)	22	実習⑤-3
7	文献検索の仕方	23	実習⑥-1
8	心理学論文の読み方	24	実習⑥-2
9	レポートの添削フィードバック	25	実習⑥-3
10	実習②-1	26	質問紙調査法オリエンテーション
11	実習②-2	27	質問紙調査とは
12	実習②-3	28	質問紙法の構成
13	実習③-1	29	質問紙法の実施と入力
14	実習③-2	30	質問紙法のデータ分析
15	実習③-3	31	質問紙法の結果のまとめと考察
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- ②①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文(2008)．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、小グループに分かれローテーションで各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出する、形式からなる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション・心理学研究法とは	17	卒論ゼミのオリエンテーション
2	実験法とは：実習①-1（合同ゼミ）	18	実習④-1
3	個別ゼミ	19	実習④-2
4	実験の手続き：実習①-2（合同ゼミ）	20	実習④-3
5	欠課のまとめ方：実習①-3（合同ゼミ）	21	実習⑤-1
6	レポートの書き方：実習①-4（合同ゼミ）	22	実習⑤-2
7	文献検索の仕方	23	実習⑤-3
8	心理学論文の読み方	24	実習⑥-1
9	レポートの添削フィードバック	25	実習⑥-2
10	実習②-1	26	実習⑥-3
11	実習②-2	27	質問紙法オリエンテーション
12	実習②-3	28	質問紙法とは
13	実習③-1	29	質問紙法の実施と入力
14	実習③-2	30	質問紙法のデータ分析
15	実習③-3	31	質問紙法の欠課のまとめと考察
16			

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、6ゼミ合同で行う場合や1ゼミずつで行う場合がある。さらに、6ゼミ全てが同じ内容の実習を行うため、6ゼミ生全員が6名の担当教員の授業や指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②①の報告書の提出と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習は、心理学領域の基本的な研究法とその手続き、研究結果や考察をまとめた報告書の書き方などを修得することを目的とする。具体的には、実験法、観察法、検査法、質問紙法等を取り入れた複数の基礎的実験・実習において、実験者及び研究対象者（実験参加者・協力者等）の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだテーマに基づき、知覚実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

前期	1. 合同ゼミ (オリエンテーション)	2. 合同ゼミ (実験法とは)
	3. 個別ゼミ (基礎実習報告書の書き方)	4. 実習①-1 (実験の手続き)
	5. 実習①-2 (結果のまとめ方)	6. 実習①-3 (レポートの書き方)
	7. 合同ゼミ (文献検索の仕方)	8. 合同ゼミ (心理学論文の読み方)
	9. 個別ゼミ (レポートの添削フィードバック)	10. 実習②-1 (行動観察)
	11. 実習②-2 (行動観察)	12. 実習②-3 (行動観察)
	13. 実習③-1 (社会心理学的実験)	14. 実習③-2 (社会心理学的実験)
	15. 実習③-3 (社会心理学的実験)	16. 個別ゼミ (レポート作成、質疑応答)
後期	1. 合同ゼミ (専門演習のオリエンテーション)	2. 実習④-1 (訓練の転移)
	3. 実習④-2 (訓練の転移)	4. 実習④-3 (訓練の転移)
	5. 実習⑤-1 (記憶実験)	6. 実習⑤-2 (記憶実験)
	7. 実習⑤-3 (記憶実験)	8. 実習⑥-1 (認知心理学的実験)
	9. 実習⑥-2 (認知心理学的実験)	10. 実習⑥-3 (認知心理学的実験)
	11. 合同ゼミ (質問紙法オリエンテーション)	12. 合同ゼミ (質問紙法とは)
	13. 合同ゼミ (質問紙の構成)	14. 実習⑦-1 (質問紙法の実施と入力)
	15. 実習⑦-2 (質問紙法のデータ分析)	16. 実習⑦-3 (質問紙法のまとめと考察)

【履修上の注意事項】

- ・この演習は個別ゼミや6ゼミ合同で行う場合がある。全員が同じ内容の実習を行うため、5名の担当教員の指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成する予定である

【評価方法】

- ① 報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ② ①の報告書の提出、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版 ほか
随時講義の中で提示する。

【参考文献】

松浦均・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 3「観察法・調査的面接法の進め方」ナカニシヤ出版
中澤・大野木・南（編著）心理学マニュアル「観察法」北大路書房

心理学基礎演習

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講義の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

5ゼミ全体で行う合同ゼミ、ゼミごとに行う個別ゼミ、各教員が担当する実験・実習テーマのもと小グループに分かれて各種の基礎実習を体験しレポートを作成・提出するローテーションゼミ、これら3つのゼミ形式を組み合わせて行います。

具体的な授業の展開計画については、初回講義時のオリエンテーションにて説明します。

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、5ゼミ合同で行う場合や個別ゼミで行う場合がある。さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実験・実習を行うため、5ゼミ生全員が5名の担当教員の授業や指導を受けるローテーション形式も組み合わせる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習結果発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 山入端 津由

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

これまで学んだ心理学の知識がどのような方法で導き出されたかについて学ぶ。つまり、心理学の各領域で用いられている主要な研究法の基本を学ぶ。具体的には、観察法、実験法、検査法と背景にある心理学理論について学習する。それを受けて、実際にこれらの方法を用いて実験や調査を行い、データを処理・分析し、レポートする演習を行う。これらの結果について発表を行い、公共性のある研究を目指すためのノウハウを学習する。これらの学習結果は、3学年の心理学演習や4学年の卒業論文作成につなげるようにする。

【授業の展開計画】

講義形式は2種類

前期

- 1 合同ゼミ (全体オリエンテーション)
- 2 個別ゼミ 「基礎実習とは何か」
- 3 個別ゼミ 「心理学研究法とは何か」
- 4 個別ゼミ 「基礎実習報告書の書き方」
- 5 基礎実習① 「訓練の転移」 (×2週間)
- 6 個別ゼミ 「レポートの添削フィードバック」
- 7 基礎実習② 「行動観察」 (×2週間)
- 8 基礎実習③ 「錯視量の測定」 (×2週間)
- 9 基礎実習④ 「二点閾弁別」 (×2週間)
- 10 個別ゼミ 「フィードバック」

後期

- 1 合同ゼミ (全体オリエンテーション)
- 2 基礎実習⑤ (検討中) (×2週間)
- 3 基礎実習⑤-1 「質問紙とは」
- 4 基礎実習⑤-2 「質問紙の作成」
- 5 基礎実習⑤-3 「質問紙作成の実際：Q&A」
- 6 個別ゼミ 「質問紙の作成、実施、データ分析、結果のまとめ」 (×7週間)
- 7 個別ゼミ 「調査結果発表会」
- 8 個別ゼミ 「フィードバック」

【履修上の注意事項】

本基礎演習は、4ゼミ合同で行う場合や2ゼミずつで行う場合など多様な形態がある。また、4ゼミ生全てが同じ内容の実習を行うため、4ゼミ生全員が4名の担当教員の授業や指導を受ける形式となっている。実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。基礎実習を行うために、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成を行う予定である。

【評価方法】

①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会、そこでの発表を課す。③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは、初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介を行う。

心理学研究法 I

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、心理学の研究をしていく手順や方法についての基礎的知識を理解することを目的とする。具体的には、心理学の歴史の過程で採用されてきた各種の研究法についての理論と技法について理解していく。さらに、各種の研究法を組み合わせ、実践的研究法、心理臨床的研究法についても理解していく。最後に、研究の展開の仕方、研究倫理についても理解していく。後期の心理学研究法Ⅱで研究の実際について学ぶために、その前提となる心理学研究法の各研究法の基礎知識を身につけることが目標となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究法とは何か
3	実験の倫理と方法①
4	実験の倫理と方法②
5	実験の倫理と方法③
6	質的調査－観察・面接・フィールドワーク①
7	質的調査－観察・面接・フィールドワーク②
8	準実験と単一事例実験①
9	準実験と単一事例実験②
10	量的調査－尺度の作成と相関分析①
11	量的調査－尺度の作成と相関分析①
12	量的調査－尺度の作成と相関分析①
13	教育・発達における実践研究
14	臨床における実践研究
15	研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理
16	

【履修上の注意事項】

心理学の基礎科目を履修済みであることがのぞましい。

【評価方法】

出席：感想シート、クイズへの回答などをもって出席点とする。
 ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・南風原朝・市川伸一・下山晴彦(編) 2002 心理学研究法入門－調査・実験から実践まで 東京大学出版会
- ・講義の中で、適宜紹介する。
- ・必要に応じて資料を配付する。

心理学研究法Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、心理学研究法Ⅰで学んだ各種研究法に関する基礎知識をベースに、心理学の研究の方法、手続、技法、研究の進め方などについてさらに理解を深め、心理学の研究力を身につけることを目的とする。心理学にはいくつかの代表的な研究手法があるが、中でも研究の基礎となり卒論で最も多用される実験法と質問紙法を取り上げ、実習を交えながら体験的に理解を深めていく。典型的な事例を挙げながら、できるだけ具体的に、研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の策定と吟味、研究の具体化、報告書の執筆、という研究の流れを辿りながら、研究をすることの意味と面白さについてともに考え理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認
2	実験法①
3	実験法②
4	実験法③
5	実験法④
6	実験法⑤
7	研究する意味・研究テーマの選定・設定
8	研究デザインと研究計画の策定・研究デザインと研究計画の吟味と具体化
9	研究成果の報告①
10	研究成果の報告②・研究のつながりと楽しみ
11	質問紙法①
12	質問紙法②
13	質問紙法③
14	質問紙法④
15	質問紙法⑤・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

心理学研究法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席：感想シート、クイズへの回答などをもって出席点とする。
 ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・授業時に適宜紹介する
- ・心理学基礎演習の講義で紹介された参考図書も活用する
- ・その他、初回の講義時に紹介する予定

心理学史

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

一口に心理学といっても、その裾野は大変幅広く、様々な専門領域に分化している。この講義では、心理学がどのような歴史を経て、学問体系をつくりあげ確立してきたか、また、どのように分化し発展してきたのか、を学ぶことを目的とする。本専攻で開講されている様々な心理学の専門科目が、心理学全体の中にどのように位置づけられているのかを体系的に整理しながら理解を深め、心理学に対する興味をさらに高めていく。

【授業の展開計画】

この講義は、5名の教員（上田幸彦・平山篤史・泊真児・井村弘子・前堂志乃）によるオムニバス形式をとる。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学史の方法論
3	19世紀の心理学①
4	19世紀の心理学②
5	20世紀の3大潮流①
6	20世紀の3大潮流②
7	20世紀の3大潮流③
8	心理学と社会①
9	心理学と社会②
10	心理学と社会③
11	日本の心理学史①
12	日本の心理学史②
13	日本の心理学史③
14	心理学史の見方
15	心理学史の現状と展望
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・テキストを購入し毎回の講義に持参することが望ましい。講義で指示された箇所はかならず予習してくる。
- ・受講生が多いときは高学年を優先して登録する。

【評価方法】

出席、リアクションペーパーのコメントや質問、ミニレポート、期末試験などを総合的に評価する。

【テキスト】

「流れを読む心理学史－世界と日本の心理学」（有斐閣アルマ）

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

専門演習 I の目的は、卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、社会心理学ないし臨床社会心理学的なテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。ゼミ活動を通して、文献の読み方を習得できるようなトレーニングを重点的に行うほか、文献検索の仕方、レジュメのまとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方等を学んでいきます。前期はそうした基礎作りに重点を置き、後期からは、学生各自が興味・関心を持つ心理学の専門書や論文を読んで個人発表をし、全体討論を行うという形で進めていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション & ゼミメンバー紹介	17	夏休み課題に関する個人発表
2	文献検索実習（本学図書館を利用）	18	学術論文の個人発表(1)
3	文献の活用法	19	学術論文の個人発表(2)
4	論文の読み方入門	20	学術論文の個人発表(3)
5	論文の読み方トレーニング(1)	21	学術論文の個人発表(4)
6	論文の読み方トレーニング(2)	22	学術論文の個人発表(5)
7	レジュメ作成の仕方入門	23	学術論文の個人発表(6)
8	発表・プレゼンの仕方入門	24	学術論文の個人発表(7)
9	個人発表(1)：心理学専門書の発表と討議	25	学術論文の個人発表(8)
10	個人発表(2)：心理学専門書の発表と討議	26	学術論文の個人発表(9)
11	個人発表(3)：心理学専門書の発表と討議	27	学術論文の個人発表(10)
12	個人発表(4)：心理学専門書の発表と討議	28	学術論文の個人発表(11)
13	個人発表(5)：心理学専門書の発表と討議	29	学術論文の個人発表(12)
14	個人発表(6)：心理学専門書の発表と討議	30	学術論文の個人発表(13)
15	個人発表(7)：心理学専門書の発表と討議	31	卒論構想予備検討会に向けてのガイダンス
16	前期の総括と後期に向けての夏休み課題提示		

【履修上の注意事項】

- この授業は遅刻・欠席をせずに参加することが求められます。また、授業への参加態度（各回での発表や質疑応答の仕方、ゼミ活動への積極性など）を重視して評価を行います。
- 個人発表においては、発表者以外の学生にも役割が割り当てられますので、やむを得ない事情がない限り、遅刻・欠席をしないでください。
- 授業の展開計画は、受講者数などの状況に応じて変更となる可能性があります。

【評価方法】

授業への出席および参加態度により評価を行います。成績評価のウェイトは、出席状況が45%、授業への参加態度が55%で、これらを総合して評価を行います。授業内で頻繁に意見表明を求める機会がありますので、意見を表明をしなかったり、消極的な態度を示したりする場合には評価が低くなります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で紹介します。

- 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
- 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習 I

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であり、さまざまな心理学的研究方法があることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げようとする。論文講読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、研究テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができるようになることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

前期においては、各自が興味あるテーマを発表したあと、中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、認知行動療法などの領域の基礎的な論文を輪読する。夏休み中には、上記の領域の中から指定された文献の一つを読み書評を書く。夏休み明けから、その概要を報告し、内容についてディスカッションを行う。後期においては、文献の輪読を続けながら、各自関心のある領域の一つを選び、その領域の論文を3つ以上読むことを課題とする。その中の1つについて概要を発表する。最終的には読んだ3つの論文の概要を提出する。適宜、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時に、積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べるのが求められる。授業中に積極的にディスカッションに参加するためには事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、ディスカッションの積極性、前期、後期に提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学専門演習 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的にしている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。後期では、各自の関心のあるテーマについて前期で学んだ研究方法を基にデータを収集しレポートにまとめる。こうした一連の活動を通して卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目的にしている。

【授業の展開計画】

前期では心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的にしているため、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。後期では、前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み大まかな研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

この演習は、受講生自身が積極的に考え、行動することを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって参加すること。また、遅刻や欠席をせず、受講することが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

杉本敏夫（著）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 山入端 津由

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期は、社会心理学、教育・発達心理学、臨床心理学領域で行われている研究の紹介、同研究で用いられている研究方法の理解を目指す。

後期は、各自、各グループで、関心のある領域の学術論文（原著論文）を読む。論文の背景理論、仮説設定、研究方法、データの読み方、考察の仕方を学ぶ。文献調査を行い、その中から卒業論文に結びつける学術論文を選択して、購読する。最終的に、卒業研究の計画を立てる。

【授業の展開計画】

1	オリエンテーション	17	個人、グループによる文献（原著論文）発表 1
2	臨床社会心理学とは	18	同 2
3	原因帰属理論と帰属のバイアス	19	同 3
4	さまざまな帰属療法と抑うつ	20	同 4
5	帰属療法と認知療法	21	同 5
6	原因帰属と学業行動 1	22	同 7
7	原因帰属と学業行動 2	23	同 8
8	自己を意識する心（自己注目と行動）	24	同 9
9	抑うつと自己注目理論	25	同 10
10	自己意識理論と妄想	26	個人、グループによる卒業論文のテーマ検討会 1
11	自己意識理論と自我障害	27	同 2
12	自己開示と自己呈示	28	同 3
13	自己呈示と心身の健康	29	同 4
14	自己開示と社会不安・対人恐怖	30	総括と討議
15	攻撃行動と怒り	31	習得度テスト
16	習得度テスト		

【履修上の注意事項】

受講生には、自ら積極的に課題処理を行うことが要請されている。率先して課題を処理し、かつゼミ仲間が互いに支えあいながら前向きに授業に臨んでほしい。

【評価方法】

授業への参加状況、課題へ取り組む態度、発表態度や発表要領などの工夫の程度、レポートのまとめ方や内容等について評価する。

【テキスト】

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけることを目的とする。具体的には、2グループに分かれてのグループ研究を行う。グループでの討議と協働を通して、自らの問題意識とリサーチクエスションの関係づけ、文献検索、文献の読み込み、研究テーマの発見、研究デザインの設定、研究計画の策定、実験、調査などの計画・実行、データの収集と分析、報告書の作成と発表という一連の研究活動について体験的に学んでいく。このグループ研究活動を通して卒業研究へと繋げていく。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：心理学の研究の流れと研究論文について

3～9週目：テキストの講読

10週目：グループ研究の流れについて

11週目：問題意識とリサーチクエスションについて

12週目：文献検索と文献レビューについて

13週目：研究テーマの設定、研究デザインと研究計画について

14～15週目：研究テーマの討議と研究グループの編成

後期

1～3週目：グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表

4～6週目：グループ研究②研究デザインの検討と発表

7～9週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

10～12週目：研究の実施（データ収集と分析）

13～15週目：結果の分析と考察およびゼミ論文の執筆・研究報告会

*前期の後半からは研究グループでの活動が主となる

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、グループでのゼミ研究を行う。グループ研究活動へ自発的・積極的に取り組むことを通して、さまざまな意見をもつメンバーと討議・協働しながら1つの研究を立ち上げて一定の結論を得るという達成感を味わって欲しい。4年次の卒業論文演習のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、ゼミ論の作成と提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣

②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（対人不安、シャイネスを中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 山入端 津由

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 上田 幸彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、一連の心理学的研究法を修得することが狙いである。これまでに学習してきたことをもとに、各自が関心のある、かつ臨床心理学的にも意義のあるテーマを見だし、そのテーマに沿って文献検索、文献の読み込み、研究計画策定、データ収集、データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者に分かりやすい論理的な文章の書き方を身につけることも狙いとする。

【授業の展開計画】

前期においては3年次での準備に基づき、すぐに研究計画の発表、あるいは予備実験を開始する。その後、データ収集法、データ整理、統計的検定法について個別に具体的な指導を受けながら、夏休み前に、あるいは遅くとも夏休み中には本実験の開始、すなわちデータ収集に入れるようにする。

後期においては、すぐに夏休み中に収集したデータの統計的分析を終わらせ、結果について中間発表を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に指導する。これらの指導を受けながら卒業論文を完成させる。最終的にはポスター発表の形式で成果を報告する。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画、準備し実行すること。最終目標は、心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには、早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく、積極的に個別指導を活用して欲しい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み方、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル 江藤裕之他訳 医学書院

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、それを実施し、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。取り上げるテーマは、以下のテーマを設定している。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（対人不安、シャイネスを中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

4月～6月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討）
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。

心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。

研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。すべてのデータ収集の後、データの分析と整理を行い、中間発表を経て論文を作成し最終発表を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

【授業の展開計画】

前期ではまず、研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。後期では、収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行う。12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて、論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

必要に応じて個別指導と一斉指導を併用しながら演習を展開する。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、就職活動や大学院進学準備との両立など、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、4年間の専門領域の学習の集大成として、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文をまとめることである。まず、心理学の各分野についての学習を通して培ってきた自分なりの問題意識をリサーチクエスチョンとし、卒業論文のテーマを設定、関連文献の読み込み、研究デザインの組立と発表を行う。続いて、研究デザインにもとづき適正な研究手続きのもと実験・調査等を行い、データを収集・分析し、卒業論文にまとめ、卒論発表を行う。卒論研究を通して、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、得られた結論を発信するという、心理学的思考力と研究力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究デザインと研究計画について

3週目：卒業論文の研究デザインと研究計画の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通し、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。特にグループ研究を推奨する。また、3年次の心理学専門演習Ⅰのゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

- ①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ③その他の参考図書は、講義の中で適宜紹介する

心理学と職業

担当教員 上田幸彦、井村弘子、前堂志乃、泊真児、平山篤史

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は心理学を学ぶことで、社会とどのように関わるかについて、心理の専門職を中心に学ぶことを目的としています。調べ学習で様々な心理の専門職について学習した後、実際に、それらの施設を見学し、実際に現場で活躍している心理の専門職の先輩方の講話を聴きます。これらの知識の習得と体験を通して、学生個々人の将来設計や進路を明確にし、今後の大学生活の目標設定や学習へのモチベーションを高めることを目的としています。

【授業の展開計画】

- 1回：オリエンテーション
- 2回：矯正施設の見学①（少年院）
- 3回：少年院の心理職の講話
- 4回：矯正施設の見学②（少年鑑別所）
- 5回：少年鑑別所の心理職の講話
- 6回：福祉施設の見学（児童自立支援施設）
- 7回：児童自立支援施設の心理職の講話
- 8回：精神科病院の見学①
- 9回：精神科病院の見学②
- 10回：精神科病院の心理職の講話
- 11回：教育施設の見学
- 12回：適応指導教室の心理職の講話
- 13回：病院で働く臨床心理士の講話①
- 14回：病院で働く臨床心理士の講話②
- 15回：教育機関で働く臨床心理士の講話③
- 16回：レポート提出

【履修上の注意事項】

受講態度についてはルールの厳守を徹底します。見学する各施設は、実際に支援を必要とする方々が、生活・利用をしています。受講学生は、それにふさわしい服装、態度で見学に臨んでもらいます。また、団体行動を行います。時間厳守をお願いします。また、施設見学では、個人情報に関する守秘義務も課せられます。詳細については、講義の中で説明します。

【評価方法】

受講態度、出席状況が評価に大きく影響します。さらに、振り返りの時間でのコメント、各プログラム終了後の感想・レポートを総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Aで扱った、心理関連の職業調べ学習の内容を復習しておくこと

心理学特講B

担当教員 安藤 清志 (世話役：山入端津由)

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学は人と人、人と社会が相互に影響を与え合う過程を科学的に研究する学問分野である。対象領域も研究方法は多様であるが、社会心理学の理論や研究成果は、社会の中で人々が「よい状態」で適応的に生活する手がかりを提供してくれるものが少なくない。この講義では、「自己」「援助」「対人関係」「説得」「喪失」をテーマにしながら、臨床心理学や福祉に関わる問題を取り上げて平易に解説する。

【授業の展開計画】

- 1回：社会心理学とその人間観
- 2回：「臨床社会心理学」の視点
- 3回：自己過程
- 4回：自尊感情の働き
- 5回：自己意識感情
- 6回：自己呈示と不適応行動
- 7回：自己正当化
- 8回：援助要請と援助の授受
- 9回：被害者・被災者への援助
- 10回：親密な関係のダークサイド
- 11回：排斥・拒絶の心理的影響
- 12回：依頼と説得
- 13回：カルトとマインドコントロール
- 14回：喪失と心理学
- 15回：トラウマと成長
- 16回：テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席回数とテストの成績によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

臨床社会心理学 / 坂本真士, 丹野義彦, 安藤清志編 東京大学出版会,
臨床社会心理学 : その実践的展開をめぐる / 田中共子, 上野徳美編 ナカニシヤ出版

心理学特講C

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、少子化や核家族などの影響で、子どもたちの社会性が欠如してきたと言われ、教育現場でも、不登校、いじめ、非行、引きこもりなどの問題が多発し、大きな社会問題となっている。

本授業では、受講者間での活動を通じて、自然な人間関係を構築できるような交流を体験させ、集団でのポジティブ体験をねらう。毎回異なる活動を提示し参加型の授業を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、非言語コミュニケーション：表情伝言ゲーム
2	言語コミュニケーション：他者紹介、共通点探し
3	言語コミュニケーション：絵の内容を伝える
4	言語コミュニケーション：ビンゴゲーム
5	問題解決スキル：問題解決のステップと問題解決のシナリオ
6	怒りのマネジメント：怒りの表現・身体と行動、怒りの対処法
7	自尊感情：いいところ探し
8	自尊感情：この人は誰でしょう
9	自尊感情：リフレーミング、つぶやき
10	自尊感情：心からの贈り物
11	ストレスマネジメント：ストレスの発見
12	アサーショントレーニング：ロールプレイ
13	自己の価値を高める：名刺交換
14	自己の価値を高める：春夏秋冬
15	自己の価値を高める：私の大切なもの
16	試験

【履修上の注意事項】

参加型授業であるので、特に出席状況を重視する。授業への参加で評価するので、遅刻や欠席は評価に大きく影響するので、注意を要する。

【評価方法】

毎回の豆テスト、試験、出席状況等を総合的に考慮して評価する。5回以上欠席した場合は、単位は与えられない。参加型授業であるため、20分以上遅刻した場合は、遅刻扱いではなく欠席扱いとする。また、遅刻の場合は3回で1回欠席とする。

【テキスト】

基本的には下記テキストを用いるが、授業の際はプリントを配布する。
新里健、島袋有子 2008『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング 33-学級経営に生かすSST』株式会社 グリーンキャット

【参考文献】

相川充 2002『人づきあいの技術-社会的スキルの心理学』サイエンス社、阿部潔 2006『日常のなかのコミュニケーション-現代を生きる「わたし」のゆくえ』北樹出版、平木典子 2005『アサーショントレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房

心理学特講D

担当教員 玉城 弘美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、落ち着きがない、指示にのらない、癩癩を起こしやすい等、「気になる子」が増えている。その中には発達障がいを抱えているにもかかわらず、周囲に理解されないまま叱責や非難を受け、不適応に陥ってしまうことがある。このような弊害を防ごうと乳幼児期の早期発見・早期対応が叫ばれているところである。この授業では、発達障がいの理解と対応について考えていきたい。特に乳幼児期の早期発見と支援、親支援のあり方について、これまで行ってきた支援をもとに進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達障がいについて・・・本を通して学ぶ
3	発達障がい—①自閉症（広汎性発達障がい、高機能自閉症、アスペルガー）
4	発達障がい—②注意欠陥多動性障害、③学習障がい
5	発達の中で障がいを考える—乳幼児期の発達
6	発達の中で障がいを考える—児童期・思春期の発達
7	早期発見—健診業務の中から
8	発達の気になる子のフォロー
9	療育について・・・親子通園
10	療育について・・・障がい児保育
11	親支援・・・親グループ（集団療法）
12	親支援・・・サポートブックの作成
13	支援者研修・・・保育士のための講座
14	事例を通して考える
15	今後の課題について
16	テスト（期末試験）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、レポート、期末試験（1回）を基に総合的に評価する予定である。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の單元ごとに資料を配布する予定である。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理検査法 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査について理解を深める。また、心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義や方法、専門的手法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を実際に試行し、結果を分析した上で、検査所見をまとめる実習を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ理解のための心理検査
2. パーソナリティの構造とテスト・バッテリー
3. 心理検査と倫理問題
4. 心理検査①-1 (質問紙法・実施法と実習)
5. 心理検査①-2 (質問紙法・理論的背景)
6. 心理検査①-3 (質問紙法・所見のまとめ方)
7. 心理検査②-1 (作業検査法・実施法と実習)
8. 心理検査②-2 (作業検査法・理論的背景)
9. 心理検査②-3 (作業検査法・所見のまとめ方)
10. 心理検査③-1 (投映法その1・実施法と実習)
11. 心理検査③-2 (投映法その1・理論的背景)
12. 心理検査③-3 (投映法その1・所見のまとめ方)
13. 心理検査④-1 (投映法その2・実施法と実習)
14. 心理検査④-2 (投映法その2・理論的背景)
15. 心理検査④-3 (投映法その2・所見のまとめ方)
16. 最終レポート作成・提出

【履修上の注意事項】

使用する検査器具や図版、用紙などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は実習する心理検査についての講義を受け、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で実習を行う必要がある。また、検査結果は実習した検査ごとにレポート提出してもらう。心理検査を実施する過程での倫理上の問題等から、心理検査についての知識が重要であるため、欠席・遅刻の多い学生は受講できなくなることもある。十分に留意して受講してほしい。

【評価方法】

出席状況、提出されたレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック」第2版 西村出版
 氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社

心理検査法Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。

特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する検査の実習を実際に施行し、結果を分析、検査所見をまとめる。実際に学齢期のお子さんに検査の協力をお願いし、実習を進めるため、検査に際しての心構え、倫理的な配慮について学ぶことがこの講義で一番重要となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション / 心理アセスメントとは
2	心理アセスメントと心理検査
3	心理検査と倫理問題①
4	心理検査と倫理問題②
5	知能とは
6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴 ・ 実習前試験
7	検査器具の取り扱いと実施
8	ウェクスラー式知能検査の実施方法
9	田中ビネー式知能検査の実施方法
10	知能検査の実際と結果のフィードバック
11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理
12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
14	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方①
15	まとめ 人を理解すること
16	

【履修上の注意事項】

使用する検査器具などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は講義、自習を通し、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で検査実習を行う必要がある。また、検査結果をレポートにまとめ提出してもらう。心理検査を実施する上での倫理上の重要な注意点、心理検査についての知識が不可欠であるため、遅刻・欠席の多い者は受講を認めない。*初日のオリエンテーションに重要な説明をする。参加できない者は受講を認めることができない。何らかの事情で初日のオリエンテーションに参加できない者は、事前に相談に来ること。

【評価方法】

出席状況、検査所見レポート2つ、試験（1回）、実習前課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 / WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版

心理統計学基礎

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、「心理統計学」「心理学研究法」という心理学研究にとって重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習で取り組む基礎実験実習、心理学専門演習Ⅰ、心理学専門演習Ⅱで取り組むゼミ研究、卒業研究(論文)につながる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、ワーク、課題などを通して、心理学研究の中での心理統計学の位置づけや役割を理解し、今後の心理学専門科目の学習に必要な学習スキルと心理統計学の基礎を身につけることを目指します。

【授業の展開計画】

下記の授業内容を予定していますが、受講者の状況を考慮して、講義内容を変更する場合があります。

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	心理学研究と心理統計学①：統計学とは？
3	心理学研究と心理統計学②：統計学の基本的な考え方
4	心理統計学入門①：変数とは何か？
5	心理統計学入門②： Σ 記号の意味
6	心理統計学入門③： Σ 記号を用いた計算
7	心理統計学初級①：度数分布とヒストグラム(1)
8	心理統計学初級②：度数分布とヒストグラム(2)
9	心理統計学初級③：代表値とは何か？
10	心理統計学中級①：散布度とは何か？
11	心理統計学中級②：正規分布とは何か？
12	心理統計学上級①：2変数間の関係：散布図と相関係数
13	心理統計学上級②：2変数間の関係：クロス集計
14	心理統計学上級③：2変数間の関係：連関係数
15	全講義内容の振り返り
16	学期末試験（予定） ※期末レポート課題に変更する場合があります。

【履修上の注意事項】

- 心理カウンセリング専攻1年次および2、3年次編入生にとって、重要な科目となるので心理カウンセリング専攻学生を優先して登録します。第1回目講義は重要な説明がありますので、必ず出席してください。
- 心理統計学や心理学研究法について理解するためには、「自分でやってみる：自分で体験する、自分で気づき、発見する、自分で考えること」が大切です。数字アレルギーを乗り越えて、講義やワーク、課題等に自ら積極的に取り組もうとする知的好奇心と自発性を持って受講して欲しいと思います。

【評価方法】

- 成績評価は、出席状況15%、参加態度30~45%、学期末課題40~55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- 授業への参加態度は主に、授業内での課題への取り組み、ホームワーク等により評価します。
- 学期末課題については、試験を実施する場合、参考書や資料等の持ち込みを可として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理統計学 I

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、心理学関連論文を読みとり、自ら実施した調査研究のデータ解析ができることを目指す。このためコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとり方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 インTRODakションと尺度について
- 2 週目 統計パッケージSPSSについて
- 3 週目 基本当計量を求める
- 4 週目 範囲、分散、標準偏差
- 5 週目 度数分布とヒストグラム
- 6 週目 正規分布、標準偏差を求める
- 7 週目 データの標準化、偏差値
- 8 週目 ふりかえり実技テスト (記述統計ほか)
- 9 週目 相関係数と散布図 (ピアソンの偏差積率相関)
- 10 週目 回帰係数
- 11 週目 t-分布と2つの平均との差の分析 (1)
- 12 週目 t-分布と2つの平均との差の分析 (2)
- 13 週目 F分布と2つの分散の比較
- 14 週目 カイ2乗分布と度数の差 (1)
- 15 週目 カイ2乗分布と度数の差 (2)
- 16 週目 期末考査

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
後期に開講する心理統計学IIも履修すること。

【評価方法】

出席5%、課題25%、テスト70%の比率で評価する。

【テキスト】

小塩真司 2006 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書 ￥2,500+税

【参考文献】

特になし

心理統計学Ⅱ

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、仮説検定を中心にコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとりと解釈、考察の仕方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 登録・ガイダンス、診断テスト
- 2 週目 仮説検定と2種の誤まり
- 3 週目 t-検定 (1)
- 4 週目 t-検定 (2)
- 5 週目 t-検定 (3)
- 6 週目 分散分析 (1)
- 7 週目 分散分析 (2)
- 8 週目 分散分析 (3)
- 9 週目 ふりかえり実技テスト
- 10週目 カイ二乗検定 (1)
- 11週目 カイ二乗検定 (2)
- 12週目 重相関係数と多変量回帰分析
- 13週目 多変量回帰分析
- 14週目 因子分析 (1)
- 15週目 因子分析 (2)
- 16週目 期末考査

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
心理統計学Ⅰを履修済みであること。

【評価方法】

出席5%、課題25%、テスト70%の比率で評価する。

【テキスト】

小塩 真司 2004 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書
00+税

¥2,8

【参考文献】

特になし

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実際等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション・授業の説明
- ②現代社会と子ども家庭 その1
- ③現代社会と子ども家庭 その2
- ④子どもと家庭福祉とは何か その1
- ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2
- ⑥子どもと家庭福祉とは何か その3
- ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1
- ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2
- ⑨子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3
- ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1
- ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2
- ⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3
- ⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 その4
- ⑭子ども家庭への援助活動
- ⑮振り返り
- ⑯テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。さらに、児童家庭福祉に関する法改正等には注目・関心をもつこと。
なお、本科目は社会福祉士国家試験の必修科目となっているため、注意すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。なお、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられないので、注意すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編集(2010)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(第2版)』、中央法規。

【参考文献】

ミネルヴァ書房編集部(各年版)：『社会福祉小六法』、ミネルヴァ書房。

情報リテラシー

担当教員 小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学生が少なくとも講義や演習、就職活動等に関わる情報収集、課題レポートの作成、学生と教員間、または学生間のコミュニケーション等に必要とされる基礎的なコンピュータ活用能力の養成を目指す。

具体的には、学内の情報環境に即したコンピュータ操作や日本語文書処理、表計算処理、プレゼンテーション表現等に加え、インターネットを利用した情報収集等情報技術の活用に関わる基礎的技能の習得を図る。”

【授業の展開計画】

パソコンを日常で利用する上で必要な知識、ワープロソフト、表計算ソフト、インターネットや電子メールの基本的な操作を修得することを目指す。本講義では「タイピング」「コンピュータ知識」「電子メール」「インターネット」「情報モラルとセキュリティ」「ワープロ」「表計算」の各分野について講義ならびに演習を通して学習していく。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	コンピュータ知識
3	OS (1)
4	OS (2)
5	ネットワーク (1)
6	ネットワーク (2)
7	情報モラルと情報セキュリティ
8	ワープロ (1)
9	ワープロ (2)
10	ワープロ (3)
11	表計算 (1)
12	表計算 (2)
13	表計算 (3)
14	プレゼンテーション (1)
15	プレゼンテーション (2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

受講は人間福祉学科の学生に限定する。

【評価方法】

出席、学期末試験、課題提出に基づき評価する。

【テキスト】

富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスターパソコン検定 (P検) 4級対策テキスト&問題集」, FOM 出版

【参考文献】

マイクロソフト/e-AT利用促進協会「ICTアクセシビリティ」 e-AT利用促進協会 (2011)
e-AT利用促進協会「詳解 福祉情報技術」 e-AT利用促進協会 (2011)

人格心理学

担当教員 櫻井 研司

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 性格心理学領域の主要な理論を理解する。
2. 人々の行動と性格の関連性について理解を深める。
3. 心理学研究における性格の取り扱いについて理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	性格の概念・測定(第一章と第二章)
3	性格の諸理論(第三章)
4	類型論(第四章)
5	特性論(第五章)
6	性格の発達(第六章)
7	人間のライフサイクル(第七章)
8	親子関係と性格(第八章)
9	人間関係と性格(第九章)
10	職業適正とは何か(第十一章)
11	性格の正常・異常(第十三章)
12	性格の適応的变化(第十四章)
13	文化とパーソナリティ(第十五章)
14	まとめ
15	期末試験
16	期末試験フィードバック

【履修上の注意事項】

担当講師からの一方的な講義とならないよう、ディスカッション等を交えながら進めていきたい。

【評価方法】

出席・・・・・・・・・・10%

リフレクション*・・・・・・・・10% X 3 = 30%

期末試験・・・・・・・・・・60%

・リフレクションのテーマは、事前に講師より承諾を受けること。

【テキスト】

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 (2003). 性格心理学への招待(改訂版) 梅本堯夫・大山正(監修) サイエンス社(2205円)

【参考文献】

適宜紹介する

人体の構造と機能及び疾病

担当教員 鈴木 信

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 身体の仕組み（解剖）と働き（生理）を理解した上に系統臓器別に主な疾病についての知識を得る
2. 社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の受験のための資格科目であるため、国家試験受験に必要な知識を修得して、国家試験に備える。
3. MSW、PSW、臨床心理士に最も基礎になる知識であるから、福祉・心理の専門科目を履修するために身体についての基礎知識の修得は必須である。
4. 高校の保健福祉の教師を目指す者にも必須科目である。

【授業の展開計画】

1. 教育効果を高めるために、グループ学習を計画しているので人数を制限して学習意欲の低い学生を除外する。その意味で事前にアンケートをとって、96名以下に限定する。（できれば48名）
2. 中学・高校で保健を習得した知識を思い出すために、系統臓器別の身体の仕組みと働きについての資料を配布し、授業の前に予習をしてもらうこと。
3. 身体の仕組みと働きについて個別に質問して理解度チェックし、不足ないし、誤解している箇所を補填する。
4. 次回の授業の最初の10分をコメントに書かれた質問に対しての回答にあてる（10分）

週	授 業 の 内 容
1	医療と寿命：医療の発展とともに人間の寿命がどのように変わったか
2	病気と健康：病気と健康の間の病態の段階を知る、病気の原因や健康の原因を理解する、医学と医療学
3	運動と骨格：運動中枢の指令によって関節を超えた、筋肉の収縮により身体活動が起こる。その生理
4	摂食と消化：食物を摂取消化し身体の組織となる過程を知る
5	血行動態：心臓と血管系の血行動態を知る
6	心臓の自動能力：心臓の刺激伝導系と固有心筋の活動を知る
7	排泄：内呼吸とネフロンを通しての老廃物の排泄機能を知る
8	妊娠と分娩：性殖・妊娠・分娩の意義と経過を知る
9	臓器相関：ホルモンを介しての臓器相関を知る。代謝に関わる肝臓・脾臓の働きを理解する
10	血液と免疫：姿の一定しない臓器である体液、血液の組成とその臨床的意義を知る。
11	脳で感知：感覚器で感受したインパルス（刺激）から脳は独特のイメージをつくる
12	脳の働き：脳の中核局在と総合的機能の理解
13	内部環境とストレス反応：内部環境をコントロールする視床下部とストレス反応を理解する
14	人の死：人の死を分析しホスピスとスピリチュアルヘルスを考える
15	テスト
16	予備日

【履修上の注意事項】

1. 必ず予習をしてもらうこと。
2. 毎回コメント用紙を授業開始時に配布し、終了時に提出する。
3. コメント用紙を回収し、普段点を採点し解答状況によって加点したり減点したりする。
4. 授業開始時20分以内でコメント用紙を手渡すが、20分以降の遅刻者は欠席とする。
5. 出席を採点し成績に加える。欠席者は大学公認の欠席届を一週以内に提出した場合は、無断で欠席は-2点、公欠は-1点とする。
6. 欠席者は1週以内に自製のコメントを提出する。
7. 欠席の場合、コメント用紙の提出がないとコメント点が-2点

【評価方法】

- | | |
|-------------------|-----|
| 1 出席点 | 30点 |
| 2 コメント点 | 30点 |
| 3 予習による評価、質問等への参加 | 20点 |
| 4 テスト点 | 20点 |

1～3の項目(出席, コメント, 討論)で80点を獲得者はテストを免除する。なお、遅刻は4回をもって1回欠席とする。

【テキスト】

【参考文献】

- 1 配布した資料
- 2 医療科学
- 3 新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」

スクールソーシャルワーク論

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「スクールソーシャルワーク(以下、SSW論)」では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカー(以下、SSWr)が必要なのか、またその歴史・動向について学ぶ。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともに、SSWの基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の目的等
2	学校における現代的課題 その1
3	学校における現代的課題 その2
4	SSWとは？ その1
5	SSWとは？ その2
6	SSWとは？ その3
7	SSWの歴史と動向
8	学校教育の特徴
9	教育(学校)が連携する機関とその機能
10	SSWの基礎理論
11	SSWの展開過程 その1
12	SSWの展開過程 その2
13	SSW実践 その1
14	SSW実践 その2
15	SSWの課題と展望
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSW限らず、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

山野・野田・半羽編著(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

山下ほか編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。門田光司(2010)：『学校ソーシャルワーク実践』、ミネルヴァ書房。学校SW学会編(2008)：『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規。山下英三郎(2006)：『相談援助—子どもたちとの関わりを中心に—』、学苑社。

ストレス・マネジメント

担当教員 平山 篤史、上田 幸彦、他5名予定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスについての基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的な支援技法について学ぶ。心理学的な支援技法については、実技も取り入れ、受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対応し、自らの心身の健康の維持増進に資することもねらう。本講義は、専任教員と臨床現場で活躍する臨床心理士がオムニバスで担当し、地域での心理学専門家の役割についてもふれる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/ストレスとは何か
2	ストレスと身体・ストレス関連疾患
3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因
4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究
5	ストレス援助要因②対人関係とその研究
6	ストレスの測定と評価
7	対処法/リラクゼーション総論
8	理論：自律訓練法
9	実技：自律訓練法
10	理論と実技：呼吸法
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想
12	理論：動作法
13	実技：動作法
14	理論と実技：認知行動療法①
15	理論と実技：認知行動療法②
16	試験

【履修上の注意事項】

実技も行うので、真剣に、積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する。

精神医学

担当教員 知名 孝、他

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、精神医学の基礎（生物・神経学的、心理学的基礎、疾患・症状という基礎概念、その他精神医学理解のための基礎知識）に関する学習を行う。それをふまえ、各論では代表的な精神疾患についての学習を行っていく。治療論・リハビリテーション論のなかでは、医療的側面だけでなく、福祉、行政、教育、そして社会状況等の要因、あるいは地域文化に根ざした治療など、精神科サービスに付随する様々な取組も含め紹介・学習していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入・オリエンテーション（知名孝）	17	心理発達の障害（仲俣明夫）
2	精神医学の基礎（仲俣明夫）	18	心理発達の障害（仲俣明夫）
3	精神医学の基礎（仲俣明夫）	19	ジェンダーの問題と精神疾患（竹下小夜）
4	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	20	ジェンダーの問題と精神疾患（竹下小夜）
5	同 上（大鶴卓）	21	職場環境と精神疾患（山本和儀）
6	統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害	22	職場環境と精神疾患（山本和儀）
7	同 上（佐久本昇）	23	精神障害者支援（安村勤）
8	気分障害（躁うつ病・うつ病）（長田清）	24	精神障害者支援（安村勤）
9	気分障害（躁うつ病・うつ病）（長田清）	25	医療観察法と精神障害（真栄城兼秀）
10	症状性を含む器質性精神障害（小林敬）	26	医療観察法と精神障害（真栄城兼秀）
11	症状性を含む器質性精神障害（小林敬）	27	コメディカルと精神医学実践（平安良次）
12	地域精神医療（知念襄二）	28	コメディカルと精神医学実践（平安良次）
13	地域精神医療（知念襄二）	29	まとめ（知名孝）
14	神経症性障害（仲俣明夫）	30	後期テスト（知名孝）
15	人格障害（新垣淑巳）	31	テストの解答説明・講義の評価（知名孝）
16	心理発達の障害（仲俣明夫）		

【履修上の注意事項】

この講義は複数講師によるオムニバスにより行われます。

【評価方法】

講義第1回目（オリエンテーション）資料に記された年間の課題が出される。その課題の提出状況、出席、各講師の講義の要約と感想、期末テストを総合的に評価を行う。

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座第1巻 精神医学（日本精神保健福祉士養成校協会編集・中央法規）

【参考文献】

精神科リハビリテーション学

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

障害の種類にかかわらず、ノーマライゼーションの実践は地域におけるリハビリテーションを前提とする。精神障害者を対象としたリハビリテーションは、精神障害という性質からくる独自性が存在する。当事者として、家族として、市民として、そして人間として、障害とそして精神障害とともに生きることを考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	精神科リハビリにかかわる機関－保健所等
2	精神障害と精神疾患Ⅰ	18	その他関係機関
3	精神障害と精神疾患Ⅱ	19	リハビリテーション実践（計画・アセス）
4	障害者リハビリテーションという考え方	20	疾病の経過・ライフサイクル
5	精神科リハビリテーションの歴史・考え方	21	作業療法、レクリエーション療法
6	精神障害者をとりまく環境・制度（日本）	22	集団精神療法
7	精神障害者をとりまく環境・制度（国外）	23	行動療法（理論と実践）
8	精神科リハビリテーションの対象	24	認知行動療法（理論と実践）
9	リハビリテーションにおける精神保健福祉士	25	心理教育実践
10	チームをつくる	26	SSTの実際
11	脱施設化について	27	デイナイトケア
12	病院精神医療の現状	28	社会的状況でのリハビリテーション
13	社会復帰施設と社会資源	29	軽症うつ病、不安障害のリハビリ
14	社会復帰施設と社会資源Ⅱ	30	児童・思春期への実践／まとめ
15	前期まとめ	31	
16	精神科リハビリにかかわる機関－医療		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出物（宿題・講義中の課題）、授業への参加態度、学期末試験を総合的に評価をだす。

【テキスト】

『新・精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学』（精神保健福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規）

【参考文献】

『リカバリーへの道』（マーク・レーガン著、前田ケイ監訳 金剛出版）
『精神科リハビリテーション学』（蜂矢英彦、岡上和雄監修 金剛出版）

精神保健学

担当教員 渡邊 浩樹

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この20年足らずの間に社会福祉士、精神保健福祉士や臨床心理士などメンタルヘルスを取りまく資格制度が充実されてきた。それと同じくして、昨今の児童青年期が被害・加害として巻き込まれた凶悪事件、中高年の自殺、職場における精神疾患特にうつ病の問題、性犯罪の問題、軽度（高機能）発達障害の問題など、以前には比較にならないほどの多様なニーズと問題を精神保健福祉はつきつけられている。本講義では精神医療、保健、福祉など様々な現場に対応すべく、精神保健福祉の多様なニーズを紹介しながら問題提起と議論を深めていきたい

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・講義への導入	17	ひきこもり（学校・家庭の精神保健）
2	「精神」保健と社会	18	軽度（高機能）発達障害と精神保健
3	精神保健の概要	19	児童青年期のうつ病
4	精神疾患について（レビュー）	20	その他児童青年期の精神保健について
5	精神疾患について（レビュー）	21	DVと精神保健
6	ライフサイクルと精神保健福祉（乳幼児期）	22	児童虐待と精神保健
7	ライフサイクルと精神保健福祉（就学前期）	23	中高年の自殺、うつ病、EAP
8	ライフサイクルと精神保健福祉（学童期）	24	アルコール依存症
9	ライフサイクルと精神保健福祉（青年前期）	25	薬物依存症
10	ライフサイクルと精神保健福祉（青年後期）	26	慢性精神疾患と保健・福祉
11	ライフサイクルと精神保健福祉（成人期）	27	慢性精神疾患と保健・福祉
12	ライフサイクルと精神保健福祉（中高年期）	28	諸外国の精神保健福祉
13	精神障害者に対する精神保健福祉	29	
14	老人性痴呆疾患対策	30	全体まとめおよびテスト
15	前期まとめおよびテスト	31	
16	いじめと登校拒否（学校精神保健）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

前期・後期それぞれの学期末にテストを行う。

【テキスト】

レジュメプリント

『精神保健福祉士養成講座2 精神保健学』精神保健福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）

【参考文献】

精神保健福祉援助技術各論

担当教員 高橋 忍

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉領域における援助ならびに援助者としての視点等について学んでいく。
内容としては、精神障害者の疾病および障害特性を考慮した上での、生活援助に必要とされる個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等について総合的な理解を深め、その援助課程における精神保健福祉士の役割や業務内容についての知識および技術について学んでいく。さらに視聴覚教材等を用いて、欧米、日本国内等で開発され、現在、取り組まれているモデル等についても紹介をし、複合的な視野を持つ一助としたい。

【授業の展開計画】

講義のなかで詳細説明する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉援助技術総論

担当教員 山城 涼子 (世話役：知名 孝)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. ソーシャルワークを総合的に学ぶことで、人を支援する者として気づきを促す
2. 精神保健福祉分野で働くということを理解する
3. 精神保健福祉士として必要な知識を修得する
4. 精神保健福祉士国家試験に備える

【授業の展開計画】

- 1回：講義の進め方、この講義で何を学ぶのかを考える / 2回：日本の精神保健福祉活動
- 3回：欧米のソーシャルワークの歴史と資格化 / 4回：精神医学ソーシャルワークの発展
- 5回：ソーシャルワークの定義・目的 / 6回：ソーシャルワークの原則
- 7回：ソーシャルワークの価値 / 8回：ソーシャルワークの理念
- 9回：様々な視座について / 10回：クライアントについて（精神障害者観の転換）
- 11回：援助関係とは / 12回：援助目標・援助原則
- 13回：ソーシャルワークの基本的なプロセスと種類（1）
- 14回：ソーシャルワークの基本的なプロセスと種類（2）
- 15回：予備日 / 16回：まとめ、前半の試験

- 17回：直接援助技術 / 18回：間接援助技術
- 19回：関連援助技術 / 20回：ライフサイクルとメンタルヘルス（1）
- 21回：ライフサイクルとメンタルヘルス（2）
- 22回：医療機関・司法・教育機関等における精神保健福祉士の役割
- 23回：当事者との協働 / 24回：援助態度の形成
- 25回：コミュニケーション技法の獲得にむけて / 26回：面接について
- 27回：スーパービジョン / 28回：記録の意義と方法
- 29回：国家試験対策（1） / 30回：国家試験対策（2）
- 31回：予備日 / 32回：まとめ、後半の試験

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、課題、講義中の参加態度、試験によって評価する

【テキスト】

【参考文献】

新精神医学ソーシャルワーク / 柏木昭編著 岩崎学術出版社,
支援者が成長するための50の原則：あなたの心と力を築く物語 / 川村隆彦著 中央法規出版,
Social work practice : a generalist approach / Johnson, Louise C. ミネルヴァ書房

精神保健福祉論

担当教員 真栄平 勉、山城 涼子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 6

【授業のねらい】

精神保健福祉分野で働くということを理解する。精神保健福祉分野から障害者のおかれた状況を歴史や制度を通して理解する。精神保健福祉士として必要な知識を習得する。精神保健福祉士国家試験に備える。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

前期は山城が、後期は真栄平が講義を担当するため、両講師が行う試験及びレポートの評価、出席状況等を元に、精神保健福祉論の最終的な評価を行う。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉論 中央法規出版

【参考文献】

精神保健福祉用語辞典 中央法規出版社、平成22年度版 厚生労働白書 厚生労働省、※その他、講義を進めていく中で随時紹介する

生命哲学

担当教員 大城 信哉

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講座は福祉もしくはその関連領域を志す人を主たる対象として、生命ということについてやや立ち入って考えてみることで、人間について理解を深めることを目的とする。

生命について考えるとと言えば生物学を思い浮かべるのが自然だが、本講座では哲学の方法によるアプローチを試みる。生物学を含めた自然科学が事態を冷静に眺める態度によって客観的事実を取り出そうと努めるのに対し、ここでは我々自身がその当事者であるものとして事態を考察し、その意味を考える。したがって受講者にも自分の問題として考える姿勢が要求される。本講座が受講者諸君にとって有意義なものとなることを祈っている。

【授業の展開計画】

予定は以下のとおりだが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか聞いたら、ある程度聞く用意がある。希望があればぜひ教えてほしい。

第1回	イントロダクション	開講にあたって、講義方式など受講者諸君との合意を作る。
第2回	生命の思想史 (1)	生命についてどう考えられてきたか。古代哲学を中心に。
第3回	生命の思想史 (2)	近代自然科学の生命観。特に機械論と人間精神について。
第4回	生命の思想史 (2)	生の哲学。近代的学問への反省として。
第5回	倫理思想 (1)	生命の倫理学の土台として。まず義務論と功利主義。
第6回	倫理思想 (2)	共同体主義について。
第7回	倫理思想 (3)	インフォームドコンセントとパターナリズムについて。
第8回	生命の倫理 (1)	パーソン論。考えるものだけが人間か。
第9回	生命の倫理 (2)	脳死と臓器移植について。
第10回	生命の倫理 (3)	生命の質。「生きていても仕方がない」場合はあるか。
第11回	生命の倫理 (4)	生活の質。上記「生命の質」についての別解釈。
第12回	「私」であること	人が「私」として生きるとはどういうことか。
第13回	宗教と社会	「私」の生は「私」以外のものとどう関わるか。
第14回	あらためて生命とは	「生」の生々しさと不思議さについて。
第15回	まとめ	生命について何が理解されたらだろうか。
第16回	テスト	楽しめるように祈っている。

【履修上の注意事項】

受講者の人数にもよるが、こちらからも諸君に質問する。活発な議論となることを望む。

なお、下記の評価方法については厳正であるよう努めるが（試験やレポートで規定を守らない者は認めない）、講義の時間は諸君と楽しく共有したいとも願っている。そのためにもぜひ講義には積極的に参加してほしい。

【評価方法】

最終回に試験をするつもりだが、これも第1回で別の希望が出たら考慮する。出席も取るがこれは単位取得の最低条件で、ただ教室にいたら良いわけではない。

【テキスト】

使用しない。資料は講義中に適宜配布する。

【参考文献】

必要に応じて教室で指示する。

生理心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学の研究方法のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。生理心理学 I では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|---------------|--------------|
| 1 | 生理心理学とは | |
| 2 | 脳の構造 | |
| 3 | 〃 | |
| 4 | ニューロンとシナプス | |
| 5 | 〃 | |
| 6 | 感覚・知覚と脳 | |
| 7 | 〃 | |
| 8 | 運動と脳 | |
| 9 | 〃 | |
| 10 | 本能と脳 | |
| 11 | 〃 | |
| 12 | 情動と脳 | |
| 13 | 〃 | |
| 14 | 自律神経系及び内分泌系と脳 | |
| 15 | 〃 | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

I、IIの順で続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

生理心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学Ⅱでは、認知過程に関する神経心理学的研究及び、脳波に基づく心身の相互関係等について概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション及び脳神経系に関する基本事項の復習
- 2 薬物と脳（オピオイド、覚醒剤、アルコール等）
- 3 〃
- 4 〃
- 5 言語と大脳半球機能差（言語野と失語症）
- 6 〃（言語機能と性差）
- 7 〃（右半球症状から見た半球機能差）
- 8 脳波の基礎（測定法・分析法）
- 9 〃（基本の脳波と異常脳波）
- 10 〃（睡眠と脳波及び脳波の利用）
- 11 誘発電位と事象関連電位
- 12 事象関連電位、特にP3の特徴と利用
- 13 ストレスとリラクセーション（ストレス時の反応）
- 14 〃（測定法）
- 15 〃（ストレス反応のコントロール） 16回目にテストを行う。

【履修上の注意事項】

生理心理学Ⅰを先に履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義時に説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

1. 人間や社会に対する見方について批判的に考える視点と、自らその問題に取り組む積極的な姿勢を育てる。
2. 共同作業を通じて、人間や社会に関する諸問題の把握と分析に必要な技術を習得する。また研究活動に必要な検索技術や研究の進め方などについても、論文購読等も併用しながら理解し習得する。
3. 社会問題等に対するアプローチの全般的な方法を習得すると共に、学生各自の関心を研究課題を明確にし、可能な限り先行研究を通じて自らの課題や方法論について明確にする。

【授業の展開計画】

<前期>

- ・学生各自が、人間や社会に対する自分の見方を自由に発表して話あい、それらの課題がどのような要因から成り立っているかについて、グループ討論などを通じて考える。
- ・特に、沖縄県内での問題に絞り込むことによって、身近かな社会で起こっている問題について関心を持ち、共同して、それについての情報や資料の収集を試みる。

<後期>

- ・様々な社会問題の理解・解決のために、どのようなアプローチがあるのか、どのように問題を捉えるのか、またどうすれば、その問題の原因やメカニズムを明確にすることができるのか、討論や作業などを通して考え、共同作業を通して方法論等を理解する。
- ・学術雑誌に掲載された論文の中から、取り組んできた問題に関連する論文を探し出し、問題把握の方法や分析の方法、まとめの方法等について、購読や討論を通じて理解を深める。
- ・共同の作業と並行して、各自が考え関心を感じる諸問題について発表し、課題のポイント、アプローチや分析の方法等について、可能な限り明確にする。

【履修上の注意事項】

- ・共同作業の目的を明確に理解し、主体的に参加すること。
- ・日頃から、新聞の切り抜きや自分の関心のある問題について、系統的に情報や資料を収集し、自分の取り組む課題について明確化するように努めること。
- ・一年のゼミ活動を通じて、情報検索、調査法、分析法、まとめ方や論文の形式など、そして自分の課題等について、自分の言葉で説明できるようになること。

【評価方法】

- ・出欠の状況、授業態度、グループ活動への取り組み、授業目的の達成度などを総合して評価する。

【テキスト】

- ・必要に応じて文献を紹介する。
- ・資料を作成し配布する。

【参考文献】

- ・必要に応じて指示する。

専門演習 I

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。

また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもの抱える問題の背景には保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、子どもを取りまく環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。

ゼミでは特に「スクールソーシャルワーク」と「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。その柱は下記に示す。

「スクールソーシャルワーク」

- ・その現状及び課題
- ・諸外国の現状（英書購読含む）
- ・学校等関係機関訪問 等

「ソーシャルワークスキル」

- ・社会福祉専門職（社会福祉士）として現場で求められるスキル（対個人・グループ）の修得
- ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等

なお、現場理解のためにボランティア活動及びゼミ単位での施設・機関への訪問も計画している。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

必要に応じ開講時に提示する。

専門演習 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「福祉」と「人間」「自我」「倫理」「自由」「障害」などとの関わりについて、理念と現実の両面をみすえた社会哲学の見地から、さまざまに考察を試みたい（学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる）。哲学は本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に（ときに根底的に）検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。

【授業の展開計画】

このゼミでは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、人間や福祉のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざします。また、議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。

第1回～第3回 自己紹介の方法、論文作法、1年次の回顧（基礎演習を中心に）、面接

第4回～第5回 社会福祉の概念と歴史を学ぶ（『国民の福祉の動向 厚生指標増刊第58巻第10号』2011年）

第6回 その後の、具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについて概要を決定

半期に最低1回は具体的な議論のテーマや議論の素材を参加者それぞれに提案してもらいます。

とりあえずテーマになりそうなもの … 園芸福祉、障害をどうとらえるか、ホームレスという人生など

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習のねらいは、高齢社会を迎え、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、高齢社会を背景として、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材が強く求められている。なお、本ゼミは将来医療ソーシャルワーカーを目標とする学生の登録が望ましい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	専門演習ガイダンス	17	グループ課題の報告1、2グループ
2	グループエンカウンター①仲良くなるろう	18	グループ課題の報告1、2グループ
3	グループエンカウンター②仲良くなるろう	19	医療ソーシャルワーカーって？
4	グループ編成 グループ課題決定	20	医療ソーシャルワーカーの役割
5	グループ課題達成のための計画①	21	患者様・・・・・・・・
6	グループ課題達成のための計画②	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）
7	学外講師招聘	23	病院で起こった困った問題①
8	話題提供 認知症	24	病院で起こった困った問題②
9	話題提供 医療保険	25	3年生談話（医療現場実習で感じたこと）①
10	話題提供 介護保険	26	3年生談話（医療現場実習で感じたこと）②
11	話題提供 医療施設の種類	27	グループ課題報告書作成①
12	話題提供 介護保険施設の種類の種類	28	グループ課題報告書作成②
13	生活習慣病を知ろう①	29	グループ課題報告書作成③
14	生活習慣病を知ろう②	30	後期振り返り
15	生活習慣病を知ろう③	31	1年間を振り返って
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

本専門演習を履修する学生は、医療福祉論、社会保障、保健医療サービス、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目を同時履修することが望ましい。

【評価方法】

演習への出席、受講態度、意見発表の積極性、課題提出状況など総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは、都市社会のコミュニティ再生に関する知識を実践的に学習し、将来的に地域（福祉）計画やまちづくりに関わるリーダーやコーディネーター、さらに社会問題やマイノリティの問題などに関わるネットワーク構築などの人材を育成していくためのゼミである。その学習過程において地域の諸問題や課題を整理し、記述していくために「社会調査」の技法を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、都市社会およびコミュニティに関する洞察力をさらに深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「観光都市における社会的排除と公共空間の可能性」と題する。すなわち、観光産業を経済基盤とした沖縄の都市空間において、社会的、経済的、身体的・精神的ハンディキャップを負った者たちが社会的に排除されているあるようを明らかにし、今後の都市の公共空間およびコミュニティのあり方を模索するための理論的、および実践的研究を行なうものである。

まず、2年次（専門演習I）では、前期に都市空間の社会的排除に関する諸問題の実情と生活世界を理解するための学習を行なう。夏期休暇期間中は、文献・資料と併せて都市地域（調査予定地）の視察と関係各機関・団体を事前訪問し予備的調査を行う。後期は、都市の公共空間に関する理論的学習と実践論・運動論的な手法を学習する。その後、ゼミの共通テーマを確定・具体化し、さらに下位テーマを抽出する。下位テーマに即して春季休暇期間中に資料等の収集を行なう。

3年次（専門演習II）ゼミでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は、沖縄島の中南部都市圏の中からコミュニティを複数の地点で取り上げ、その実態と生活世界の諸相を取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論I・II」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学I・II」ならびに「家族社会学I・II」を履修すること。

【評価方法】

専門演習Iは、3年次「専門演習II」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性も評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

1. 発達理論：エリクソン、フロイト、M. マーラー、ボウルヴィーなどの発達理論から、人の成長・発達について考えていく。
2. 診断学：発達障害、子ども特有の精神疾患について掘り下げて学習する。DSMやICDなどの疾患分類をきちんと把握する。行動アセスメント・心理アセスメントが理解できるようにする。
3. 地域支援：自立支援法におけるサービスについて制度上の学習、自立支援協議会とそれに付随した分科会の果たす役割。様々な公的機関、各種事業所の役割。
4. 支援理論：支援理論については以下のようにまとめられる。
 - i) ソーシャルワーク理論：機能主義的理論からシステムズ理論に影響されたソーシャルワーク理論、そして昨今のナラティブアプローチなどのソーシャルワーク理論。特に「調整」に関する支援理論を中心に。
 - ii) グループ実践：SST（ソーシャルスキル・トレーニング）、心理教育プログラムなど。
 - iii) ミリユール（生活場面介入）：TEACCHやABAなど、施設生活・児童デイ生活のなかで具体的な介入のための支援理論を中心に。
 - iv) 面接法：地域支援は人とのやりとり。やりとり法（＝面接法）はSWにとって重要な技術。
5. 実習・実践：児童デイサービスや日中一時支援、児童思春期心療内科クリニックなどでボランティア実習、自立支援協議会の見学、自立支援協議会圏域部会の見学、（ある市町村の）性行動問題部会の見学など。
6. 社会的に考える視点：「子ども達の行動の問題」が投げかける意味（唯物論的意味の検証）、「診断」、「障害」という現象の社会構成主義的認識。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

【テキスト】

ゼミのなかで指定していく

【参考文献】

ゼミのなかで指定していく

専門演習 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当基礎演習では国際社会における福祉問題を幅広く学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

授業は議論形式で、国際社会における福祉問題の論点を学んでいく。各回の授業ごとにグループ発表をもとに授業をすすめる。本講義に関連する国際フィールドワークへ参加をすすめ、夏休みにハワイ州のソーシャルワークについて現地で体験学習を実施する。後期には国外、国内および沖縄にある国際社会福祉組織について学ぶ。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Orientation	17	Orientation
2	グローバリゼーション時代の意義	18	発表グループ決め、テーマ決め
3	国際社会福祉の意義と展望 I	19	国際フィールドワーク報告
4	国際社会福祉の意義と展望 II	20	Student Presentation ①
5	国際社会福祉の課題	21	Student Presentation ②
6	「拡大する格差」を引き継ぐ未来世代	22	Guest Lecture
7	アジアの貧困と環境問題	23	Student Presentation ③
8	国際社会システムの形成とその視点 I	24	Student Presentation ④
9	国際社会システムの形成とその視点 II	25	Student Presentation ⑤
10	Guest Lecture	26	JICA国際協力フェスティバル参加
11	国際社会福祉の領域における日本の役割	27	Student Presentation ⑥
12	JICA見学ツアー	28	Student Presentation ⑦
13	社会福祉のグローバル化と国際協力	29	Guest Lecture
14	国際社会福祉の新たな方向	30	Student Presentation ⑧
15	沖縄県国際人材育成財団の活動について	31	Family Support Center Visit
16	まとめ		

【履修上の注意事項】

- ・講義は主に英語で行い英語の文献を併用するため、福祉英語基礎、福祉英語 I・II を履修することや各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

【評価方法】

- ・出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

- ・仲村優一、他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年

【参考文献】

- ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規
- ・M. C. Hokenstad, James Midgley (1997) Issues in International Social Work, NASW Press.
- ・その他、適宜資料を配布または紹介する。

専門演習 I

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

- ①協働をキーワードに、福祉ニーズの解決に向けた新たな支援関係編成について追究する。
- ②中でも、社会をつくるセクターとして期待されているNPO活動について、福祉国家、福祉社会、社会的企業の視点から研究する。
- ③沖縄県内のNPO活動と長期にわたって関わりを持ち、地域社会の問題解決およびまちづくりの手法について学ぶ。また、広く国内外のNPOの実践例について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション①演習の目的について	17	夏休みの活度報告会②
2	オリエンテーション②年間計画	18	社会的起業に関する文献購読①
3	協働に関する文献購読①	19	社会的起業に関する文献購読②
4	協働に関する文献購読②	20	論文の書き方について
5	協働に関する文献購読③	21	小研究の準備①
6	協働に関する文献購読④	22	小研究の準備②
7	NPO活動支援センター訪問	23	小研究の準備③
8	県社会福祉協議会訪問	24	NPO団体訪問
9	ゲストスピーカーによる実践報告	25	ゲストスピーカーによる実践報告
10	グループ研究～理論を中心に～①	26	中間報告会①
11	グループ研究～理論を中心に～②	27	中間報告会②
12	グループ研究～理論を中心に～③	28	中間報告会③
13	グループ研究発表会①	29	報告集作成①
14	グループ研究発表会②	30	報告集作成②
15	夏休みの活動について	31	
16	夏休みの活動報告会①		

【履修上の注意事項】

- ①演習はゼミ生どおしが活発に関わりあい、知識や経験を共有し、互いに高めあう場である。個々の学生がゼミの仲間と積極的に学びあうことが期待される。
- ②学外の活動やイベント（NPOに関する講演会や研究会、NPO団体の活動など）に積極的に参加することが期待される。
- ③演習時には研究論文を多数読む。日頃から図書館を活用して知識を広げることが期待される。

【評価方法】

- ①演習で取り組む課題の内容
- ②演習および学生による自主的な活動への積極的な参加状況
- ③出席状況
- その他

【テキスト】

第1回演習時に提示する

【参考文献】

第1回演習時に提示する

専門演習Ⅱ

担当教員 保良 昌徳

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰの成果をもとに、以下の点の修得を目的とする。

1. 文献を通して、人間や社会の捉え方について理解する。
2. 各自の設定した課題を取り組みを通して、研究の進め方を修得する。
3. 現場との関係を重視し、積極的に調査・学外活動にも取り組む。
4. 卒業生・外部との交流を積極的にもち、自らの将来・進路等を考える。
5. 外部での活動を企画・実施することによって社会性を育てる。

【授業の展開計画】

本演習では、前半に学術研究の理解、後半を個別課題を中心に取り組む

前期（学術研究の理解）

- ・各自の研究課題の設定
- ・先行研究の精読と研究の位置づけ
- ・研究法に関する理解
- ・訪問調査・交流（福祉現場の題等等）
- ・各自の卒業発表のテーマ・取り組み等を明確にする。
- ・個別計画の取り組み計画のまとめ
- ・大学院修士論文中間報告会への参加
- ・個別課題の取り組み計画の確定

後期（個別課題への取り組み）

- ・自主研究
- ・個別研究の進捗状況の報告
- ・個別研究の個別指導
- ・訪問調査・交流（福祉施設）
- ・グループによる取り組み
- ・研究会等の計画・開催
- ・卒業生との交流等

【履修上の注意事項】

1. 自分の課題を明確にして確実な取り組み計画を立てること。
2. グループ活動には役割を明確して、積極的に取り組むこと。
3. 指定された課題等については、期日を厳守すること

【評価方法】

1. クラス・活動等への出席は重視する（欠席は4点、遅刻は2点減点）
2. レポート等の提出状況も同様に重視する（不提出4点、遅れ2点減点）
3. ゼミ活動への取り組みも、自己採点も参考にしながら評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考文献】

必要に応じて配布する。

専門演習Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

国際社会福祉の領域では、途上国をはじめとする世界全体の社会福祉問題へのとりくみとソーシャルワーカーによる役割が重要となっている。本演習では、専門演習Ⅰで学んだ国際社会福祉に関する問題や論点について、国際福祉の観点からグループ調査を通して体験的に学ぶことを目的とする。グループ調査をとおして社会調査士の資格を習得し社会福祉的視点から問題背景や現状を学び、課題研究へつなぐ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	オリエンテーション
2	課題研究についてⅠ	18	課題研究指導・作成
3	課題研究設定・グループ分け	19	課題研究指導・作成
4	テーマ・サブテーマの決定	20	課題研究指導・作成
5	課題研究準備	21	課題研究指導・作成
6	課題研究準備	22	課題研究指導・作成
7	課題研究についてⅡ	23	課題研究指導・作成
8	課題研究の経過発表準備	24	課題研究発表
9	課題研究の経過発表準備	25	課題研究発表
10	課題研究の経過発表準備	26	課題研究提出
11	グループ発表Ⅰ	27	課題研究修正
12	グループ発表Ⅱ	28	課題研究修正
13	グループ発表Ⅲ	29	課題研究最終提出
14	グループ発表Ⅳ	30	文集作成開始
15	前期まとめ	31	文集作成・まとめ
16			

【履修上の注意事項】

- ・演習は英語と日本語で行い、英語の文献も使用するため、「福祉英語基礎」「福祉英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修することや、各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し既定の講義を履修すること。

【評価方法】

- ・出席状況・レポート発表の内容・演習中の議論など授業への参加意欲・課題研究の内容を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
演習時に適宜紹介する。

【参考文献】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

専門演習Ⅱ

担当教員 知名 孝

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

前半は児童思春期のメンタル、虐待ひきこもりや児童虐待等と関連する生活問題について理解を深めていけるような学習をすすめていくようにしたい。後半は学生それぞれが自らの興味関心を見つけることができ、次年度の卒業論文研究へとつなげられるような学習をすすめていく。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは、都市社会のコミュニティの構築に関する知識を実践的に学習し、将来的に地域（福祉）計画やまちづくりに関するリーダーやコーディネーター、さらに社会問題やマイノリティの問題などに関するネットワーク構築などの人材を育成していくためのゼミである。その学習過程において地域の諸問題や実践的課題を整理し、記述していくために「社会調査」の技法を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをととして、都市コミュニティに関する洞察力をさらに深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「観光都市における社会的排除と公共空間の可能性」と題する。すなわち、観光産業を経済基盤とした沖縄の都市空間において、社会的、経済的、身体的・精神的ハンディキャップを負った者たちが社会的に排除されている有りようを明らかにし、今後の都市の公共空間およびコミュニティのあり方を模索するための理論的、および実践的研究を行なうものである。

まず、2年次（専門演習Ⅰ）では、前期に都市空間の社会的排除に関する諸問題の実情と生活世界を理解するための学習を行なう。夏期休暇期間中は、文献・資料と併せて都市地域（調査予定地）の視察と関係各機関・団体を事前訪問し予備的調査を行う。後期は、都市の公共空間に関する理論的学習と実践論・運動論的な手法を学習する。その後、ゼミの共通テーマを確定・具体化し、さらに下位テーマを抽出する。下位テーマに即して春季休暇期間中に資料等の収集を行なう。

3年次（専門演習Ⅱ）ゼミでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は、沖縄島の中南部都市圏の中からコミュニティを複数の地点で取り上げ、その実態と生活世界の諸相を取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」を受講すること。

【評価方法】

専門演習Ⅰは、3年次「専門演習Ⅱ」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性は当然評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 岩田 直子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・行政、企業、NPOの「協働」による社会福祉実践について、その理論を学ぶと共に、「協働」の現状や課題について学ぶ。
- ・参加学生の関心分野においてどのような協働が行われているのか、どのような課題があるのか深く追究する。
- ・論文作成を通して研究することの楽しさと意義を理解する。

【授業の展開計画】

前期は、より議論を深めるために、ディベートを行う。また、課題研究に向けて個人面談を行う。
後期は、課題研究の中間報告を中心に演習を進める。

【履修上の注意事項】

- ・ボランティアや実習、講義等でみつけた各自の関心テーマを深く研究することを目標とする。なので、演習時間以外にも、積極的に関連する団体に関わることを期待する。
- ・図書館を活用し、広く視野を広げることを期待する。
- ・ゼミ生どおし互いに高めあい、成長しあうことを期待する。

【評価方法】

出席状況、レポート提出状況およびレポート内容、議論への積極的参加など

【テキスト】

随時、文献および資料を紹介する

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「専門演習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。

以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（施設養護・家庭養護）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。

- ①「子どもの貧困」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ②「児童虐待」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ③「社会的養護」
 - ・施設養護（本体施設・グループホーム）及び家庭養護（里親・ファミリーホーム）それぞれの現状及び課題
 - ・諸外国の現状
 - ・児童福祉施設・機関訪問 等
- ④「スクールソーシャルワーク」
 - ・その役割・機能
 - ・その現状と課題
 - ・学校等関係機関訪問 等

なお、学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位でのプレゼンも行う。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。日本子ども家庭総合研究所編(2009)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。山野・野田・半羽編(2011)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。日本SSW協会編(2008)：『スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

専門演習Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる。哲学は本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。3年次は卒論に向けて調査や文献探索など具体的な作業に着手する。

【授業の展開計画】

このゼミでは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、人間や福祉のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざします。また、議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。

第1回～第3回 自身の研究テーマについて、面接

第4回～第5回 社会福祉の概念と歴史を学ぶ（『国民の福祉の動向 厚生指標増刊第58巻第10号』2011年）

第6回～第8回 社会福祉を巡る近年の動向と背景（『国民の福祉の動向 厚生指標増刊第58巻第10号』2011年）

第9回以降 各人の研究テーマについて発表、議論

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習Ⅱの目的は2点である。①我が国の医療構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解を深める。②「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療資源①人・物・財	18	介護保険サービスを理解する①資源
3	我が国の医療資源②病院・診療所	19	介護保険サービスを理解する②資源
4	沖縄県における医療資源①医療施設	20	介護保険サービスを理解する③資源
5	沖縄県における医療資源②医療施設	21	介護保険サービスを理解する④社会人招聘
6	演習：病院を理解する①	22	演習：介護保険施設理解①見学（グループ）
7	演習：病院を理解する②	23	演習：介護保険施設理解②見学（グループ）
8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	24	演習：介護保険施設理解③見学（グループ）
9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	25	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	26	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	27	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	28	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	29	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	30	報告会：演習成果を全員で共有する。
15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカーを目指す学生で、専門演習Ⅰで安次富ゼミを履修した学生の登録を原則とする。同演習と医療福祉論、保健医療サービスを同時履修することが望ましい

【評価方法】

演習報告、課題提出、ゼミ出席状況など総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。

【参考文献】

①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

相談援助の基盤と専門職

担当教員 一竹藤 登

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

「相談援助の基盤と専門職」では、まず社会福祉専門職としての社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解する。相談援助の概念と範囲、理念についても理解する。さらには、相談援助に係る専門職の概念、範囲及び専門倫理についても理解する。

それらを踏まえた上で、総合的かつ包括的な援助と他職種間の連携の意義と内容について学びを深める。

【授業の展開計画】

前期	後期
① オリエンテーション・授業の説明	① 後期オリエンテーション・授業説明
② 社会福祉士の役割と意義 その1	② 専門職倫理と倫理的ジレンマ その1
③ 社会福祉士の役割と意義 その2	③ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その2
④ 相談援助の定義と構成要素 その1	④ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その3
⑤ 相談援助の定義と構成要素 その2	⑤ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その1
⑥ 相談援助の形成過程Ⅰ その1	⑥ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その2
⑦ 相談援助の形成過程Ⅰ その2	⑦ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その3
⑧ 相談援助の形成過程Ⅱ その1	⑧ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 その1
⑨ 相談援助の形成過程Ⅱ その2	⑨ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 その2
⑩ 相談援助の形成過程Ⅱ その3	⑩ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その1
⑪ 相談援助の理念Ⅰ その1	⑪ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その2
⑫ 相談援助の理念Ⅰ その2	⑫ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その1
⑬ 相談援助の理念Ⅰ その3	⑬ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その2
⑭ 相談援助の理念Ⅱ その1	⑭ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その3
⑮ 相談援助の理念Ⅱ その2	⑮ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その4
⑯ 前期末テスト	⑯ 後期末テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、社会福祉専門職（社会福祉士等）を取り巻く環境に関心をもち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

特に、関連する法改正等には注目・関心をもつこと。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び前・後期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、中央法規。

【参考文献】

柳澤孝主・坂野憲司編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、弘文堂。

相談援助の理論と方法

担当教員 知名 孝、他

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 8

【授業のねらい】

ここ数年相談支援が委託事業化されることにより、ケアマネジャーや相談支援専門員といわれる、相談支援の専門家が地域の支援サービスの中核として存在しはじめています。この講義では、ソーシャルワークを中心につくりあげられた「相談支援」という実践のあり方・考え方を紹介することを目的とする。ケースワーク、グループワーク、様々な協議会を通じたワークの現実、資源を立ち上げること、社会的支援を組み立てることなど、ソーシャルワーカーとして必要とされる多様な活動の概要にふれていきたい。

【授業の展開計画】

ソーシャルワーカーとして持っていたいいくつかの視点（パラダイム）、理論などの概論と具体的な技法（面接、介入技法など）を組み合わせた講義の構成となっている。前期は知名孝、後期は島村聡を中心に現場実践をリードする講師によるオムニバス講義を展開する。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	社会福祉実践とは何か	17	ケアマネジメントの理論と実践
2	ソーシャルワーク実践ってどんなもの？	18	利用者・家族の想いを聴く
3	様々なソーシャルワーク実践形態	19	アセスメントと個別支援計画作成
4	SW理解のためのいくつかの視点（1）	20	社会資源をつくりだす
5	SW理解のためのいくつかの視点（2）	21	支え合うためのグループワーク
6	医療モデル、生活モデル、社会モデル	22	生活場面における支援実践（1）
7	「資源」について—formal vs informal	23	生活場面における支援実践（2）
8	相談援助の展開過程（1）	24	生活場面における支援実践（3）
9	相談援助の展開過程（2）	25	地域活動支援センターの相談支援
10	「契約」について	26	病院場面における相談支援
11	地域支援システム	27	高齢者支援のための相談支援
12	精神分析の考え方とソーシャルワーク	28	ひきこもり・ホームレスと相談支援
13	システム理論・生態学的アプローチ	29	母子保健・療育・教育と相談支援
14	行動変容理論・課題中心アプローチ	30	事例検討
15	ポストモダニズムとナラティブ	31	後期まとめ、1年のまとめ
16	前期のまとめ（テスト）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の内外で出される課題（毎週だされる課題、講義中のグループワークその他の課題）の提出状況、そして前期・後期に行われる試験の結果を総合的に評価をだす。

【テキスト】

社会福祉士養成講座 『相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ』（最新版）、中央法規

【参考文献】

各担当教員が随時紹介する。

卒業演習

担当教員 保良 昌徳

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、本学人間福祉学科で学んだ学問的な成果をふり返り、学生各自がその成果をもとに自分の課題を設定し、計画に従って研究等に取り組む。卒業研究は、卒業論文の他に、自らの自主的な課題を設定することができる。ただし、以下のすべての条件を満たすことが必要である。

- ① クラスで計画や手順が確認されたものであること。
- ② 本人が責任を持って取り組んだものであること。
- ③ 本人が直接関わったものであること。
- ④ 創造性・先駆性があること。
- ④ 学生としての品格を逸脱しないものであること
- ⑥ 社会的な評価が得られ(た)るものであること。

【授業の展開計画】

本演習は、以下のような計画で取り組む。

前期

- ・各自の課題の明確化
- ・個別指導
- ・課題の取り組み計画の検討・明確化
- ・「卒業課題計画書」の作成と提出
- ・取り組みについての「中間発表会」
- ・夏期休暇中の取り組み計画書の提出
- ・修士論文中間報告会への参加

後期

- ・夏期休暇中の取り組み状況の報告書提出
- ・中間報告会
- ・個別指導
- ・最終報告会の計画・開催
- ・『卒業課題報告書』の作成

【履修上の注意事項】

1. 取り組みの段階を明確に理解し、余裕を持って課題に取り組むこと。
2. 期日を超えた課題等の変更はしないこと。
3. レポート等は期限・分量を守ること
4. レポート等の書式・引用等は厳守すること。

【評価方法】

1. 出席・欠席は重視する。(欠席4点、遅刻2点減点)
2. レポート等の提出期限・条件等は重視する。(不提出4点、遅れ2点減点)
指定された書式、分量に満たないものは不提出と見なす。
3. 無断引用が発覚した場合のレポート等は評価の対象としない。
最終提出物に無断引用・使用があった場合は「不可」とする。

【テキスト】

必要に応じて指定または資料等を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

卒業演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、まず、問題・課題を含むテーマを決定し（問題発見）、それについて資料収集・社会調査を実施して論理的・実証的に論述（批判的検討）していく。最終的には、テーマに含まれる問題・課題について結論が導き出される（問題解決）ことになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	17	データ入力・集計方法2
2	卒論作成に向けて概説	18	データ入力・集計方法3
3	卒論研究プロトコル作成法	19	データ集計・分析・執筆1
4	論文の書き方①	20	データ集計・分析・執筆2
5	論文の書き方② 文献、論文検索	21	データ集計・分析・執筆3
6	卒論テーマ作成のための個人面談1	22	データ集計・分析・執筆4
7	卒論テーマ作成のための個人面談2	23	データ集計・分析・執筆5
8	卒論テーマ作成のための個人面談3	24	データ集計・分析・執筆6
9	卒論テーマ作成のための個人面談4	25	卒論発表会1
10	卒論テーマの決定とプロトコル作成	26	卒論発表会2
11	卒論プロトコル提出	27	卒論発表会3
12	調査票作成1	28	卒論・ゼミ論集制作1
13	調査票作成2	29	卒論・ゼミ論集制作2
14	調査依頼	30	卒論・ゼミ論集制作3
15	データ入力方法講義（CPU室にて）	31	振り返り
16	データ入力・集計方法1		

【履修上の注意事項】

初回のゼミ時間に研究テーマにしたい内容を口頭発表できるように整理しておくこと。前期で卒論テーマを確定し、夏休み前に社会調査を終了する。なお、安次富ゼミでは量的調査を中心とし、対象者は原則学生とする。したがって、調査実施は前期終了までとし、夏休み中に調査結果を集計分析し、粗原稿でよいので文章を完了させることが望ましい。後期には随時個人毎に執筆指導を行う。

【評価方法】

完成した卒業論文を客観的な評価指標とし、中間口頭発表、論文作成過程、ゼミ参加時態度などを考慮して総合評価する。なお、卒業論文の評価は、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名による。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業演習

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるものとして卒業論文執筆がある。論文執筆作成にかかる作業を行っていきなかに、自らの大学での学びを振り返り、論文という形で作りあげる作業をすすしていく

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

自らの学習を振り返り、自分が論文としてとりあげたいテーマについて決めておくこと。ある程度の論文についての構想を持っておくこと。

【評価方法】

中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

【テキスト】

ゼミのなかで指定する。

【参考文献】

卒業演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「卒業演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、文献検索、資料収集、調査等を行い、夏季の中間発表を経て、最終的に卒業論文をまとめる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：年間のスケジュールを確認
- ①「卒論の書き方」・各自テーマ決定（～5月中旬）
- ②個別指導（6月～）
- ③中間報告会（8月中旬）
- ④仮提出【ゼミ】（10月下旬）
- ⑤本提出【学科全体】（12月中旬）

2. 各自テーマの報告
3. 先行研究等の文献・資料収集
4. 個別の進捗状況の報告
5. 個別指導
6. 中間報告会
7. 最終報告会

【履修上の注意事項】

個別指導が主になるが、必要に応じて全体指導を行う。卒業論文は一朝一夕にできあがるものではなく、これまでの学びの積み重ねで作られるものである。そのため、普段から自身のテーマに関心を持ち資料収集を行うなど、より積極的・主体的に取り組むことが望まれる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況および最終的に提出された論文と論文作成への取り組み（そのプロセス）を総合的に判断して評価する。一方、「卒業研究発表」（卒業論文：4単位）は、担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

白井利明・高橋一郎(2008)：『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。
その他は、必要に応じて適宜紹介する。

卒業演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理・分析、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。前期は、6月まで企画・設計、情報や素材の収集に関するレクチャーをゼミ全体に対して行うが、7月以降は方法論の検討やデータ・素材の収集に関する手順を個別面談方式で議論していく。夏期休暇中～10月上旬までにデータや素材の収集を完了し、後期はデータや素材の整理と論文または成果物の作成に集中してもらう。なお、後期も個別面談方式を中心とし、集中的に指導する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	年間のスケジュールと諸注意	17	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）
2	各自卒業研究テーマ候補の報告	18	同上
3	各自卒業研究テーマの確定と発表	19	同上
4	同上	20	補足的な収集に関する指導
5	同上	21	データおよび素材の整理方法の指導
6	同上	22	論文または成果物の内容構成の再検討
7	卒業研究の企画・設計に向けての指導	23	個別の進捗報告と指導
8	先行研究の収集に関する指導	24	同上
9	研究の方法論に関する指導	25	同上
10	構成内容などに関する指導	26	同上
11	データおよび素材収集に関する指導	27	ゼミ全体での中間発表
12	同上	28	卒論および成果物の仮提出と修正指導
13	個別の進捗報告と指導	29	卒論および成果物の本提出
14	同上	30	卒業論文および卒業研究集の作成
15	同上	31	補講および補足的指導
16	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）		

【履修上の注意事項】

「卒業演習」（4単位・専門基礎必修）と「卒業研究発表」（4単位・専門選択）は異なるので注意する。演習は通年の4年次ゼミのことを意味し、「卒業研究発表」は教員指導のもと卒業論文または卒業研究成果物を作成し、指定期日に所定の場所に提出し「可」以上の評価を与えられた者にだけ単位が認められる。また、卒業論文または卒業研究成果物の作成要領、提出期日および提出場所等は前期に掲示板に掲示されるので、ちゃんと確認すること。

【評価方法】

「卒業演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業研究発表」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって審査を行い、評価が与えられる。評価は、形式的なルール、研究上の意義（先行研究等との関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、データおよび素材の収集方法（計画、実行内容、妥当性）、整理・分析の方法（適切な手順・方法等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）をもって評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

卒業演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	17	データ入力、分析と集計
2	各自の研究テーマ候補報告	18	データ入力、分析と集計
3	各自の研究テーマ決定	19	データ入力、分析と集計
4	卒業論文研究計画書の作成	20	データ入力、分析と集計
5	論文・参考文献等の検索方法	21	データ入力、分析と集計
6	先行研究等の資料収集	22	データ入力、分析と集計
7	個別指導	23	個別報告と指導
8	個別指導	24	個別報告と指導
9	個別指導	25	個別報告と指導
10	個別指導	26	卒業論文発表会
11	中間発表	27	卒業論文発表会
12	調査票作成	28	卒業論文発表会
13	調査票作成	29	卒業論文集製作
14	個別報告と指導	30	卒業論文集製作
15	個別報告と指導	31	まとめ
16	個別報告と指導		

【履修上の注意事項】

個別指導中心となるが、必要に応じて演習を行う。演習時には活発な議論を求める。

【評価方法】

論文作成の過程と最終的に提出された論文を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫：編 2003年

【参考文献】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

卒業演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱで積み上げた研究成果を振り返りつつ、卒業論文を作成することを目標とする。論文を作成するプロセスにおいては、自分の研究を深めると共に、他のゼミ生の研究成果からも学び、互いに高め合いながら社会福祉を学術的に問う。

演習では、パワーポイントやレジюмеを準備して研究成果を伝える練習も行う。

【授業の展開計画】

前期：

- ①研究計画作成
- ②個人面談
- ③中間報告

後期：

- ①個人面談
- ②中間報告
- ③卒業論文集の作成
- ④発表会

【履修上の注意事項】

卒業論文作成においては、主体的に取り組む姿勢が求められる。

また、講義や就職活動、国家試験の準備等との両立を図るための工夫と努力が求められる。先行研究、先行調査を収集する際、図書館の機能を活用することを勧める。

【評価方法】

卒業論文作成の取り組み状況
ゼミ活動への積極的参加
出席状況

【テキスト】

【参考文献】

演習の時間に随時情報提供する。

地域福祉の理論と方法

担当教員 -上地 武昭

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

○地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。○地域福祉の主体と対象について理解する。○地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。○地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。○地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	地域福祉の基本的考え方・概念と範囲	17	地域における社会資源の活用・調整・開発の
2	地域福祉の理念・定義	18	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
3	地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁	19	質的な福祉ニーズの把握方法と実際
4	護）	20	量的な福祉ニーズの把握方法と実際
5	地域福祉の発展過程	21	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
6	地域福祉における住民参加の意義	22	地域トータルケアシステムに必要な要素
7	地域福祉におけるアウトリーチの意義	23	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
8	地域福祉の主体と対象について理解する	24	地域における福祉サービスの評価方法と実際
9	社会福祉法（地域福祉の推進）	25	ストラクチャー評価、プロセス評価、アウト
10	行政組織と民間組織の役割と実際	26	ストラクチャー評価、プロセス評価、アウト
11	地方自治体、社会福祉法人、特定非営利活動	27	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域
12	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域	28	（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活
13	専門職や地域住民の役割と実際	29	地域福祉の主体と対象について理解する。
14	社会福祉士、社会福祉協議会の地域福祉活動	30	地域福祉の推進方法について理解する。
15	ネットワーキング（多職種・多機関との連携	31	試験・講義評価・地域福祉の推進課題につい
16	ネットワーキング（多職種・多機関との連携		
16	地域における社会資源の活用・調整・開発		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席30%、提出物30%、試験40%で評価する。

【テキスト】

中央法規『地域福祉の理論と方法』

【参考文献】

知覚心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため本講は、さまざまな感覚・知覚刺激の観察や簡単な実験などの体験を行いながら進める。さまざまな知覚体験をきっかけに、人間が外界（身の周りの環境）を理解する基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組みについて興味・関心を持ち、心理学では知覚についてどのように捉え研究しているのか理解して欲しい。日頃は意識しない”知覚というこころの働き”について目覚めてほしい。

【授業の展開計画】

この講義は、感覚・知覚実験および認知的実験を体験し、その結果について実験グループやクラス全体でディスカッションを行い、知覚の働きについて考えるという形式で進める予定である。実験の材料によって1～2週かけて行うものや、3～4週に渡る場合もある。とり上げる実験と詳細な講義計画については、初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・実験グループづくり
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
3	実験①盲点の測定・視野測定
4	実験②五感を意識するワーク
5	実験③残像と恒常性
6	実験④色覚①
7	実験⑤色覚②
8	実験⑥視野融合
9	実験⑦注意①
10	実験⑧注意②
11	実験⑨重量弁別①
12	実験⑩重量弁別②
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学概論、もしくは共通科目の心理学Ⅰを履修済みであると理解しやすい。様々な実験器具や材料を使用した小グループでの実験を行うため、希望者が多い場合、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録を行う。
- ・知覚心理学では、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」が大切なので、授業や実験に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲のある学生の受講を希望します。

【評価方法】

出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定

【テキスト】

特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する

低所得者に対する支援と生活保護制度

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国外・国内を問わず社会経済状況は不安定な様相を呈しているが、これまでも、様々な生活問題は、社会構造、生活構造に大きく左右されてきた。貧困、低所得により困窮する市民生活に対して、「公的扶助」を中心とした社会保障・社会福祉制度がセーフティーネットとしての役割を果たしてきた歴史的展開、また「生活保護制度」の具体的な実施方法について学習する。制度の実施に当たって、ソーシャルケースワーカーの役割、支援の在り方について、多くの事例を提示する等により考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	公的扶助の概念及びその意義と役割について
2	社会情勢と貧困・低所得者の生活問題について
3	公的扶助制度の歴史(海外、日本)及び近年の動向
4	生活保護制度の仕組み(原理、原則)について
5	同 (保護の種類)、(権利・義務について)
6	生活保護の財源について
7	生活保護基準の算定方法について
8	生活保護動向について(1)
9	生活保護動向について(2)
10	低所得者対策(生活福祉資金貸付制度)
11	ホームレス対策について
12	福祉事務所及び関係機関の役割について
13	ケースワークの実際とワーカーの役割について
14	生活保護における自立支援の在り方について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座「低所得者に対する支援と生活保護制度」第2版 中央法規

【参考文献】

都市社会学 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解釈すること、つまり都市的世界や空間のありよう、そしてミクロな領域（私たちの日常の行為や心的性向）との関連について理解するための理論的視座を学習する。Iでは、近代ヨーロッパと初期都市研究およびアメリカ・シカゴ学派都市社会学などを中心に上げ、日本の都市社会（学）への影響について考えていく。また、ブラック・ソシオロジーによる都市研究について言及する。さらに、理論的枠組みのみならず「都市の空間構造とインナーエリアの特質」「都市エスニシティと貧困・差別問題」「抵抗としての文化運動」など、具体的な諸事象を取り入れて学習していくことを目的とする。

【授業の展開計画】

授業の展開計画 毎回の講義に際しては、前回講義の「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学的研究の意義
2	「都市」「都市化」とは何か？—都市社会学の基本的視座—
3	都市社会への理論的まなざし①—近代ヨーロッパ都市と分節化の政治—
4	—合理性、知性、市場経済
5	—野蛮性、収奪、奴隷
6	都市社会への理論的まなざし②—移民国家アメリカの都市社会とシカゴ学派
7	—アメリカ合衆国の都市化とその歴史的背景
8	—シカゴ学派の理論的枠組み（形式社会学／進化論／生態学）
9	—同心円地帯モデルと進化の空間図式
10	—映像でみるアメリカ都市の空間構造
11	都市社会への理論的まなざし③—デュボイスの都市研究とブラックソシオロジー
12	—デュボイスの都市研究とその功績
13	—ブラックソシオロジーの再検討
14	—マイノリティへのまなざしと身体・空間の政治
15	都市社会学 I の総括
16	

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行うが、個人およびグループによる学習を取り入れることもあるので、受講生の積極的な取り組み姿勢も重視する。

【評価方法】

出席状況（20%）、個人またはグループによるミニ課題の提出と内容（20%）、期末レポート課題（60%）の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

町村敬志、西澤晃彦著『都市の社会学』有斐閣のほか、講義の中で適宜紹介していく。

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解釈すること、つまり都市的世界や空間のありよう、そしてミクロな領域（私たちの日常の行為や心的性向）との関連について理解するための理論的視座を学習する。Ⅱでは、日本の近代化と都市化の様相および都市社会学の展開、さらに「空間論」「権力論」をベースに、集合的消費の問題について考える。とくに、マルクス主義都市社会学を学んだうえで、戦後日本の「アメリカニズム」や、大型ショッピングモールを中心とした都市空間のありようを読み解き、〈テーマパーク化する都市〉の問題と可能性を学生自ら模索するような経験的学習の講義内容となる。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学Ⅱへの招待
2	日本における近代的都市化①—1920年代を中心に
3	日本における近代的都市化②—1950年代後半～1960年代を中心に
4	日本における近代的都市化③—1980年代後半～90年代初頭を中心に
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関論と「正常人口の正常生活」概念
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間論とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論の台頭
8	日本における都市社会学の展開④—マルクス主義の波及と資本・国家・空間の文脈
9	日本における都市社会学の展開⑤—空間の生産主体論と都市エスノグラフィ
10	空間の権力性に関する理論的視座①—空間の権力性に関する理論的視座
11	空間の権力性に関する理論的視座②—「郊外」というせめぎあう舞台
12	空間の権力性に関する理論的視座③—アメリカ化／マクドナルド化と集合的消費
13	空間の権力性に関する理論的視座④—テーマパーク論のテキスト
14	空間の権力性に関する理論的視座⑤—テーマパーク化する都市空間とショッピングモール
15	都市社会学Ⅱの総括
16	

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行うが、個人およびグループによる学習を取り入れることもあるので、受講生の積極的な取り組み姿勢も重視する。

【評価方法】

出席状況（20%）、個人またはグループによるミニ課題の提出と内容（20%）、期末レポート課題（60%）の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

町村敬志、西澤晃彦著『都市の社会学』有斐閣のほか、講義の中で適宜紹介していく。

動作法

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

動作法は心理療法の一つである。自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させるものである。姿勢や動作の改善や、ストレスマネジメントなど様々な対象者への心身の援助に効果を発揮している。この授業では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法として活用することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション ー相手の身体に触れることに関する諸注意ー
2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～
3	動作法による援助の基礎
4	動作法の援助の考え方と基本
5	リラクセーションの見方、考え方
6	リラクセーションの実技 軀幹 1
7	リラクセーションの実技 軀幹 2
8	リラクセーションの実技 肩を中心としたリラクセーション
9	リラクセーションの実技 股関節を中心としたリラクセーション
10	リラクセーションの実技 総合
11	動作法の臨床事例
12	タテ系動作課題について
13	座位姿勢の実技①
14	座位姿勢の実技②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

本授業では催眠や動作法について、実習を通して、受講者が互いに援助者体験・被援助者体験をする。相手のところに深く関わる技法であるため、実技では相手を思いやり、相手のところを踏みにじらないことが絶対の条件である。そのため、実技の際にこれらを犯す者は動作法を行う資格に欠けると判断し、受講を取り消すことがある。実技の際には、床に座ることや横になることが多いので、動きやすい服装で受講すること。

【評価方法】

出席、受講中の態度や実技実習への取り組み、毎回のミニレポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

「動作法ハンドブック 基礎編」 慶応大学出版

認知心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、認知心理学の主要なテーマである、知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識などについて、認知心理学の研究の知見について、文献を読みワークを行うことで理解していく。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、考え、ディスカッションをしていく。認知心理学の知見を日常生活と結びつけながら、ひとの認知過程について具体的に理解していくことを目指す。

【授業の展開計画】

講義の初回には、より詳細なシラバスを配布し説明する。クラスの状況によっては講義の計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを再配布し説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	認知とは・認知心理学とは
3	日常における認知過程
4	知覚①
5	知覚②
6	記憶①
7	記憶②
8	注意と意識①
9	注意と意識②
10	認知と情動
11	言語
12	思考・創造性
13	問題解決・考える技術①
14	問題解決・考える技術②
15	認知とは・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

授業では、「ものごと認識すること、理解すること、考えること」というこころの働きと日常における「認知と感情と行動の関係」について、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。

【評価方法】

出席：感想シート、クイズへの回答などをもって出席点とする。
 ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

授業時に適宜配布する。

発達心理学 I

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史概説する
3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する
4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）
5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）
6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）
7	発達理論④：主要な理論について紹介する
8	胎児期：胎児期の発達の様子
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②
12	児童期：児童期の発達の様子
13	青年期①：青年期の課題①
14	青年期②： 〃 ②
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・過度の遅刻、私語、携帯電話の使用など、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「（新版）発達心理学への招待（人間発達をひも解く30の扉）ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達心理学Ⅱ

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達理論①：主要な理論について紹介する
3	発達理論②：主要な理論について紹介する
4	発達理論③：主要な理論について紹介する
5	胎児期から青年期①：概観①
6	胎児期から青年期②：概観②
7	青年期：青年期の課題
8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題
9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応
10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題
11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応
12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題
13	発達課題について：まとめ
14	発達研究：展望と課題
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・過度の遅刻、私語、携帯電話の使用など、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「（新版）発達心理学への招待（人間発達をひも解く30の扉）ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達臨床心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は前期開講の障害児・者心理学を基礎として、学習障害、注意欠陥/多動性障害、自閉症スペクトラム障害、知的障害を主な対象とした発達障害の心理臨床について概説をする。おもな授業内容は発達障害のアセスメントおよび発達障害の理解と支援に際しての基礎理論、そして心理臨床としてコミュニケーション支援、日常生活支援の実践そして親支援に関するテーマを取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：発達障害概論
- 第3回：発達障害とアセスメント（1）
- 第4回：発達障害とアセスメント（2）
- 第5回：発達障害支援の基礎理論（1）
- 第6回：発達障害支援の基礎理論（2）
- 第7回：発達障害支援の基礎理論（3）
- 第8回：発達障害と心理臨床（1）
- 第9回：発達障害と心理臨床（2）
- 第10回：発達障害と心理臨床（3）
- 第11回：発達障害と心理臨床（4）
- 第12回：発達障害と心理臨床（5）
- 第13回：発達障害と心理臨床（6）
- 第14回：発達障害と心理臨床（7）
- 第15回：発達障害と心理臨床（8）
- 第16回：試験

【履修上の注意事項】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび試験により総合的に評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは評価の対象にはならないので、そのことは了解しておいて欲しい。特に授業に出席する際は、予習課題を十分に理解し、講義に臨んで欲しい。

【評価方法】

1. 予習レポート20%：次回の講義内容に関する課題を文献を使って調べ、講義開始までにメールで提出する。
2. 復習課題10%：その日の講義内容に関する課題を、講義終了時に配布し、次回の講義で提出。
3. 学期末試験70%

【テキスト】

資料を適宜配布するので特にテキストの指定はしない。授業の内容を深く理解するためには以下の図書は参考になる。

【参考文献】

『行動障害の理解と援助』長畑正道他編著 『自閉症とこころの臨床』小林隆児・原田理歩著 『発達障害の子どもたち』杉山登志郎著 『LD（学習障害）とADHD（注意欠陥多動性障害）』上野一彦著

犯罪心理学

担当教員 山入端 津由

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

犯罪や非行とは何かについて、犯罪・非行の研究史や、現代における犯罪・非行研究を通して学ぶ。また、社会行動としての犯罪・非行について、発生機序、深度及び、社会における統制・対処策についても学ぶ。基本的に、犯罪や非行について、社会・文化的な脈絡で理解することをめざす。

【授業の展開計画】

- 1 犯罪・非行はどのように理解されてきたか（総論）
- 2 犯罪・非行研究の歴史（犯罪の原因論）
- 3 犯罪・非行とは何か
- 4 犯罪・非行理解のモデル(1)
人は、どうして犯罪を冒すのか？
- 5 犯罪・非行理解のモデル(2)
人は、どうして犯罪を冒さないのか？
- 6 犯罪・非行理解のモデル(3)
犯罪・非行の人格要因と環境要因
犯罪・非行の類型論（動機論とラベリング理論等）
- 7 犯罪・非行の発生過程
- 8 犯罪・非行の手口と深度分析
- 9 犯罪・非行の予防と対策～犯罪・非行の抑止政策と背景理論
- 10 警察・検察、矯正・保護・司法の処遇システム
- 11 矯正教育と犯罪・非行
- 12 犯罪の被害者と修復
- 13 犯罪・非行と地域支援
- 14 社会・制度・逸脱・病理・狂気
- 15 講義のまとめと討議
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

毎回、講義内容についてのコメントを求めするので、きちんと講義を理解すること。

【評価方法】

理解度をみるためのテストを行う。その他、受講態度、発言回数等を参考にする。

【テキスト】

特に指定しないが、適宜、紹介する。

【参考文献】

- ① 細江達郎 2003 図解雑学 犯罪心理学 ナツメ社
- ② 大淵憲一 2006 心理学の世界 専門編4 犯罪心理学—犯罪の原因をどこまで求めるのか 培風館
- ③ 石田幸平・武井慎次（編） 犯罪心理学 東海大学出版会

福祉英語 I

担当教員 ーロビソソ サイソ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

To cover basic English from a communicative perspective, focusing on partnerwork where students will talk about themselves and ask and answer questions.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation, basic self-introductions - introduction, listening
2	Basic self-introductions - structured speaking practice, free speaking practice
3	Personal Information - introduction, listening
4	Personal Information - structured speaking practice
5	Personal Information - free speaking practice.
6	Can and Can't - introduction, listening
7	Can and Can't - structured speaking practice
8	Can and Can't - free speaking practice.
9	Time - listening, structured speaking practice
10	Daily Activities - listening, structured speaking practice
11	Daily Activities - free speaking practice.
12	Rooms - introduction, listening
13	Rooms - structured speaking practice, free speaking practice
14	Exam Preparation
15	Exam
16	Exam feedback, final speaking activity

【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important for this course, as is timely completion of the assignments.

【評価方法】

Students will be assessed based on a final speaking exam.

【テキスト】

Students will use Fifty Fifty Book One, available from the university bookshop

【参考文献】

福祉英語Ⅱ

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Student's will continue to develop their ability to speak in English about topics relating to themselves and their lives. They will also begin to write short English essays.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Talking about the past - introduction, listening
2	Talking about the past - structured speaking practice
3	Talking about the past - free speaking practice
4	Talking about the past - short presentation
5	Talking about the future - introduction, listening
6	Talking about the future - structured speaking practice
7	Talking about the future - free speaking practice
8	Talking about people - introduction, listening
9	Talking about people - structured speaking practice
10	Talking about people - free speaking practice
11	Talking about families - introduction, listening
12	Talking about families - structured speaking practice
13	Talking about families - free speaking practice
14	Exam preparation
15	Exam
16	Exam feedback and comments, final speaking activity.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Students will be assessed on their presentations and final speaking.

【テキスト】

Fifty Fifty Book One, available from the university bookshop

【参考文献】

福祉英語Ⅲ

担当教員 ーロビソソ サイモン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

To begin to develop the students' ability to discuss social issues in English

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Topic 1: Part-time jobs - hot seat activity
2	Topic 1: Part-time jobs - mind map
3	Topic 1: Part-time jobs - research share
4	Topic 1: Part-time jobs - video
5	Topic 1: Part-time jobs - agree and disagree lists
6	Topic 1: Part-time jobs - group then whole class debate
7	Topic 2: Car parking - hot seat activity
8	Topic 2: Car parking - mind map
9	Topic 2: Car parking - research share
10	Topic 2: Car parking - video
11	Topic 2: Car parking - agree and disagree lists
12	Topic 2: Car parking - group then whole class debate
13	Exam preparation 1 - deciding topics preparing lists
14	Exam preparation 2 - pair practice
15	Exam
16	Exam feedback and comments

【履修上の注意事項】

Students should ideally have taken 福祉英語I and II, although students without these requirements are welcome if they can demonstrate some basic conversational ability in English.

【評価方法】

The students will debate with their teacher for ten minutes on a topic of their choosing, in order to show that they have learned how to prepare for and conduct a debate.

【テキスト】

This course will use photocopied materials prepared by the teacher.

【参考文献】

福祉英語Ⅳ

担当教員 ーロビソソ サイモン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Students will begin to develop their ability to make presentations on topics of social importance.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Presentation 1: basic self-intro - explanation, demonstration, presentation, explanation
2	Presentation 2: self-introduction with photos - presentation
3	Presentation 3: a trip - explanation, demonstration, preparation
4	Presentation 3: a trip - presentation. Presentation 4: teach something - explanation,
5	Presentation 4: presentation. Presentation 5: 30 days - explanation, demonstration
6	Presentation 6: an explanation - explanation, demonstration
7	Presentation 6: presentation
8	Explain Exam. Presentation 7: a movie etc - explanation, demonstration
9	Presentation 7: a movie etc - preparation
10	Presentation 7: a movie etc - presentation
11	Presentation 4: 30 days - presentation
12	Explain Exam, demonstration
13	Exam preparation
14	Exam presentation 1
15	Exam presentation 2
16	Exam feedback, course feedback and discussion

【履修上の注意事項】

Students will have ideally taken 福祉英語I, II, and III. However students who can demonstrate basic English speaking ability are welcome to take this course.

【評価方法】

Students will make a presentation on a topic of their choice as the final exam. This presentation will be graded by the teacher.

【テキスト】

This course will use photocopied materials prepared by the teacher.

【参考文献】

福祉行財政と福祉計画

担当教員 金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

従来の福祉実践は、国が立案する社会福祉制度の枠組みに基づいて実施されてきたが、1990年代以降の市町村を中心とするサービス提供が展開されるなど実施主体が幅広い参入が促進されるようになった。こうした社会福祉基礎構造改革後の動向についてまとめるとともに、社会福祉制度の基盤について学習、財政の動向及びこれらの具体的な実施計画である福祉計画の仕組み、実態についてほりさげていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	福祉とは、社会福祉とはについて考える。
2	社会福祉制度の展開過程について
3	国と地方自治体の関係、行財政改革の動きについて
4	社会福祉基礎構造改革について
5	福祉財政について(1)
6	同 (2)
7	福祉専門機関とその役割
8	相談体制と専門職の役割
9	福祉計画の目的・意義について
10	各福祉計画の概要について
11	福祉援助の現場と福祉計画の検証(1)
12	福祉援助の現場と福祉計画の検証(2)
13	福祉計画における住民参加の在り方について(1)
14	福祉計画の評価について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 第10巻「福祉行財政と福祉計画」第2版 中央法規

【参考文献】

福祉サービス組織と経営

担当教員 一名 嘉 隆一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉施設・福祉サービス組織と経営の基本的知識

【授業の展開計画】

社会福祉は措置時代から利用者契約時代へと変化している。その根底には個の時代という認識がある。社会福祉基礎構造改革や介護保険制度・支援費制度の導入により社会福祉施設・福祉サービス組織を取り巻く経営環境は大きく変化している。少子超高齢化社会に向かい子どもおよび老人福祉等の需要が一段と高まっているが、国も地方自治体の財政も逼迫している。そのような財政環境のなかで、経営基盤を確立し、利用者へのサービスの管理の充実と共に在宅福祉サービスの提供、家族再生への支援など福祉施設の社会化、福祉施設・福祉サービス組織の社会資源化が叫ばれている。従ってより高度な法人・施設等の経営が求められている。本講義では、その基本的・実践的知識を学ぶ。

《後期》

- 社会福祉施設の体系と制度
- 社会福祉施設経営と社会福祉法人の課題
- 社会福祉施設・福祉サービス組織におけるサービス管理、財政管理、人事管理（人材育成）
- 利用者のニーズとサービス管理～高齢化介護施設等を素材として～
- 社会福祉施設・福祉サービス組織と地域社会
- 経営環境の変化とその対応

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で指示

【テキスト】

教員が講義資料作成

【参考文献】

講義資料の中で指示

福祉レクリエーション技術 I

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

レクリエーションは、人と人との交流、心身の健康づくりを目的とした活動である。この授業では、コミュニケーション・ワークの技法、さまざまなレクリエーション財（ゲーム、ダンスをはじめ、さまざまなアクティビティ）を活用したレクリエーション支援を学びます。「レクリエーション・インストラクター」（資格）としての基礎的技能を身につけます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業内容の確認）
2	アイスブレイキング ゲーム&レクダンス
3	〃 〃
4	コミュニケーションゲーム&レクダンス
5	〃 〃
6	〃 〃
7	目的にあわせたレクリエーション・ワーク
8	対象にあわせたレクリエーション・ワーク
9	演習 1
10	演習 2
11	演習 3
12	レクリエーション・リーダーシップトレーニング（1泊キャンプ）
13	〃 〃
14	〃 〃
15	まとめ
16	評価（実技テスト）

【履修上の注意事項】

「レクリエーション理論」とセットで履修すること。
 ※「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指す科目である。

【評価方法】

実技テスト（60%）、授業への取組（20%）、出席状況（20%）

【テキスト】

『レクリエーションゲーム・全集』日本レクリエーション協会監修 ¥1,000
 『レクリエーション支援の基礎』「レク理論」で使用しているテキストと同じ。

【参考文献】

『福祉レクリエーション援助の方法』（公）日本レクリエーション協会監修
 『福祉レクリエーション援助の実際』（公）日本レクリエーション協会監修

福祉レクリエーション技術Ⅱ

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

レクリエーションは、人と人との交流、心身の健康づくりを目的とする活動である。この授業では、レクリエーション支援の応用技術を身につけることを目的とする。※下記の授業計画の外に、地域の「レクリエーション行事」に2回以上参加する。「レクリエーション・インストラクター」の資格取得を目指す科目である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業内容の確認）
2	ホスピタリティ トレーニング
3	ウチナーグチ（方言）によるコミュニケーション技法
4	〃 〃
5	コミュニケーション・フォークダンス
6	〃 〃
7	沖縄の踊り
8	〃
9	素材・アクティビティ収集・整理
10	遊びを創る（グループ演習）
11	〃（発表）
12	現場実習（事業参加）報告
13	楽しい集いの企画
14	〃（展開）
15	まとめ
16	評価（実技テスト）

【履修上の注意事項】

「福祉レクリエーション技術Ⅰ」履修後に登録する。
※「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指す科目である。

【評価方法】

実技テスト（60%）、授業への取組（20%）、出席状況（20%）

【テキスト】

『レクリエーション支援の基礎』（レク理論）で使用したテキストと同じ）

【参考文献】

『福祉レクリエーション援助の方法』（公）日本レクリエーション協会監修
『福祉レクリエーション援助の実際』 〃 〃

フレッシュマンセミナー

担当教員 岩田 直子、ウィルコックス、安次富 郁哉、桃原 一彦、保良 昌徳（5クラス）

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。なお、後期開講の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」と同じアカデミックアドバイザーのクラスに登録すること。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング専攻学生と）の合同プログラムも予定している。つまり、5月には福祉・心理専攻新入生合同の“一日研修”を本学体育館で開催し、福祉レクや心理学的ゲーム、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別の個別ゼミにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行う。その中では、アカデミックアドバイザーによる個別の履修指導やその他学生生活の相談等も行う。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけること。

【評価方法】

全体ゼミや個別クラスにおける出席状況を重視するが、個々のプログラムに取り組む姿勢等も考慮する。なお、最終評価は各アカデミックアドバイザーからの報告をもって行う。

【テキスト】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

北欧の社会と福祉制度

担当教員 保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講では、福祉国家の中で最も社会保障・社会福祉制度の進んだ国と言われるスウェーデン、デンマークを中心に取り上げる。講義では、両国を含む北欧諸国全体の歴史的ななごれを概観する。特に、福祉国家としての成立過程を中心に戦後のなごれについて理解する。また二つの国の社会・文化・人々の生活・考え方等について理解を深める。

また、これらの国の福祉施策の概要について理解を深め、それぞれ日本の社会福祉制度との比較することによって、北欧や日本の福祉の将来像についても考察する。

【授業の展開計画】

本講では、以下のようなトピックを取り上げ、オムニバス方式で講義する。（詳細は後日提示する）

1. 北欧社会の理解
 - ・ 北欧の自然・地理的状況
 - ・ 北欧社会の産業、政治形態
 - ・ 北欧の生活様式、国際比較
 - ・ 北欧社会の民族性・考え方
 - ・ 北欧国家群の現在と国際的地位
2. 北欧社会のなごれ
 - ・ 北欧全体の歴史と関係
 - ・ スウェーデンの歴史
 - ・ スウェーデンの福祉国家として成立過程
 - ・ スウェーデンの社会保障の概要
 - ・ デンマークの歴史
 - ・ デンマークの福祉国家として成立過程
 - ・ デンマークの社会保障の概要
3. 社会福祉
 - ・ 障害者・高齢者に対する社会サービス
 - ・ 家庭・児童に対する社会サービス
4. まとめ
 - ・ 福祉国家の類型と今後の展望
 - ・ 北欧に学ぶ点
 - ・ まとめ

【履修上の注意事項】

1. 北欧の社会に関心のある学生の受講を期待する。
2. 講義では、視聴覚教材を活用するため、A Vホール等を活用するので、教室の変更等に注意すること。
3. 資料の収集などの課題を課す。（レポート提出の期日を守ること）

【評価方法】

1. 出席状況、受講態度、レポートの提出状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

1. 必要に応じ資料を配付する。
2. 事前に収集した資料等を活用する。

【参考文献】

1. 必要に応じて提示する。

保健医療サービス

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国における保健医療サービスの基本的な構造と変遷を習得する。また、高齢社会を背景として、保健・医療・福祉の連携が重要となってきたが、その理論と実践について学ぶ。さらに、保健医療サービス提供に関わる専門職の役割と相互の連携のあり方、チームケアのあり方を理解する。

これからの社会福祉士に求められるのは、単に福祉の知識のみでなく、保健・医療の知識を含めた総合力であることを念頭において受講すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	保健医療サービスとその構成要素
3	保健医療サービス提供施設① 病院ってなに？診療所ってなに？
4	保健医療サービス提供施設② いろいろな種類の病院があるんだね。
5	保健医療サービス提供施設③ 老人保健施設
6	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療従事者 社会福祉士
7	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカーって？
8	関連法規：医療法①
9	関連法規：医療法②
10	関連法規：介護保険制度と介護報酬
11	保健医療サービスの連携の理論と実践① 専門職との連携
12	保健医療サービスの連携の理論と実践② 専門職との連携
13	保健医療サービスの連携の理論と実践① 社会資源間連携
14	保健医療サービスの連携の理論と実践② 社会資源間連携
15	講義の振り返り
16	試験実施

【履修上の注意事項】

社会福祉士の資格取得を考えている学生には重要な科目である。特に医療ソーシャルワーカーを目指す学生の皆さんは、相談援助実習対象学年（3年）前に履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況及び学期末に実施する試験、複数回実施する復習試験で総合的に評価する。

【テキスト】

「保健医療サービス」 社会福祉士養成講座（中央法規）

【参考文献】

「国民衛生の動向」「厚生労働白書」「国民福祉の動向」「高齢社会白書」など。また、講義の中で随時紹介する。

ボランティア・NPO論

担当教員 千住 直広

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	NPO、ボランティアとは
3	社会の発展
4	社会学的想像力
5	社会のしくみ
6	市民社会とは
7	メディアリテラシー、リサーチリテラシー
8	地域を知る方法
9	地域を変える方法①
10	地域を変える方法②
11	地域を支える経済的しくみ①
12	地域を支える経済的しくみ②
13	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②
15	
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

ボランティア演習

担当教員 砂川 亜紀美、酒井 ひろ子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習は、①実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援する専門家（ボランティアコーディネーター）として活動できる人材を育成することを目的とする。取り組み方法としては、ボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げる。さらに、実践したことから得られた成果や課題等を明確にするために活動報告会及び報告書作成を行う。

【授業の展開計画】

*本科目は2名の講師によりオムニバス形式で開講する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	大学内ニーズの発掘①
2	仲間づくりのためのアクティビティ	18	大学内ニーズの発掘②
3	ボランティア活動の原則	19	ボランティアに関する企画・設計①
4	ノートテイク講座①	20	ボランティアに関する企画・設計②
5	ノートテイク講座②	21	ボランティアに関する企画・設計③
6	ノートテイク講座③	22	ボランティア活動の実践①
7	ノートテイク講座④	23	ボランティア活動の実践②
8	ノートテイク講座⑤	24	ボランティア活動の実践③
9	ノートテイク講座⑥	25	ボランティア活動の実践④
10	ノートテイク講座⑦	26	ボランティア活動の実践⑤
11	ボランティアコーディネートについて①	27	活動のまとめ
12	ボランティアコーディネートについて②	28	活動報告会の準備①
13	大学内ニーズの発掘①	29	活動報告会の準備②
14	大学内ニーズの発掘②	30	活動報告会の実施
15	前期まとめ	31	振り返り
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ①グループ活動では、知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組むこと。
- ②各自、一年をとおしてボランティア活動に取り組むことが望ましい。
- ③福祉・ボランティア支援室などを活用し、ボランティアに関する情報を積極的に収集すること。

【評価方法】

授業への出席状況、受講態度（課題に対する取り組みやグループ活動に対する積極性など）、ボランティア活動状況（活動報告書提出状況）、等により総合的に評価する。

【テキスト】

「大学ノートテイク支援ハンドブック」日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク情報保障評価事業グループ
編著 人間★社 2007

*その他、その都度資料等を配布する。

【参考文献】

- ①「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」ふくろう出版 2008
 - ②「ボランティア・コーディネーター—その理論と実際—」大阪ボランティア協会 1997
- その他、演習の中で適宜紹介する。

ライティング・スキル

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語教育の手法も採用して、日本語の作文技術を、実践的に習得することをめざす。基礎的な練習問題を繰り返し、実際にレポートを作成することが授業の中核となるので、授業に主体的に参加しなければ単位は取得できない。各人が書いたものを全員で添削するなど授業の素材としてもちいる。論理学の初歩も教える。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す（公欠等で出席できないときはメール（mkoyanagi@okiu.ac.jp）であらかじめ相談すること）★

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(欠席者は登録を取り消す)
2	パラグラフ・ライティング – トピック・センテンスとサポーター・センテンス
3	文体と表現
4	小レポート（1）の作成・添削1
5	小レポート（1）の作成・添削2
6	小レポート（1）の作成・添削3
7	論理の基本（1）論理的であるとはどういうことか
8	論理の基本（2）演繹・帰納・仮説演繹法
9	中レポートの作成・添削1
10	中レポートの作成・添削2
11	中レポートの作成・添削3
12	中レポートの作成・添削4
13	小レポート（2）の作成・添削1
14	小レポート（2）の作成・添削2
15	中レポート修正版の発表1
16	中レポート修正版の発表2

【履修上の注意事項】

授業への実質的で積極的な参加を強くもとめる。受講者それぞれが書いたものは授業の素材としてすべて公開してもちいる。自分の言いたいことをきちんと書いたり話すことができ、他人の言いたいことをきちんと読んだり聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室では私語は厳禁。質問は原則授業中に行うこと（問題を教室で共有する）。第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。

【評価方法】

授業への実質的な関わり（課題の提出や発言の記録）とファイルを総合的に評価する。レポートや添削コメントの提出は単位取得の必要条件。

【テキスト】

課題や資料を整理・保管するファイル類を各自準備すること（課題や資料の整理方法も評価の対象とする）。資料を配付する他、授業の展開に応じて別途指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学 I」においては、臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域
3. 臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準
4. 臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）
5. 臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）
6. 臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）
7. 臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）
8. 臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）
9. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）
10. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）
11. 臨床心理学的方法：心理療法 1（来談者中心療法・認知療法など）
12. 臨床心理学的方法：心理療法 2（箱庭療法・芸術療法など）
13. 臨床心理学的方法：心理療法 3（家族療法・短期療法）
14. 臨床心理学的方法：心理療法 4（家族療法・短期療法）
15. 臨床心理学的方法：まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

各講義時に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学の学問的な位置づけと諸理論、技法について幅広く学ぶ。さまざまな心の問題について考え、臨床心理学としてどうとらえ、関わっていくのかについて紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	臨床心理学とは
3	臨床心理学の実践
4	臨床心理学の理論と技法 (1) 精神分析療法、クライアント中心療法など
5	臨床心理学の理論と技法 (2) 認知行動療法ほか
6	臨床心理学の理論と技法 (3) 家族療法、コミュニティ心理学など
7	アセスメント (1) 検査法
8	アセスメント (2) 知能検査を中心に
9	発達障害 (1)
10	発達障害 (2)
11	臨床心理学の対象となる心の問題 (精神障害を中心に)
12	臨床心理学の対象となる心の問題 (家族関係、認知症など)
13	臨床心理学の研究活動 (実践に関する研究)
14	臨床心理学の社会的専門性 (諸領域にわたる心理援助、職業倫理)
15	これまでのまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害1：特徴について
3. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害2：対応について
4. 臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割
5. 臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析
6. 臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー
7. 臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト
8. 臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）
9. 臨床心理学的トピック1：治療的コミュニケーションの語用論
10. 臨床心理学的トピック2：短期療法と治療言語
11. 臨床心理学的方法：短期療法1（MRIアプローチ）
12. 臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）
13. 臨床心理学的トピック3：青少年の薬物依存
14. 臨床心理学的トピック4：心と現代の脳科学
15. 全体のまとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題についての理解をより深めるため、架空事例を取り上げて解説する。また、予防的観点からの取り組みについても紹介する。この講義を通して、対人援助の基礎や柔軟な視点を持つということについて学んでほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	青年期の課題について
3	自我の発達論について
4	検査法 (1) 質問紙法
5	検査法 (2) 投影法
6	発達障害 (大人のアスペルガー症候群)
7	学校臨床について
8	強迫性障害について
9	気分障害について
10	統合失調症について
11	人格障害について
12	依存症について
13	自殺予防の取り組み
14	解決志向アプローチ
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床面接法 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理臨床の支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取る。講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見る力、考える力を伸ばすことをねらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理臨床的援助のモデル、心理臨床的援助の過程
3	正常と異常、自我の機能と病態水準
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）
5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）
7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。（同時履修は可能）

講義中の私語や携帯電話は厳禁。受講者参加型の講義形式をとるため、受講者には自ら積極的に考える態度を求める。毎回の講義の後に講義・ディスカッションでの感想を提出する。抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する予定である。

【評価方法】

出席状況・毎回の授業の感想、及び期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床面接法Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. はじめに（臨床面接の技法）
2. クライエントの話
3. 感情の反射
4. 焦点づけ
5. クライエントの質問
6. カウンセラーの質問（1）
7. 話し手と聞き手
8. 対話分析
9. クライエントへの応答
10. カウンセラーの質問（2）
11. カウンセラーの質問（3）
12. ケース理解
13. カウンセリングの実際
14. 援助的応答（1）
15. 援助的応答（2）
16. 学期末試験

【履修上の注意事項】

授業では、ペアや小グループでのワークが中心になる。段階を踏みながら臨床面接技法を身につけていくので、遅刻や欠席は厳禁。最後まで主体的な態度・姿勢で出席できる学生のみ受講してほしい。

【評価方法】

毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料とワークシートを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

レクリエーション理論

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

労働時間の短縮や人の寿命が延びたことによって、人生の余暇時間が著しく増えた。余暇時間の活用やレクリエーションを取り込んだ新しいライフスタイルの構築こそ人生の生活課題といえる。高齢社会においては、レクリエーション支援、レクリエーション事業が社会的課題でもある。

この授業では、余暇やレクリエーションの意義を正しく理解し、現代社会における労働と余暇、生涯学習及びスポーツ、特に、社会福祉との関連においてレクリエーションの効用、レクリエーション支援、レクリエーション事業及びコミュニケーション・ワークについて学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業内容の確認）
2	これからの社会とレジャー・レクリエーション
3	レクリエーションとは
4	レクリエーション運動の歴史とその背景
5	レクリエーション支援
6	ライフスタイルとレクリエーション
7	高齢社会の課題とレクリエーション
8	福祉レクリエーションの内容
9	レクリエーション事業Ⅰ
10	レクリエーション事業Ⅱ
11	レクリエーション活動の安全管理
12	ホスピタリティの捉え方
13	アイスブレイキングの意義及びプログラミング
14	レジャー・レクリエーションの国際比較、余暇能力
15	まとめ
16	レポート発表

【履修上の注意事項】

「福祉レクリエーション技術Ⅰ」とセットで履修する。
 ※「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指す科目である。

【評価方法】

レポート提出及びプレゼンテーション（60%）、授業への取組（20%）、出席（20%）

【テキスト】

『レクリエーション支援の基礎』 ¥2,100 （公）日本レクリエーション協会編

【参考文献】

『福祉レクリエーション援助の方法』（福祉レク・ワーカーテキスト）（公）日本レクリエーション協会編
 『福祉レクリエーション援助の実際』（ ） （ ） （ ）

老年学概論 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び、問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation (オリエンテーション)
2	Challenge of Global Aging (世界全体の高齢化への挑戦)
3	Aging Japan: Healthy Urbanization and Aging (日本の高齢化社会)
4	Facts on Aging Quiz (高齢者に関するクイズ)
5	History of Aging and Images of Aging(高齢化社会の歴史と老化のイメージ)
6	Biology of Human Aging I (加齢の生物学的理論 I)
7	Biology of Human Aging II (加齢の生物学的理論 II)
8	Biology of Human Aging III (加齢の生物学的理論 III)
9	Aging, Disability and Frailty I (加齢と障がいの理解 I)
10	Aging, Disability and Frailty II (加齢と障がいの理解 II)
11	Healthy Aging: Cross National Perspectives I(健康長寿:国際的な展望 I)
12	Healthy Aging: Cross National Perspectives II(健康長寿:国際的な展望 II)
13	Psychological Aspects of Aging I (加齢の心理的側面 I)
14	Psychological Aspects of Aging II (加齢の心理的側面 II)
15	Understanding Cognitive Disorders (認知症の理解)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生はテキスト、文献等を講義の前に読むこと。
- ・文献やクラス討論は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況(10%)、課題レポートの内容(10%)、講義中の議論内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著(1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。
 沖縄タイムス『長寿』取材班 (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日』 岩波書店。講義時に適宜紹介する。

老年学概論Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び、問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation オリエンテーション
2	Issues in Longevity Research in Japan:Missing Centenarians 日本における所在不明長寿者問題
3	Issues in Longevity Research Around the World 沖縄や日本と世界の長寿の研究
4	Social Aspects of Individual Aging 社会生活と加齢の関係
5	Activities and Lifestyles of Older Americans 米国の高齢者の活動・ライフスタイル
6	Successful Aging in Cultural Context 社会的・文化的分文脈におけるサクセスフル・エイジング
7	Family, Friends and Social Support 家族、友人などのソーシャルサポート
8	Health Care and Long Term Care Issues I 医療・福祉と介護 I
9	Health Care and Long Term Care Issues II 医療・福祉と介護 II
10	Social Policy, Politics and Government 社会的施策、政治と行政
11	Social Inequality and Health I 社会的不平等と健康 I
12	Social Inequality and Health II 社会的不平等と健康 II
13	Community Social and Services 地域サービス
14	Death, Dying and Hospice 死と死ぬこと、ホスピス
15	Spirituality, Aging and Health スピリチュアリティ、エイジングと健康
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生はテキスト、文献等をクラスの前に読むこと。
- ・文献やクラス討論は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況(10%)、課題レポートの内容(10%)、講義中の議論内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著 (1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。
 沖縄タイムス (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日—“食”、“健康”、“生き方”を見つめなおす』 岩波書店。